第3章
地域との連携

第3章 地域との連携

◈ 第１節　社南地区自治会連合会の活動 ◈

社南地区自治会連合会の組織

社南地区自治会連合会は、昭和56年に「社南地区町内連合会」の名称で発足したが、平成２年度からは、福井市で統一した「自治会連合会」の名称を使用することとなり、併せて30年が経過した。

現在では、35自治会が加入し、4,232世帯、12,608人(平成22年10月１日現在)の住民を抱える福井市内でも有数の住民組織となった。

当連合会は、同一地区に居住している住民間の連帯と親睦を深め、より良い地域を目指して、支え合いながら活動していく各自治会の連合から成り立つ組織であり、主な活動としては、行政と住民とをつなぐ役割のほか、環境美化、社会福祉、防災、防犯、青少年健全育成といった地域の安全で快適な暮らしを住民同士で守り、かつ助け合っていくものとなっている。

社南地区自治会連合会の30年のあゆみ

昭和56年４月　社地区が行政区域の統廃合により、社南地区と社北地区に分かれたため「社南地区町内会連合」の名称で発足することになった。
　　町内会数 52町内会　　世帯 3,113世帯　　人口 11,390人
昭和61年７月　冠婚葬祭簡素化申し合わせ
平成元年～　　渕２．３．５丁目が渕団地１号館に統合
　〃　　市制100周年記念事業に協力
　〃　９月　狐川を美しくする運動採択
平成２年～　　保養センター町内会削減
　〃　１月　「自治会連合会」に名称が統一され「社南地区自治会連合会」となる。
平成３年４月　社西地区誕生
　　10月　自治会数 31自治会　　世帯 2,744世帯　　人口 9,511人となる。
平成３年～　　西谷２丁目自治会誕生
平成４年～　　渕５丁目自治会誕生
平成５年　　地区人口１万人突破
平成６年９月　「うらがまちづくり社南地区委員会」が発足
平成８年～　　西谷３丁目自治会誕生

平成10年～　　クレール自治会誕生
平成13年３月　「21世紀わがまち夢プラン社南地区委員会」が発足
平成13年　　西谷２丁目自治会地区変更（西谷町へ）
　　誕生して20年目に自治会数 33自治会　　世帯 3,709世帯
　　人口 11,669人となる。(10月１日現在)
平成14年～　　ロアール社南自治会誕生
平成15年８月　狐川流域まちづくり協議会が発足（６地区）
平成17年～　　サニータウン江守自治会誕生
〃　４月　「社南未来委員会」が発足
〃　12月　児童館増設の改善要望書を提出
平成18年３月　「社南地区自主防災会連絡協議会」が発足
〃　４月　地区防災会費　１世帯150円に決定
〃　６月　市道「環状西線」の融雪についての要望書市へ提出
〃　12月　新至民中学校建設に伴う環境整備の要望書を提出
平成19年１月　「年賀式」廃止
〃　４月　地区防災会費　１世帯300円に決定
平成20年８月　旧至民中学校跡地に児童クラブ開設の要望書を提出
平成21年５月　特定猟具使用禁止区域(銃)の区域拡大について要望書を提出
〃　10月　社南地区の公園整備始まる（対象10公園）
平成22年10月　誕生して30年目に自治会数 35自治会　　世帯 4,232世帯
　　人口 12,608人となる。(10月１日現在)

平成21年度　社南地区自治会連合会事業報告

日　付	事　業　内　容
１月27日(火)	１月定例会（初会合、役員選出）
２月20日(金)	２月定例会（事業計画、予算、懇親会）
３月８日～15日	春の福井市を美しくする運動
３月21日(土)	３月定例会
４月19日(日)	社地区戦没者追悼式
21日(火)	４月定例会
５月20日(水)	５月定例会
６月20日(金)	６月定例会
７月12日～19日	夏の福井市を美しくする運動
７月22日(水)	７月定例会
25日(土)	納涼祭

日　付	事　業　内　容
８月８日(土)	忠魂碑（薙刀山）清掃
20日(木)	８月定例会
９月20日(日)	敬老会
24日(木)	９月定例会
10月11日(日)	体育祭
20日(火)	10月定例会
11月１日(日)	公民館まつり
20日(金)	11月定例会
12月６日～13日	冬の福井市を美しくする運動
12月18日(金)	12月定例会（事業報告、決算報告、懇親会）

平成21年度に実施した主な活動

○平成21年度総会

平成21年度社南自治会連合会総会は、平成21年１月27日(火)午後７時30分から、社南公民館において各自治会から35名の自治会長が参加して開催した。



毎月の自治会定例会

議事の平成20年度事業報告及び決算報告ならびに平成21年度事業計画及び予算案については、慎重審議の上、可決承認された。

○社地区戦没者追悼式の挙行

社南及び社西、社北で構成する「社地区」の平成21年度戦没者追悼式は、当地区自治会連合会が主体となって、平成21年４月19日(日)午前10時からＪＡ福井市社支店において、福井市長をはじめ来賓ご臨席のもと、遺族並びに関係者多数の参列をいただき厳かに式典が執り行われた。



忠魂碑清掃



社地区戦没者追悼式（平成21年度）

○三大行事の開催等

連合会の三大行事と言われる、納涼祭７月25日(日)、敬老会９月20日(日)、体育祭10月11日(日)については、自治会連合会が主催し、各々の行事において地域の連帯感の醸成が図られた。

その他、行政が呼びかけた「春・夏・冬の福井市を美しくする運動」に参画したほか、公民館や自主防災会連絡協議会が主催する「公民館まつり」や「自主防災訓練」等についても共催して積極的な支援活動を行った。


福井市を美しくする運動

○「社南未来委員会」の活動

平成17年に、誇りと夢・わがまちづくり創造事業で各種団体ならびに各自治会推薦の実行委員（現在の委員は135名）をもって組織された「社南未来委員会」は、自治会連合会長が会長を務めており、社南地区を安全で住みよい街づくりを目指し、住民自らの創意と工夫に基づいて、まちづくりの策定と実現に向けた活動を推進することを目的としている。

その主な活動としては、教育部会では「チャレンジ城山」「親子ふれあい体操」「エンジョイランニング」等を、環境部会は「花づくり講習会・花壇コンクール」「三世代クリーン作戦」「エコ学習会」など多種多彩の行事を主催し、老若男女を問わない地域住民の参加を得て、親交を深めるとともに、年間を通じて教養や健康の増進を図った。

その他、誇りと夢・わがまち創造事業の中においても、県外の先進的な団体に対する視察、交流を行う「はばたき交流会」活動を実施している。

○他地区との共生活動

活動を一地域に限定せず、その時々の要請や共通して抱える問題などを相互が連携、共存することによって、より良き解決の道を探るため、「狐川流域まちづくり協議会」「まちづくりフォーラム・城山サミット」「薙刀山忠魂碑保存」等、他地区と共生する行事にも積極的に参加した。

昭和56年度 社南地区自治会連合会 収支決算書

収入の部　　（単位：円）

項目	予算額	備考
町内負担金	1,187,400	前期 593,400円(2,967戸×200円)　後期 594,000円(2,970戸×200円)
雑収入	25,955	地区連合会活動助成金 12,000円　利子 8,955円　市政懇談会助成金 5,000円
繰越金	261,635	前年度の社地区町内連合会から
合計	1,474,990	

支出の部　　（単位：円）

項目	決算額	備考
奉賛事業費	75,898	戦没者慰霊祭 61,898円　花まつり助成 7,000円　聖徳太子奉賛会 7,000円
公安費助成	110,000	交通安全推進協議会 30,000円　防犯隊 60,000円　消防団 20,000円
公民館事業助成	713,000	体育振興会 280,000円　婦人会 70,000円　青年団 10,000円　公民館 110,000円 育成会 130,000円　敬老会 100,000円　補導員連絡会 13,000円
事務費	201,394	
交際費	58,000	香典 19,000円　餞別 10,000円　体育祭祝 5,000円　手当 24,000円
会議費	111,369	新年会南負担 43,326円　役員会懇親負担 40,000円　その他 20,543円
通信費	8,660	切手、葉書
消耗品費	11,365	感光紙、その他
雑費	12,000	門松、その他
予備費	200,000	社南公民館落成式 185,000円　市連合会負担金 15,000円
合計	1,300,292	

総収入額　1,474,990円　－　総支出額　1,300,292円　＝　差引残高　174,689円　(次年度へ繰越)

平成21年度 社南地区自治会連合会 収支決算書

収入の部　　（単位：円）

項目	予算額	決算額	備考
自治会費負担金	5,164,500	5,202,450	1,650円×3,153戸＝5,202,450円 (前期850円 後期800円) {体育大会350円・社協200円・市民憲章50円含む}
雑収入	30,009	19,436	貯金利息・市から助成金　他
繰越金	393,631	393,631	
合計	5,588,140	5,615,517	

支出の部　　（単位：円）

項目	予算額	決算額	備考
地区事業費	1,000,000	1,000,000	納涼祭・敬老会・公民館まつり　他
公民館助成金	776,000	780,600	公民館地区費　　管理運営費
各種団体等助成金	960,000	960,000	体育振興会(220,000) 婦人会(120,000) 子ども会育成会(110,000) 青少年育成市民会議(45,000) 壮年連絡協議会(25,000) 補導委員会(35,000) 老人連合会(45,000) 未来委員会(50,000) 伝統文化委員会(40,000) 教育メディア連絡協議会(40,000) 学校環境支援協議会(20,000) 青少年活動事業費(150,000) 地域子育て支援委員会(50,000) 狐川流域まちづくり協議会(10,000)
体育祭	1,095,500	1,103,550	保険料含む(3,153戸×350円)
地区社会福祉協議会	626,000	630,600	3,153戸×200円
奉賛事業費	20,000	0	戦没者追悼式
公安費助成	90,000	90,000	交通安全推進協議会 20,000円　防犯隊 40,000円 交通指導委員会 30,000円
市民憲章協力金	156,500	157,650	3,153戸×50円 郷土美化運動(花壇)文化教養部門(教育事業)
事務費	550,000	401,539	会議費・通信費・印刷費・消耗品費・慶弔費　他
予備費	314,140	0	
合計	5,588,140	5,123,939	

総収入額　5,615,517円　－　総支出額　5,123,939円　＝　差引残高　491,578円　(次年度へ繰越)

◈ 第２節　社南地区諸団体の活動 ◈

社南地区社会福祉協議会

設立年月日　　昭和56年５月20日

会　員　数　　地区内全世帯（平成22年４月現在）

沿革・目的

社会福祉協議会（略称：社協）は、弱い立場の方々だけでなく、元気な方々も含めて地域住民の信頼の中でお互いに助け合い、連帯性をもってボランテイアの心あふれる『暮らしやすいまちづくり、地域づくり』を目指している。そして、住民の意見をつみあげてきめ細かい福祉活動をすすめている。

社協の構成と組織

地域の全住民の参加を求め、区域内のほとんどの団体、民生児童委員、主任児童委員などで構成している。内部組織として、老人福祉、児童福祉、身障者福祉、保健福祉、母子福祉の各専門部門を設けて地域住民のニーズに応える体制をとっている。

重 点 事 業

【１】一人暮らし老人への食事サービスを地区婦人会の協力で実施している。

【２】一人暮らし、寝たきり老人の慰問。
毎年12月中旬に婦人会の協力を得ておこなっている。

【３】自治会型デイホーム事業の実施
健康な老人として長生きしていただくことを目的として、市の介護保険事業自治会型デイホームを社南公民館をはじめ、各町内公民館を利用し年間50回、65歳以上のお年寄りを集めゲームや小物つくり、健康体操等をおこなっている。


自治会型デイホームの風景

【４】老人と児童との交流
つばき児童館の児童と自治会型デイホーム参加者との交流会を年２回、老人会員とガールスカウトの交流会を年１回おこない、児童と老人の交流をしている。

以上、要点のみを列挙したが、いずれの事業も地域の皆様のご協力なしにはできないことばかりで、今後とも社協事業にご理解とご協力をお願いしたい。

歴代正副会長

年　　度	会　　長	副 会 長	副 会 長
昭和５６・５７	山　田　与兵衛	松　原　庄一郎	生　田　昇　一
５８・５９	坪　川　　均	小　泉　　要	伊　川　清　邦
６０・６１	坪　川　　均	小　泉　　要	伊　川　清　邦
６２・６３	小　林　信　栄	小　泉　　要	伊　川　清　邦
平成　元・　２	深草　文左衛門	岡　山　重　信	藤　井　文　藝
３・　４	高　柳　一　郎	藤　井　文　藝	横　山　一　恵
６・　６	藤　井　文　藝	久　保　　盛	横　山　一　恵
７	藤　井　文　藝	村　橋　正　昭	山　下　博　恵
８	藤　井　文　藝	村　橋　正　昭	
９・１０	村　橋　正　昭	清　水　和　夫	山　田　新　二
１１・１２	村　橋　正　昭	山　田　新　二	
１３・１４	大久保　源　久	山　田　新　二	
１５・１６	大久保　源　久	山　田　新　二	
１７・１８	大久保　源　久	山　田　新　二	三　上　啓　子
１９・２０	大久保　源　久	山　田　新　二	三　上　啓　子
２１・２２	大久保　源　久	山　田　新　二	三　上　啓　子

ひ・と・こ・と

当社南地区の高齢化率（住民に占める高齢者の割合）は福井市では最も低くなっているが、今年の敬老会の招待者（75才以上の方）は950名以上となるなど高齢者は年々増加しています。社会福祉協議会としては、福井市や市社会福祉協議会の方針にのっとり、高齢者対策を中心に事業を進めてまいりますので、地区住民の皆様のご協力をお願いいたします。

社南体育振興会

設立年月日　昭和56年３月23日

会　員　数　52名（平成22年４月現在）

沿革・目的

本会は、当地区住民の体力増進と親睦融和をモットーに、いろいろなスポーツ活動を展開してきた。

最近10年間の活動では、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトバレーボール、インディアカ、卓球、ボウリング、ドッヂビー、バドミントンなどの競技を選定して、年８回、自治会の対抗戦で実施している。

また競技大会以外でも、地区住民の体力向上を目的に健康体操教室を実施している。

市民体育大会では、地区の総力を挙げて参加しており、得点種目には全種目参加し、ここ10年間には、１部地区総合優勝４回、準優勝１回、３位３回の成績を残してきている。地区体育祭は、10月に開催しており、競技内容も防災レースなど地区の特色を出した競技も実施している。

今後の目標としては、地区競技会では年８回程度で、誰でも参加しやすい軽い運動のものや、ニュースポーツを取り入れながら実施していきたいと思っている。

また市民体育大会では、得点種目について、全種目の参加を進めながら、新たな選手の発掘を行い、スポーツ組織の充実を図り、上位入賞の常連地区になりたいと思っている。社南体育振興会は、今後も内容の充実を図りながら、役員一丸となって、当地区の体育振興に貢献していきたいと考えている。


表彰状

市民体育大会
第１部地区
社南地区

本大会において３ヶ年連続優勝という輝かしい成績をおさめられたので この栄誉に心からの賛辞を贈りここに表彰します

平成22年６月26日
第61回市民体育大会
名誉大会長　東村新一
大会長　江守清隆

第61回福井市民体育大会
（一部地区）
４年連続総合優勝



第59回市民大会・１部地区２年連続総合優勝

社南体育振興会歴代会長

年　度	氏　名
昭和５６年度～平成　２　年度	生　田　昇　一
平成　３　年度～平成１０年度	竹　内　　寛
平成１１年度～平成１４年度	杉　本　　進
平成１５年度～平成１８年度	森　　美知廣
平成１９年度～平成２２年度	新　開　邦　夫
平成２３年度～	朝　倉　富　成

この10年間の歴代役員（平成12年～平成21年）

年　度	会　長	副　会　長	理　事　長
平成１２年度	杉本　進	浅野孝信　森美知廣　池田武繁	新開　邦夫
平成１３・１４年度	杉本　進	浅野孝信　森美知廣	新開　邦夫
平成１５・１６年度	森　美知廣	新開邦夫　山下　進	佐々木徹郎
平成１７・１８年度	森　美知廣	新開邦夫　山下　進	松井　裕次
平成１９・２０年度	新開　邦夫	山下　進　松井裕次	高田　和夫
平成２１年度	新開　邦夫	山下　進　川上保和　高田和夫	高田　和夫

福井市民体育大会での優勝種目

平成１２年	平成１３年	平成１４年	平成１５年	平成１６年
ウエイトリフティング バドミントン女子	ウエイトリフティング バレーボール男子 ソフトボール男子	ウエイトリフティング バレーボール男子 ソフトボール男子 バドミントン女子 卓球女子	ウエイトリフティング バレーボール男子 テニス女子	ウエイトリフティング バレーボール男子 テニス男子 バドミントン女子 ゲートボール65歳以下
平成１７年	平成１８年	平成１９年	平成２０年	平成２１年
ウエイトリフティング バレーボール男子 テニス男子 バドミントン女子 ゲートボール65歳以下	ウエイトリフティング バドミントン女子 卓球女子 ゲートボール65歳以下	ウエイトリフティング バドミントン女子 テニス男子 バドミントン女子 バドミントン男子	ウエイトリフティング バドミントン女子 バレーボール男子 バレーボール女子 卓球女子 ソフトテニス男子	ウエイトリフティング バドミントン女子 卓球女子 バレーボール女子 ソフトテニス女子

この10年間の記録（平成12年度からを記入）

年　度	大会名又は事業名	事　業　内　容
平成１２年度	第５１回市民体育大会	一部地区　総合４位
平成１３年度	第５２回市民体育大会	一部地区　総合５位
平成１４年度	第５３回市民体育大会	一部地区　総合３位
平成１５年度	第５４回市民体育大会	一部地区　総合３位
平成１６年度	第５５回市民体育大会	一部地区　総合準優勝
平成１７年度	第５６回市民体育大会	一部地区　総合優勝
平成１８年度	第５７回市民体育大会	一部地区　総合３位
平成１９年度	第５８回市民体育大会	一部地区　総合優勝
平成２０年度	第５９回市民体育大会	一部地区　総合優勝
平成２１年度	第６０回市民体育大会	一部地区　総合優勝

社南体育振興会　各種行事成績

	平成１２年	平成１３年	平成１４年	平成１５年	平成１６年	平成１７年	平成１８年	平成１９年	平成２０年	平成２１年
グランドゴルフ	①南江守 ②渕A ③渕B	①福A ②渕 ③江守の里	①新種池 ②渕 ③福門	①渕 ②福A ③福B	①商工団地 ②福A ③渕	①福A ②渕 ③新種池	①渕 ②福A ③商工団地	①福A ②渕 ③南居A	①福A ②渕 ③福B	①渕 ②福A ③南居A
ソフトボール	①商工団地 ②渕 ③江守の里	①渕住宅 ②種池 ③商工団地				①新江守中 ②福門 ③種池		①新江守中 ②福 ③種池		
体育祭	①江守の里 ②福 ③福門	①南江守 ②新江守中 ③渕	①江守の里 ②新種池 ③種池	①南江守 ②福 ③渕・江守の里	①福 ②種池 ③南江守	①福 ②門前 ③南江守	①南江守 ②商工団地 ③門前	①渕 ②種池 ③門前	①福 ②舞屋 ③渕	①種池 ②福 ③新種池
ゲートボール	①門前 ②江守の里 ③種池	①門前 ②江守の里 ③舞屋	①南江守 ②渕 ③門前	①渕 ②種池 ③江守の里	①江守の里 ②門前 ③南江守	①渕 ②舞屋 ③江守の里	①渕 ②種池 ③新江守中	①種池 ②渕 ③南江守	①商工団地 ②種池 ③新江守中	①種池 ②商工団地 ③新江守中
バレーボール(H12) ソフトバレーボール （H 14　H 16）	①江守の里 ②渕住宅 ③門前		①江守の里A ②江守の里B ③新江守中		①福 ②新江守中 ③江守の里		①新江守中 ②福門 ③種池		①種池 ②福 ③福門A	
子供競技会				①福 ②新門前 ③渕住宅	①新門前 ②渕住宅 ③商工団地	①商工団地 ②渕住宅 ③渕B	①門前 ②渕住宅 ③江守の里	①福 ②商工団地 ③門前B	①門前 ②江守の里 ③新種池	①種池 ②江守の里 ③門前
トライボール(H13) インディアカ （H 18　H 21）		①江守の里 ②渕住宅 ③新江守中	①渕A ②江守の里A ③種	①新種池 ②江守の里 ③種池			①福南団地 ②渕住宅 ③江守の里			①福南団地 ②江守の里 ③種池
卓球(H13 H15 H19) バドミントン (H14 H17 H20) ボウリング(H21)		①江守の里 ②新種池 ③新江守中	①江守の里B ②江守の里A ③新江守中			①江守の里B ②江守の里A ③新江守中		①江守の里 ②新江守中 ③新種池	①新種池 ②新江守中 ③南江守	①種池B ②福南団地 ③商工団地
社３地区合同	②新江守中	③江守の里 ③新江守中	①新種池 ②新江守中	②江守の里	該当なし		①福	③渕住宅 ③福南団地	③種池	①新種池 ②種池

年間事業(平成20年度)

開　催　月	事業名又は大会名	備　　考
5　月	第１５回グラウンドゴルフ大会	市スポーツ公園
６月～７月	第６０回福井市民体育大会	
8　月	第２７回ゲートボール大会	渕ゲートボール場
9　月	第５回インディアカ大会	社南小学校体育館
10　月	第２７回社南地区体育祭	県運動公園サブグランド
11　月	健康体操教室	社南公民館
12　月	第６回子供競技大会(ドッヂビー大会)	社南小学校体育館
2　月	第１回ボウリング大会	ＷＥＶＥ４０
3　月	第１８回社合同親善スポーツ大会	至民中学校体育館



社３地区合同親子ソフトバレーボール大会



インディアカ大会



グラウンドゴルフ大会



ドッヂビー大会

ひ・と・こ・と

今日迄の歩みを顧みますと、地区住民の健康増進はもとより、スポーツを通じ、地域の皆さんの親睦と交流を大きな目的とし、また、世代間のふれあいの場として、活動していますが、今後も少しでも地域の和に貢献出来るよう願っております。

福井南交通安全協会 社南分会

設立年月日　昭和56年５月20日

会　員　数　14名（平成22年４月現在）

沿革・目的

設立当時は、社地区（北.西.南）で社地区交通安全協議会を発足し３地区で活動していたが、昭和56年４月に社南公民館が完成。平成３年４月には社西公民館が完成して交通安全協議会も分割され社南地区交通安全協議会として発足、初代会長に山田俊臣氏が就任された。当時の人口11,400人でしたが、平成21年度には12,500人、自動車保有台数約9,000台、免許所持者8,200人、会員数6,200人となった。ここ数年高齢者の死亡事故が急増し、県内では25人の死亡事故でその半数が65才以上の高齢者で占めており、高齢者の安全支援対策の充実が必要である。

これらの分析結果を踏まえて、関係機関、各団体と力を合わせ、運転者講習会をはじめ、高齢者宅への個別訪問による交通ルール、マナーの啓発活動等の諸対策を実施して、１件でも悲惨な交通事故が減少することを目的としている。

歴代会長

山田　俊臣（昭和56年度～平成８年度）

富田　一夫（平成９年度～平成17年度）

林　　一馬（平成18年度～平成20年度）

元山　浩二（平成21年度～）

（林一馬氏は福井市交通指導員会長、青少年育成会長等、福井市や社南地区の発展に貢献されたが、平成21年１月享年70歳で他界された）

福井市交通指導員会第９代　会長　中西　和久（平成22年４月～）

社南交通指導員　中西　和久　　林　晃一郎　　元山　和彦　　向畠　まり子

主な年間活動状況

１．春の交通安全運動（4/6～4/15）

- 地区４保育園新入園児ワッペン配布（4/1）
- 社南小学校入学児童ランドセルカバー贈呈式（4/6）
- カーパレード参加（福井駅～ベル）4/6
- 交通安全シルバー自転車競技大会（県立体育館）4/10
- 交通安全教室（社南小学校）6/10

  信号のある交差点と信号のない交差点を１年生全員が３～４人１組で横断の安全な渡り方を習う。３年生はグランドで自転車の正しい乗り方を習う。

2．夏の交通安全運動（7/21～7/30）

●交通安全茶屋の開設　7/18　AM10～11時　Ａコープやしろ店駐車場
南進する車を駐車場に入れ、運転者や同乗者に交通安全祈願マスコット人形・ヤクルト・うちわ・チラシ等を渡し、「安全運転でお願いします」の声かけ活動を毎年実施

協　力　警察官・市交通指導員・社南婦人会・Ａコープやしろ店
あさかぜ保育園母親クラブ・社南安全協議会役員

●早朝一斉街頭指導

●交通少年団の集い

●交通マナー啓発活動

●納涼祭参加者安全誘導・うちわ配布

3．高齢者交通安全推進月間（9/1～9/30）

●高齢者に重点をおいた啓発活動
平成21年に県下死亡事故25名中13名が高齢者

●高齢者交通安全大会　敬老会

4．秋の交通安全運動（9/21～9/30）

●早朝一斉街頭指導・公民館祭街頭指導・体育祭街頭誘導

●交通ルール・マナー啓発　運転者講習会

5．年末の交通安全運動（12/11～20）

●早朝一斉街頭指導　違法駐車排除　交通遺児慰問激励



＊社南小学校　交通安全教室　6月10日
1年生は交差点や信号機のある交差点の安全な渡り方を警察官に指導していただく



＊3年生の自転車の安全な乗り方　6月10日
ＰＴＡ役員や南署警察官の指導の下に道路に自動車が駐車している時の道路横断の正しい渡り方を習う

交通安全茶屋の活動状況



＊社南婦人会役員が毎年丹精こめた安全祈願マスコット



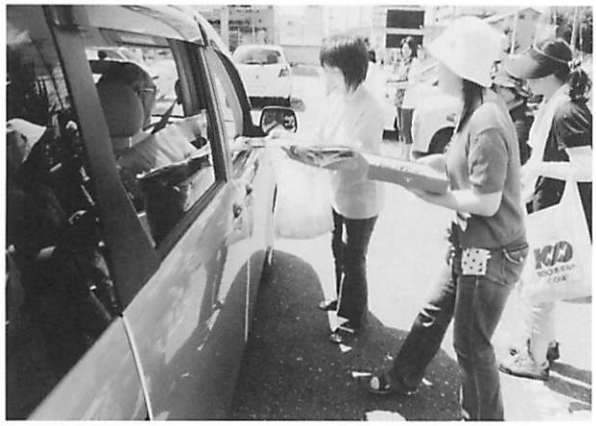
＊この活動に社南婦人会役員・あさかぜ保育園母親クラブの皆さん・園児達もお手伝い



＊交通安全茶屋に当役員堀田さん孫さんも安全茶屋に一役



＊夏の交通安全運動で活動する安全協会役員



＊運転者にチラシや安全祈願マスコット人形を配る



＊環状線を南進する車を駐車場に誘導、暑い中一休みしてもらう



＊安全茶屋の準備中をする婦人会や保育園の母親クラブの皆さん



＊期間中、活躍する広報車や役員

ひ・と・こ・と

１人１人がきまりを守り、安全安心なまちづくりに
皆様のご協力をお願いします。

交通安全スローガン

運転は軽い会釈でゆずり愛　あなたと築こうさわやか福井〔運転者〕

つけときネ　カバンに靴に　反射材〔歩行者〕

飲酒運転しない！させない！愛言葉〔飲酒運転根絶〕

自転車に　マナーも乗せて　踏むペダル〔自転車〕

社南青少年育成市民会議

設立年月日　昭和61年２月20日

会　員　数　56名（平成22年４月現在）

沿革・目的

【プロフィール】

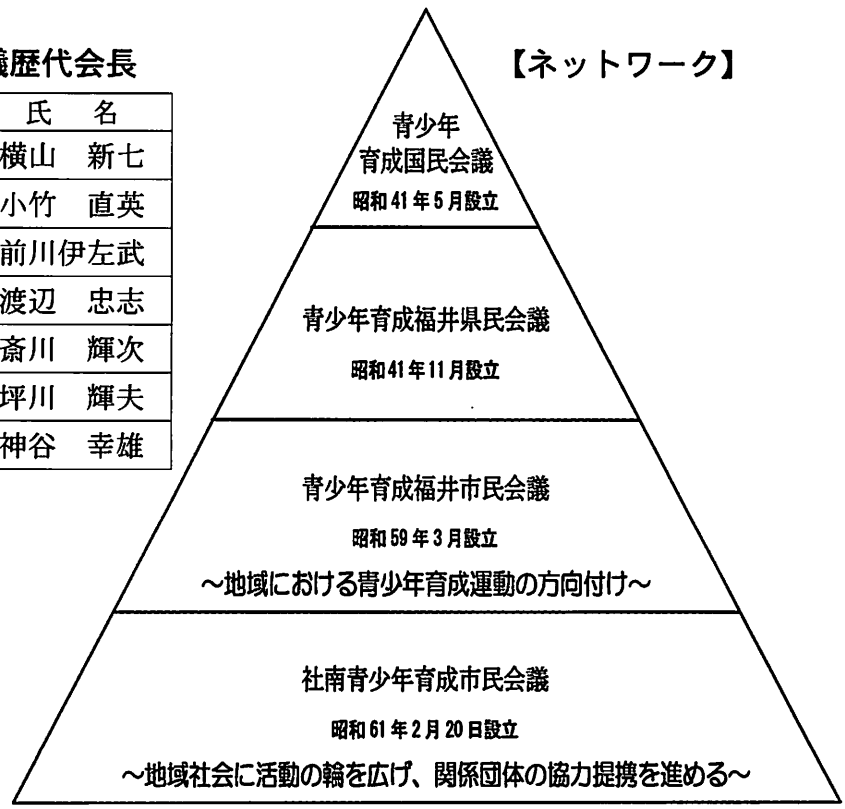
“伸びよう 伸ばそう 青少年”を合言葉にスタートした青少年育成国民運動を推進するため、昭和41年５月に青少年育成国民会議が、同年11月に青少年育成福井県民会議が設立された。

福井市においては、明日の福井市を担う青少年が、心広く、行い正しく、たくましく健やかに成長するため、青少年一人ひとりが責任と誇りを自覚して、自らを律し、努力していくと共に、大人たちも青少年を取り巻く社会的諸条件を整え、一段と心して指導育成に当たることが大切な要件となり、昭和59年３月に青少年育成福井市民会議が設立された。その中で、青少年の育成活動を進めていくには、家庭を中心とした地域の人々の理解と協力が必要であると共に、学校、地域社会や関係団体がそれぞれの活動を通して、相互の協力提携を進め、青少年に対する健全育成活動の輪を隅々まで広げるために、公民館を拠点とした活動がより有効的になることから、「社南青少年育成市民会議」が昭和61年２月20日に設立された。

社南青少年育成市民会議歴代会長

年　度	氏　名
昭和61年度～平成元年度	横山　新七
平成２年度～平成３年度	小竹　直英
平成４年度～平成５年度	前川伊左武
平成６年度～平成９年度	渡辺　忠志
平成10年度～平成13年度	斎川　輝次
平成14年度～平成17年度	坪川　輝夫
平成18年度～	神谷　幸雄

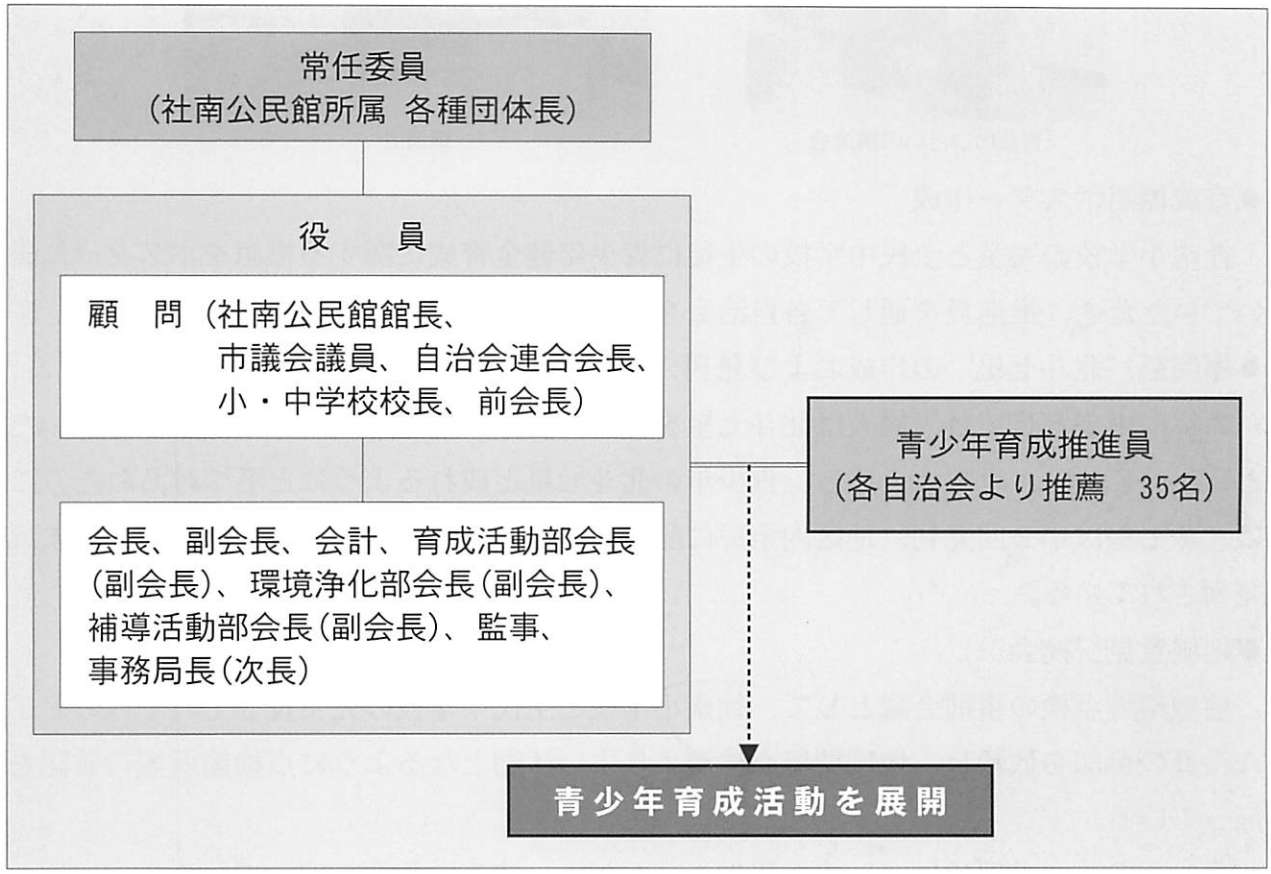
【ネットワーク】



【組織構成】

常任委員をはじめ、役員（顧問、会長、副会長、会計、育成活動部会長(副会長)、環境浄化部会長(副会長)、補導活動部会長(副会長)、監事、事務局）が執行部として努め、各自治会より推薦され福井市長と青少年育成福井市民会議より委嘱を受けた青少年育成推進員が「育成活動部」「環境浄化部」「補導活動部」の以上３つのいずれかの部会に属し、活動している。なお、推進員の任期は２年。

「組織図」



【一年間の活動内容】

月１回の定期役員会で活動の主な内容を協議し、活動日程や具体的な活動内容については三部会、臨時役員会を開催し、学校関係団体の協力のもと各部会を中心に活動を行っている。

「活動名及び内容」

育成のつどい	育成標語ポスターの作成	北斗七星(機関紙)の発刊	地域意見交換会 地域環境点検	110番かけ込み所 社南子ども見守り隊
社会環境や青少年の現状等、大人の目線で子どものことを考える機会として主に講演会を開催	各自治会等に年２回配布（掲示板等に貼付）	活動報告を主に掲載し、年２回発刊	青少年を取り巻く地域環境の浄化活動	小学校の児童の登下校時等の安心・安全運動活動の応援（登録、意見交換、啓発活動、アンケート等）

【主な活動の紹介】

●育成のつどい

市民会議のメンバー以外の地域の方々の参加もいただき、日常では経験できないことや青少年を取り巻く現在の社会環境などについて、講師を招いて講演会を開催し、青少年の健全育成を考える機会としている。



育成のつどいの講演会



講演会

●育成標語ポスター作成

社南小学校の児童と至民中学校の生徒に青少年健全育成に関する標語をポスターに書いていただき、推進員を通じて各自治会を中心に年２回配布し、掲示している。

●機関紙“北斗七星”の作成および発刊

名称の由来として昔、旅人は北斗七星を仰いで自分の進む方向を確かめながら歩いたといわれており、世の大人達も、青少年の北斗七星と成れるようにと名づけられた。この北斗七星は年２回発刊、地区内全戸に配布している。平成22年６月までに第48号まで発刊されている。

●地域意見交換会

地域環境点検の事前会議として、社南小学校と至民中学校の先生及びそれぞれのＰＴＡ役員の参加を依頼し、地域環境点検がよりよい活動となるように点検箇所等の確認を行っている。

また、学校内の現状についても報告をいただき、情報の共有を図っている。

●地域環境点検

一年の活動を通じて、最も参加人数を多く要し、社南公民館所属の各種団体をはじめ、社南小・至民中学校、地域関係団体と連携して、地域一斉の環境点検を夏休み前と冬休み前に実施している。具体的な活動内容は、店舗では店内での青少年の状況の聞き込みやお願い、公園・通学路等においては、危険箇所や未整備箇所等を確認して、地域の大人が環境を整備し青少年を事故や事件から守ろうという活動である。



地域環境点検の様子



地域環境点検後の意見交換会



店舗責任者より説明を受ける様子

●１１０番かけ込み所の設置

主に社南小学校の児童の登下校の際に、危険を察知したり、その他緊急を要すときに避難できる場所として民家、店舗、事務所にお願いし、下記の看板を掲げていただいており、年度末には、アンケートの実施を行い、翌年度に繋げた活動を行っている。また、児童や保護者に対しての啓発活動として、小学校の行事と合わせ、下校時に110番かけ込み所の設置箇所の確認を行っている。





かけ込み所と通学路の点検

●社南子ども見守り隊との交流

子どもの登下校時や人影の少ないところにおいて、子どもが連れ去られる事件が全国的に社会現象のように発生したことを受け、“地域の子どもは地域で守る”をスローガンに、各関係機関と連携して社南子ども見守り隊を平成16年に結成した。

当市民会議は、隊員同士の情報の共有や意見交換を目的とした会議や児童との対面・交流ができる場を提供している。また、意見交換会や年度末に実施するアンケートの内容を参考にして、子ども達がより安全・安心な環境の下で通学できるように、見守り活動を応援している。なお、子ども見守り隊の募集は毎年４月ごろに実施している。



隊員の紹介



児童との交流会



隊員の意見交流会

ひ・と・こ・と

青少年の健全育成のために、より良い活動を続けて行きたいと存じますので、今後とも地域の皆様方のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、青少年に深い関心と理解を持ち、積極的な健全育成の活動を展開している個人・団体・企業様及び、他の模範となる青少年の方に対し、青少年育成福井市民会議より年一回の表彰があり、当地区においても今までに受賞された方々が多数おられます。

社南老人連合会

設立年月日　昭和61年５月13日

会　員　数　226名（平成22年４月１日現在）

沿革・目的

社南老人連合会は、昭和61年に町内連合会、公民館、各種団体のご協力により結成された。

会員相互の親睦と健康・学習・社会活動を実践し、地区内の単会との連携を密にして、老人福祉の進展に寄与するもの。

各単会老人クラブは現在、社福寿会、社仙寿会、江守の里宝寿会がそれぞれ活動を行っている。

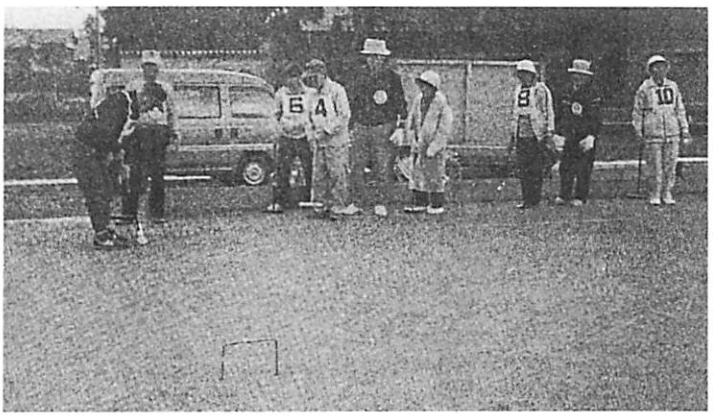
活動内容

（１）生きがい創造事業
（２）社会参加活動事業
（３）教育講座開催事業
（４）体位向上などの健康増進事業
（５）交通安全推進事業

事業実施計画書（平成21年度）

開催月	事業名
４月	交通安全大会参加 社地区老連理事会(社南公民館) 社地区戦没者慰霊祭 各集落で神社、寺院、公園、道路など清掃
５月	市老連総会(市福祉会館) 社南老連、社地区老連総会(社南公民館) すこやか長寿祭　生きがいのつどい （フェニックスプラザ）
６月	すこやか長寿祭　健康のつどい 地区防災訓練(社南小学校) 友愛募金納入
７月	交通安全教室 福井市ゲートボール大会 市老連第４ブロック理事会 市老連第４ブロック研修会 社地区老連理事会(社南公民館)
８月	老人家庭相談員研修会(市福祉会館) 福井市すこやかフェア　グランドゴルフ （市スポーツ公園） 高齢者交通安全大会

開催月	事業名
９月	地区敬老会 高齢者いきいきフェアー(健康の森) 老人の日　老人週間　社会奉仕の推進 各集落で神社・寺院・公園・道路など清掃
10月	女性指導者研修会(市福祉会館) 福井市民福祉大会(市福祉会館) 福井市老人福祉大会(市福祉会館) 共同募金運動
11月	米寿祝品配布 老人家庭相談員研修会(市民福祉会館)
２月	ふるさとの日行事(県民ホール) 三世代合同のつどい(市民福祉会館) バザー用品を届ける



ゲートボール大会



三世代クリーンアップ宣言

歴　代　会　長

年　　度	氏　　名
昭和61年度～平成２年度	小　泉　　要
平成３年度～平成４年度	山　崎　一　二
平成５年度～平成６年度	坪　川　　均
平成７年度～平成８年度	堂　本　盛　夫
平成９年度～平成13年度	山　田　一　馬
平成14年度～平成17年度	坪　川　　稠
平成18年度	冨　田　一　夫
平成19年度～	平　馬　文　雄

ひ・と・こ・と

今や人生80年といわれる時代になりました。

高齢者の方々が、生涯にわたり心身ともに健康で明るく生きがいのある生活を送っていただくとともに、いろいろな活動を通して仲間づくりの輪を広げてまいりたい。

社南壮年連絡協議会

設立年月日　昭和57年４月６日

会　員　数　340名（平成22年４月１日現在）

経過報告

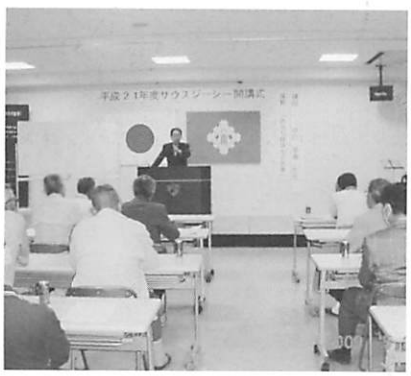
昭和56年度、県の生活会議（ふるさと創り協議会の前称）のモデル地区に社南が指定されたのを機に、各町内会（現在は自治会）の壮年会が、「地区の活動状況を交換し合い研修会の開催などで心のつながりを広め、連帯感を深めて明るい町づくりをしよう」ということを基本理念において会議を重ね、各地区の壮年会のご理解とご協力を得て、昭和57年４月６日に福井市で20番目の壮年連絡協議会として発足した。

平成３年度には社西公民館の新設に伴い、壮年会が分割され現在に至る。

活動内容

会則の条文に記載されているが、本協議会は、単位組織壮年会の活動を尊重しながら会員相互が連絡強調し、住みよい郷土の発展に貢献することを目的としているので、公民館の主催する納涼祭、敬老会、公民館まつりのいわゆる三大行事や地区体育祭などの事業に積極的に参加協力することが主な活動である。

また、公民館では福井市の教育事業として成人教育学級を開催していたが、平成２年度より、壮年に主眼を置きながら広く一般住民も対象として生涯教育時代にふさわしい学びを体験し、さらに自主的に学ぶ意欲をも養うことをねらい、壮年会の事業の中で年間７回のカリキュラムを設けて成壮年学級として運営してきた。愛称は、サウス・ジィ・シィ（Ｓ・Ｇ・Ｃ）で現在まで継続して活動をしている。



開講記念講演会





マレットゴルフ

最近のサウス・ジィ・シィの活動としては、講師を招いての講演会、健康増進を目的としたマレットゴルフやパターゴルフ、サイクリング、エアロビクス教室の開催を始め、社南公民館の調理室で講師の指導での男の料理教室やそば道場などを開催して会員の親睦を深める活動をしている。また、防災センターや治水記念館、鳴鹿大堰などの施設を

見学して防災や環境に関する学習会をしたり、各地区の語り部さんと共に大野までＪＲを利用して街並みを散策、また、朝倉遺跡では福井市内では養浩館庭園や福井城跡、北ノ庄城跡などの史跡を学習したり、社南の歴史探索として地元の語り部の真柄氏と共に２回にわたり社南地区全体を歩いて見聞を広めた。



男の料理教室





料理の試食



そば道場風景





そばの出来上がり



社南歴史探索



朝倉遺跡にて



福井城跡にて



防災センターにて





治水記念館にて

また、ＡＥＤなどの器具を使った救急救命の知識を得るために２～３年に一度、３時間の講習を受講して、普通救命講習の新規取得や更新の講座も設けている。




救急救命講座

対外的な活動として、社南壮年連絡協議会は福井市壮年連絡協議会（市壮連）に加盟しており、市壮連に理事１名を置いて情報交換や事業に参加して連携をとっている。また、市壮連では、みなみブロック（５地区）に属しているため、ブロック長の時は新たに常任理事を１名置いて、みなみブロック内の事業も遂行している。

みなみブロックの最近の主な事業内容は、地区交流の三世代ソフトバレーボール大会や“ふるさと大学”という名称で幅広い知識を得られるような企画で講演会などが開催されている。

社南壮年連絡協議会の事業としては、前述の成壮年学級（サウス・ジィ・シィ）の企画運営が主になってきているが、独自の事業として、年１回兎越山の山道清掃を行っており年々熱の入った活動となっている。

歴代会長・役員

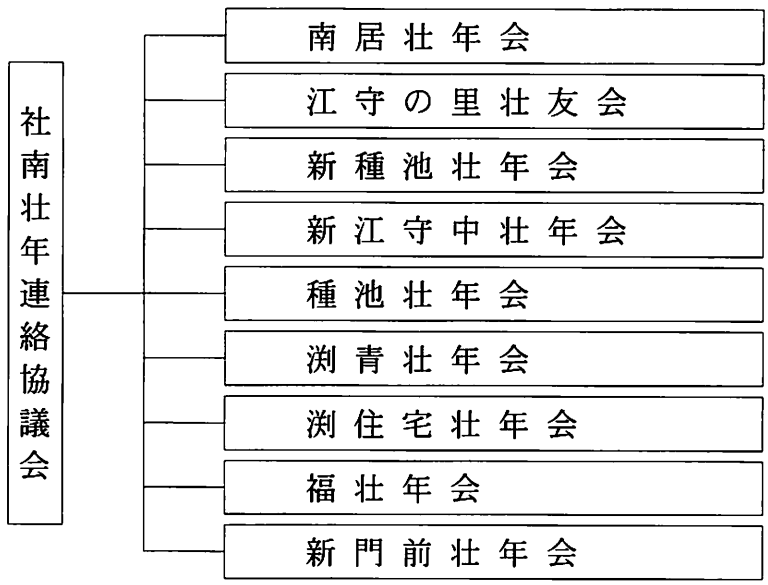
社南壮年連絡協議会歴代会長

年　　度	氏　　名
昭和57年４月～平成２年３月	飛　山　泰　一
平成２年４月～平成４年３月	藤　井　文　芸
平成４年４月～平成５年３月	岡　崎　文　男
平成５年４月～平成６年３月	高　溝　嘉　英
平成６年４月～平成12年３月	寺　腰　正　三
平成12年４月～平成16年３月	山　崎　清　治
平成16年４月～平成22年３月	塚　谷　義　幸
平成22年４月～	指　田　敏　幸

平成22年度社南壮年連絡協議会役員

役　職	氏　名	自治会	備　考
会　長	指田敏幸	江守の里	
副会長	伊川憲邦	南江守	成壮年学級長
〃	田中憲康	江守の里	
〃	霜　幸雄	新門前	
事務局長	雪吹　学	新種池	
事務局次長	西尾　薫	新門前	成壮年学級会計
〃	田嶋則次	江守の里	会　計
〃	片岡敏夫	新門前	
監　事	山田和男	新江守中	
〃	山田　誠	渕	

平成22年度社南壮年連絡協議会組織図



ひ・と・こ・と

親父の集団として壮年会活動が各町内で活発に行われた時代から地域によっては大分様変わりしたように思われます。青年団(会)組織が活発なときには壮年会の活動にも力も入ってきましたが、現在はそういった活動を経験したことがない人が多くなってきたからでしょうか？だんだん壮年会の高齢化が進んでいます。

社南壮年連絡協議会の活動としては、公民館の主催する事業に協力することを主としながら、福井市の教育事業である成壮年学級の企画運営に取り組む一方で自らも教養を得る学習の場としてのサウス・ジィ・シィを各地区の壮年会の方々も広く利用してほしいものです。

社南子ども会育成会

設立年月日　昭和56年４月24日

名　　称　昭和56年度から平成13年まで　社南青少年育成会
平成元年度から　社南子ども会育成会となる。

会 員 数　35名（役員 14名・理事 21名）（平成22年４月現在）

目　　的

本会は、単位子ども会育成会相互の連絡協調をはかるとともに、社南地区青少年の健全な育成及び非行防止に努め、もって心身ともに健康で明るい社会の実現をはかることを目的とする。

事 業 内 容

主な事業内容は、公民館事業（納涼祭、敬老会、公民館祭り）並びに各種団体の行事に積極的に参加支援する。

また、福井市子ども会育成会事業（熊本市姉妹都市交流事業、福井市子ども大会等）に参加する。

＊年間行事

５月　定期総会
６月　未来委員会事業(城山探検＆バーベキュー)協力
７月　夜回り駅伝（各地区）
社南地区納涼祭　協力
８月　熊本市姉妹都市青少年交流事業（派遣）
写生大会
９月　社南地区敬老会　協力
10月　社南地区体育祭　協力
11月　社南地区公民館祭り　協力
福井市子ども大会
12月　育成会事業(リース作り)
資源回収
１月　熊本市姉妹都市青少年交流事業(受け入れ)
未来委員会事業(三世代交流事業)　協力
２月　そば打ち体験
３月　年度末臨時総会

歴代会長

冨田一夫	昭和56年度～昭和63年度
林　一馬	平成元年度～平成12年度
高橋文男	平成13年度～平成14年度
橋本広信	平成15年度～平成16年度
向畠藤夫	平成17年度～





公民館まつりでの売店のようす



子どもたちのそば打ち体験

ひ・と・こ・と

私が公民館に携わるようになってから早いもので十数年経ちました。当時私は社南小学校ＰＴＡとして公民館事業に参加した覚えがあります。その後、至民中学校ＰＴＡそして現在は子ども会育成会として公民館に携わっています。

今後も「子供達の健全育成」のため、各種団体と協力しながら公民館事業に参加していきたいと思います。

社南教育メディア連絡協議会



社南教育メディア連絡協議会役員

設立年月日　昭和57年７月９日

会　員　数　14名（平成22年４月現在）

沿革・目的

昭和57年７月、社南視聴覚教育連絡会として発足初代会長に宮下武蔵氏が就任された。当時８ブロックに映写技師を役員として配し、巡回映画会、映写技師講習会、地区行事撮影記録等、特に“変わりゆく社南地区の記録”“現在を少しでも多く未来に残す記録の収集”に全力を上げると発足当時の「視聴覚教育連絡会の生い立ちとあゆみ」に記されている。その精神を今に引継ぎ、現在「定点撮影」を確立地区内12箇所を地図にプロット毎年実施している。今後益々多様化する激動の世の中の移り変わりを引き続き記録していきたいと思う。

活動状況　公民館行事の記録（公民館祭　敬老会　地区体育祭　地区納涼祭）
定点撮影・撮影登山（各年１回）

平成22年度　S.M.C.社南教育メディア連絡協議会役員名簿

職　名	氏　名	郵便番号	住　所	ＴＥＬ
顧　問	飛山　哲増	９１８－８０３４	南居町４７－６	３５－８５１１
	塚谷英一郎	９１８－８０２６	渕２丁目５０１	３５－２４７１
会　長	日下　嘉郎	９１８－８０２５	江守中町１－３３－５	３５－８２０９
副会長	平馬　　覚	９１８－８２０６	渕２丁目２４０３	３６－３０７３
	高橋　友江	９１８－８０３１	種池１丁目１６０５	３４－０１８６
事務局長	山田　博英	９１８－８０２６	渕1丁目９０３	３５－５７８４
会　計	中東　幸代	９１８－８０３１	種池１丁目１００３	３６－２５７３
監　査	冨田　哲夫	９１８－８０２５	江守中１丁目２０１	３４－３１６３
	山田　丈男	９１８－８０２６	渕1丁目２２１	３５－００９４
常任理事	竹内　憲一	９１８－８０２５	江守中２丁目１１０４	３６－６５９１
	広瀬　直和	９１８－８０２５	江守中１丁目８０８	３６－５９９４
	角　喜代子	９１８－８０２５	江守中１丁目１４１０	３６－９９１８
	田中　憲康	９１８－８０３５	江守の里１丁目１７１０	３４－２６８１
	玉村　卓三	９１８－８０３５	江守の里２丁目１９０６	３５－５６６７

社南教育メディア連絡協議会規約

（名称及び組織）

第１条　この会は「福井市社南教育メディア連絡協議会」（以下「本会」という）と称し会員をもって組織する。

（目　的）

第２条　本会は、地区内における教育メディア活動の推進と地区の記録及び会員相互の親睦を図ることを目的とする。

（事務局）

第３条　本会の事務所は、福井市社南公民館内におく。

（事　業）

第４条　本会は、第２条の目的達成のため、次の事業を行う。

１．福井市教育メディア連絡協議会との連絡調整に関すること。

２．社南公民館行事に関する記録を収集する。

３．地区の定点撮影及び町並みと自然を記録。

４．地区民の撮影に関するメディア活動の推進及び会員の研修会に関すること。

５．その他

（役　員）

第５条　本会に次の役員をおく。

１．会長１名　　２．副会長２名　　３．事務局長１名　　４．会計１名

５．監査２名　　６．顧問及び常任理事若干名

（役員の選出）

第６条　本会の役員は次により選任する。

１．会長及び監査は総会において選出する。

２．副会長は会長の委嘱により総会において推挙する。

３．事務局長　会計　常任理事は会長が委嘱する。

（役員の任期）

第７条　本会の役員の任期は２年とする、但し再任は妨げない。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表し会務を統括する。

１．副会長は会長を補佐し、会長事故あるとき、その職務を代行する。

２．事務局長及び常任理事は本会の事業計画を企画立案し事業を遂行する。

３．会計は会計に関する事務にあたる。

４．監査は本会の会計監査を行う。

（顧　問）

第９条　本会に顧問をおくことができ、会長が委嘱する。

（総会及び例会）

第10条　総会は年１回開き会長が召集する、但し会長が必要と認めた時は、臨時総会を招集することが出来る。例会は会長が必要に応じ招集する。

（会　計）

第11条　本会の会計は次の収入をあてる。

１．補助金　　２．雑収入　　３．その他の収入

第12条　本会の会計年度は、４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

（規約の改正）

第13条　規約の改正は総会で出席者の過半数の賛同を得て行う。

（附　則）

昭和57年７月９日　施行

平成20年４月１日　改定

平成22年度 収支予算

収入の部　（単位：円）

項　目	本年度予算額	前年度予算額	増　減	備　考
補助金	40,000	40,000	0	自治会連合会より
雑収入	3,000	3,000	0	
繰越金	11,462	3,000	8,462	
計	54,462	46,000	8,462	

支出の部　（単位：円）

項　目	本年度予算額	前年度予算額	増　減	備　考
報償費	3,000	3,000	0	
事業費	5,000	25,000	△ 20,000	フイルム等研修会
会議費	13,000	3,000	10,000	懇親会他
消耗費	1,500	1,500	0	コピー代
通信費	3,000	3,000	0	はがき代
負担金	6,000	6,000	0	市連負担金
雑費	22,962	4,500	18,462	備品購入資金
計	54,462	46,000	8,462	

歴代会長

・昭和57年度～昭和58年度　宮下　武蔵
・昭和59年度～平成元年度　竹内　康夫
・平成２年度～平成５年度　飛山　哲増
・平成６年度～平成11年度　山田　博英
・平成12年度～平成13年度　広瀬　直和
・平成14年度～平成15年度　中東　幸代
・平成16年度～　日下　嘉郎

福井市教育メディア連絡協議会団体の部 受賞

（平成20年６月）


表彰状

団体の部
社南教育メディア連絡協議会　様

貴団体は永年にわたり視聴覚教育の推進に積極的に取り組まれ地域の生涯学習の発展に寄与されましたここにその功績をたたえ表彰します

平成二十年六月二十日
福井市教育メディア連絡協議会
会長　和田清

その他活動状況

◎新至民中学校に関する記録

・開校59年間記念誌ＤＶＤ作成

・見学者に対するガイドＤＶＤ作成

◎社南地区防災アマ無線クラブに関する記録

・第14回防災街づくり大賞授賞式及び受賞祝賀会ＤＶＤ作成

・社南自主防災会訓練ＤＶＤ作成

◎撮影登山の記録

・夜叉が池ＤＶＤ作成

・鉢伏山ＤＶＤ作成

平成22年５月16日　木の芽峠と鉢伏山(761.8m)撮影登山の記録



鉢伏山(761.8m)頂上にて



“言奈地蔵”前駐車場にて



木の芽峠前川家にて

ひ・と・こ・と

社南教育メディア連絡協議会（当時・社南視聴覚教育連絡協議会）の先輩達が創立以来28年間の記録をこれから次の世代に引き継ぐことを最大の使命として、急速なメディアの変化に対応して「今」の記録を今後20年30年後に残したいと思います。

社南地区補導員連絡協議会

設立年月日　昭和56年５月27日

会　員　数　24名（平成22年４月現在）

沿革・目的

社南地区補導員連絡協議会は、各種団体青少年の補導活動でそれぞれが活動をするのではなく、団体が一体となった活動をする事を目指して、昭和56年５月に青少年の健全育成を目的とした補導活動に取り組む団体として組織された。

「補導」と言う活動は、怖い・堅苦しいと言うイメージがあると思いますが、これから21世紀を担う青少年の健やかな成長を願って、非行に走ろうとする子どもを早期に見つけて、適切な指導をする事によって非行を未然に防止するものである。

そこで、私達の補導活動は、子どもに「暗くなって来たから帰ろうね」・「自転車の二人乗りは危険なのでやめよう」などの街頭での声かけ並びに、量販店・コンビニ・ゲームセンターでの補導巡視が主な活動で、時にはつっぱった態度をする子ども達を叱るのではなく、優しく声かけをする事によって自分の行動に気がついて補導員・地域の皆さんに見守られていると思い返すのではないかと思う。これからも私達一人一人の力では何もできないが、地域ぐるみで非行防止に関心を持って対処する事が大切である。

社南地区補導員連絡協議会構成団体名列

福井市委嘱補導員	社南防犯隊	婦人会
社南小ＰＴＡ	至民中ＰＴＡ	壮年会
青少年育成市民会議	子ども会育成会	教育メディア
福井南署警察共助員		

社南地区補導員連絡協議会歴代会長

年度	氏名
昭和56年度～平成９年度	斉藤義之
平成10年度～平成17年度	神谷幸雄
平成18年度～平成21年度	斎川輝次
平成22年度～	三仙祐二

【１年間の活動内容】

	行　　事	
5　　月	福井市補導員委嘱式・研修会	
6　　月	地区補導員連絡協議会総会	
７月～８月	夏休み中の地区補導打合せ 地域環境点検　　（７月第２土曜日） 地区納涼祭特別補導 夏休み中の地区補導	協賛事業
9　　月	敬老会特別補導	
10　　月	体育祭特別補導	
12　　月	地域環境点検　　（12月第２土曜日）	協賛事業
３月～４月	春休み中の特別補導	

【主な活動の紹介】

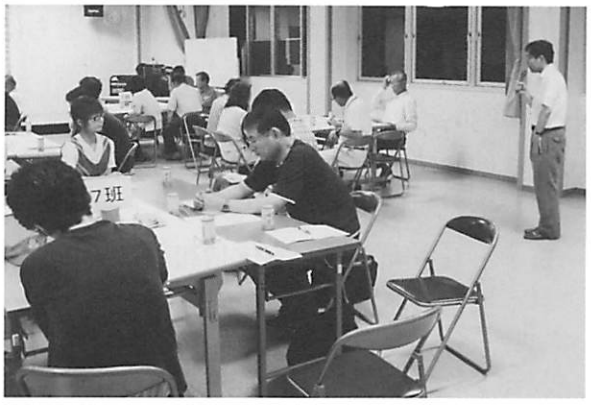
●地域環境点検

青少年育成市民会議との協賛事業で夏休み前、冬休み前に関係機関と連携して行っている。

地域の多くの方々の関わりによって、地域の環境が守られているものと考えている。



点検活動中



報 告 会

●夏休み中の地区補導

各種団体の大勢の参加者の協力によって、７月21日～８月末日まで毎日社南地区内を補導点検活動に出務し、子ども達を非行から守っている。



補導活動



補導活動

少年の非行防止

子どもの変化に「無関心ではいない」

不 良 行 為 に「知らんふりしない」

※子どもに無関心でいると非行の前兆を見逃します。

- ●服装や持ち物、髪型の急な変化
- ●乱暴な行為や、言葉使いの乱れ
- ●家庭での会話がなくなる。（少なくなる）
- ●学校での遅刻、欠席の増加や、荒れた授業態度
- ●外泊や深夜の外出
- ●不良グループからの呼び出し

※子どもの言動の変化に「無関心でいない」ですぐに対処する。

※「家庭」「学校」「地域」の結束が非行防止のカギとなります。

- ●子どもへの「声掛け運動」の実施
- ●子ども達のたむろする場所でのパトロール活動

※地域が一体となって「地域の子どもは地域でまもる」をモットーに
非行防止に取り組む姿勢が大切。

※子どもの周りの有害環境の除去

- ○地域団体が一体となって、通学途中の有害ポスター看板の撤去
- ○子どもがたまり場となっている所の見回り、立ち入り制限

※子どもを巻き込む有害情報の除去

- ○携帯電話、パソコンからの有害情報への対策
- ○フィルタリングの活用
- ○インターネット・ホットラインセンターの役割の周知

※子どもに忍び寄る薬物への誘惑の除去

- ○各種団体による地域パトロールや街頭キャンペーンの実施
- ○学校・地域等における薬物乱用防止教室の開催
- ○家庭での、薬物の恐怖や正しい知識の話し合い

ひ・と・こ・と

青少年は、次代の担い手であり、未来へ託す貴重な財産、宝です。

雇用情勢の変化、少子高齢化、情報伝達の変化、家族世代間の変化など、子ども達を取り巻く社会情勢の変化は非常に厳しいものがあります。

このような中、子ども達が安全で、安心して過ごせる地域社会の実現は、私達一人一人に与えられた重要な責務と思います。

今後とも、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

福井市消防団 社南分団

設立年月日　平成21年４月１日

会　員　数　20名（平成22年４月１日現在）

沿革・目的

消防団は、他に生業を持ちながら「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の安心と安全を守るために活躍している人たちが、参加する市町村の消防機関の一つで、全国ほとんどの市町村に設置されている。

社地区の消防団は、昭和29年４月１日に足羽郡社村が福井市に編入されたことに伴い、福井市で13番目に誕生した地域の消防団として「福井市消防団第13分団」の名称で呼ばれ、地域の皆様から信頼される消防団を目指し、地域に密着した活動を推進してきた。

近年の産業・就業構造の変化、若年層の減少等に伴い、減少傾向にある消防団員を確保し、より地域の皆さんに親しまれ信頼される消防団を目指し、平成21年４月１日に福井市消防団の消防分団を小学校区毎に置くことになった。これにより、福井市消防団第13分団は、社南・社西・社北の三つの消防分団としてスタートし、それぞれの地域活動をより強固に推進し、併せて、年々減少傾向にある消防団員を確保するため再編され、地域の防災力の向上が図られた。



福井市消防団　社南分団員

活動状況

消防団は、消防・防災に関する知識や技術を習得し、火災発生時における消火活動、地震や風水害といった大規模災害発生時における救助活動、警戒巡視、避難誘導、災害防御活動などに従事し、地域住民の生命や財産を守るための活動をしている。また、平常時においても、訓練のほか、応急手当の普及指導、一般住宅への防火指導、特別警戒、広報活動など、地域における消防力・防災力の向上において重要な役割をになっている。

「福井市消防団第13分団」時の昭和41年と61年には、消防団の技術向上と士気の高揚を図る目的で、毎年開催されている福井県消防操法競技大会に福井市消防団の代表として出場し、優勝、準優勝の栄に輝き、その精神は現在の社南分団員の活動の中に活かされている。

平成21年度の社南分団活動内容は、火災出場等８回、近畿府県合同防災訓練、消防団訓練等（規律訓練、消防ポンプ操法訓練）12回、住宅用火災警報器設置促進の一般住宅訪問４回、福井市防災訓練、歳末消防特別警戒等に出場し、年間29回の活動をしている。



消防ポンプ操法訓練

歴代分団長（５代目までは福井市消防団第13分団）

初　代	故　寺　腰　正　信	昭和29年４月～昭和37年３月
２代目	故　佐　藤　健　馬	昭和37年４月～昭和52年３月
３代目	朝　倉　俊　甚	昭和52年４月～平成５年３月
４代目	平　馬　文　雄	平成５年４月～平成12年３月
５代目	佐　藤　穂　栄	平成12年４月～平成17年３月
６代目	平　馬　範　夫	平成17年４月～現在

社南分団員名（平成21年度）

階　級	氏　　名	階　級	氏　　名
分団長	平馬範夫	副分団長	朝倉清一郎
部　長	平馬復三	部　長	小林　正
班　長	山田幸治	班　長	塚谷義幸
団　員	山田康彦	団　員	三上浩一
〃	塚谷浩一	〃	平馬成雄
〃	三上裕司	〃	磯川直文
〃	小林弘幸	〃	中川敏伸
〃	山田慎也	〃	朝倉豊文
〃	岩崎　徹	〃	横山房弘
〃	小竹健之	〃	岩崎裕治

ひ・と・こ・と

社南分団は、それぞれ生業を持ちながらも「自分たちの地域は自分たちが守る」という郷土愛護の精神に基づき、昼夜を分かたず火災、地震、豪雨等の災害に立ち向かい地域住民が安心して生活できるよう消防署と協調して、毎月定期的に災害時の救助・避難等各種災害に対応できるよう訓練に取り組んでおります。

今後も、社南地区住民から愛され、親しまれ、信頼される地域の消防団を目指して訓練に励み頑張って参りますので、地域の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

守れ　わがまち！

まちを想い支える社南分団



福井市防犯隊 社南支隊

設立年月日　昭和56年４月１日

会　員　数　22名（平成22年４月現在）

沿革・目的

社南支隊は、福井市防犯隊49支隊の一つとして、現在22名の隊員により構成され活動を進めている。

大きな目的としては、「安全で安心なまちづくり」を推進するため、自らの活動によって犯罪の抑止に努めるとともに、地域の治安の維持に寄与している。

具体的な活動として、①防犯広報　②防犯診断（地区巡回）③車輌点検　④各種警備⑤青色回転灯パトロール等を大きな活動として行っている。

また、近年社南地区も都市化が進み経済の混迷と多様化により犯罪が発生しやすい状態になっている。

支隊として、犯罪のない安心な町づくりの為に、隊員が一丸となって防犯思想の普及、青少年の非行防止に今後もがんばって行きたいので、地域住民の方々のご指導、御協力をお願いしたい。

平成21年度社南支隊事業

４月　定期総会　地区巡回（１回）
５月　地区巡回（２回）
６月　地区巡回（２回）　基礎訓練
７月　地区巡回（２回）　夏季練成大会
８月　夏休み巡回補導、福井まつり花火警備
９月　地区巡回（２回）　敬老会会場警備
10月　地区巡回（２回）　体育祭会場警備
11月　地区巡回（２回）　公民館まつり警備
12月　年末警戒出動（２回）
１月　地区巡回（１回）
２月　地区巡回（１回）
３月　地区巡回（２回）　役員会

福井市防犯隊　社南支隊歴代会長

年　　度	氏　　名
昭和56年度～平成２年度	飛　山　東一郎
平成３年度～平成６年度	朝　倉　　昭
平成７年度～	山　田　勝　洋

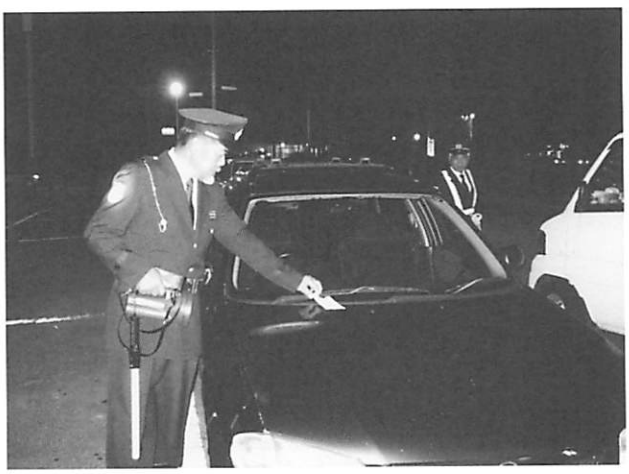
福井市防犯隊　社南支隊員

平成22年４月１日現在

役　職	氏　　名	入隊日	役　職	氏　　名	入隊日
支隊長	山田　勝洋	S56.4.1	隊　　員	山田　行雄	H21.4.1
副支隊長	奥田　正稜	S60.4.1	〃	大村　篤志	H21.4.1
総　　務	高橋　昭治	S63.4.1	第３班長	増田　雄二	H 7.4.1
第１班長	竹内長三郎	S54.4.1	〃	佐藤　正法	H22.4.1
隊　　員	小竹　清隆	H21.4.1	〃	青池　牧朗	H21.4.1
〃	横山　和則	H17.4.1	〃	武沢　輝雄	H 7.4.1
〃	渡辺　知周	H17.4.1	第４班長	中山　茂喜	H 2.4.1
〃	古野　隆一	H12.4.1	〃	山下　利文	H15.4.1
第２班長	池端　健市	S63.4.1	〃	高溝　裕昭	H21.4.1
隊　　員	閤田　元彦	H11.4.1	〃	朝倉　邦真	H 7.4.1
〃	門　　誠樹	H19.4.1	〃	山田　　誠	H15.4.1



車両防犯診断



車両防犯診断

ひ・と・こ・と

私達社南防犯隊も30年経過しました。
今年も、社南地域の安全で安心なまちづくりの為に、隊員一丸となって防犯活動を行っていきたいと思います。

社南婦人会

設立年月日　昭和56年5月24日

会　員　数　500名（平成22年４月現在）

沿革・目的　人との和を大切に豊かな地域 元気な町

楽しい婦人会にと 地域活動を展開したい

努力目標

1　地球にやさしい、美しい環境づくりの推進

2　少子・高齢化社会に対応できる、女性の意識高揚

3　組織の充実、親睦

4　食育の推進

年間事業計画表

月	事業内容	月	事業内容
1	総会（社南）	7	市文化講演会 県連婦ブロック研修会 交通安全茶屋 地区納涼祭協力
2	三世代合同のつどい（市）	8	フェニックス祭民踊参加 市連婦体育祭
3	市連婦総会 健康体操	9	地区敬老会協力 県連婦体育祭
4	県連婦総会 救急法	10	地区体育祭協力 全国婦人大会
5	室内スポーツ（ソフトバレーボール）	11	公民館まつり協力 県連婦球技大会 交流会 市長と語る会
6	学習会（交通安全マスコットつくり） 出かける婦人会	12	歳末たすけあい 新旧役員会

平成23年１月　総会　社南婦人会30周年記念事業

＊地域環境点検（年２回）

＊食事サービス（年８回）

＊三世代事業参加

歴代会長・役員

年 度	S56～H2	H3～4	H5～12	H13～
会 長	朝倉八千代	伊川 千里	真柄 恭子	桶師 幸恵
副会長	前川 艶子 熊谷ふじ子 山田千代子	山下 澄子	山下 澄子 桶師 幸恵 片岡キミ子	広瀬 良子
〃	杉本 幸恵 横山 一恵 伊川 千里	真柄 恭子		浜野 貴子
総 務	片岡キミ子	桶師 幸恵	片岡キミ子 杉本久美子 広瀬 良子	杉本久美子 吉岡加津代



交流会（平成17年）



総会（平成19年度）



食事サービスと献立（平成21年）

ひ・と・こ・と

今 婦人会として考えていきたい問題はたくさんありますが、一人でも多く入会して頂き、地域参画を積み重ね、交流、和、親睦を持ち、困った時、災害の時に、助け合えるように組織で動ける婦人会、この役割を大切に育てていく事で社南まちづくりの核になっていきたいと思います。

社南地区保健衛生推進員会

設立年月日　平成６年４月４日

福井市は、市内全地区（現在49地区）に福井市保健衛生推進員会を設置。
社南地区もこれに順次、愛育会から発展。
「社南地区保健衛生推進員会」として発展、現在に至る。

会　員　数　福井市 822名・社南地区 22名（平成22年４月現在）

目指すところ

保健衛生推進員（以下推進員という）は、市長からの委嘱を受け、自らの手で健康な個人と家庭をつくり、さらに地域の中で健康づくりの輪を広げるために行政（保健センター）と協力し健康づくり活動を実施していきたい。「健康づくりの身近な窓口」が推進員の役割である。



役員会で今年の活動を協議

会　　計　福井市よりの活動補助金及び社会福祉協議会よりの補助金により運営

組　　織

社南地区保健衛生推進員会組織図



歴代会長

年　度	氏　名
平成６年～	宮　下　和　子
平成７年～	玉　木　春　美
平成10年～	佐々木　惠美子
平成16年～	中　谷　加津子

表彰者一覧

名　称	表彰者
20年表彰	(故)児玉春子 氏
	古木惠美子 氏
５年表彰	18　名

長い間推進員として地域の方達の健康づくりにご尽力下さりありがとうございました。

◎主な活動内容

（成人保健事業）

1）地区公民館健診の受診勧奨（チラシ配布や声かけ）、お手伝い

2）地区健康づくり活動（地域健康力アップ事業、介護予防事業）の企画、案内、協力等

3）生活習慣病予防の知識の啓発等



敬老会（JAホール）
まず手の消毒をしてからお入り下さいネ
マスクもどうぞ！

平成21年度は、年頭から新型インフルエンザの流行で一時期マスクはどこを探しても無くなり、手の消毒もかかせなかった。沢山人が集まるところでは、特に気を付けてうがいと手洗の徹底を呼びかけた。

公民館まつりでの体力測定



まだまだお元気ですよ





子供さんの手当て
転んですりむいたの……
傷が軽くてよかったネ……

（母子保健事業）

1）生後４ケ月児の家庭の全戸訪問（こんにちは赤ちゃん訪問・育児について心配なことないですか！）

2）保健センター健診等お手伝い（１歳６ケ月児、３歳児健診、にこにこ子育て相談会）

3）地区での子育て教室等の企画、案内、協力等



こんにちは赤ちゃん訪問について

少子高齢化社会にあって、社南地区は赤ちゃんの誕生がここ数年、福井市の上位に入っており、高齢化率（65才以上）も16～17%、（福井市 23～23.5%）と若い人たちの多い活気のある地区である。

子育て支援の応援

南消防署の救急隊員による小児救急法を学ぶ



いざという時の心構え

子育てママたちの学園祭では子守り役の協力を



今日はママたちは学園祭で大忙し……
○○ちゃんたちはここでいっしょに遊ぼうネ

公民館まつりでは毎年赤ちゃん写真展をしています



大変だけれどうれしいネ



この写真はこちらに貼るといいかな！

―― たくさんの方が見に来てくれました ――

地域での健康づくりへ

地域の健康づくりリーダーとして地域の皆さんがより健康になるよう楽しみながら、推進員同士が健康について学ぶ機会を持っている。



地区健診の受診率アップについて真剣に協議、
栄養や運動など健康に関する学習会

各自治会に於いての健康教室の開催



メタボリック症候群予防について
福南団地のあつい学習



舞屋自治会でのヤングボディ大作戦
若々しい姿勢を保つコツを真剣に！

自治会に於ける平成22年度健康教室計画予定

日　　時	自治会名	内　　容
H22　6／20(日)　10：00～	福	自宅でできる簡単な体操
8／7(土)　14：00～	新江守中	メタボ解消の健康体操
9／24(金)　19：00～	福南団地	認知症予防について
10／17(日)　13：30～	門前・新門前 合同	バランスのよい食事について
11／12(金)　19：30～	渕	楽しく健康体操
11／27(土)　19：00～	種　池	口の健康について
H23　3／18(金)　13：30～	舞　屋	ヤングボディ大作戦

例年、健康教室を各自治会で開催し、身近なところから健康意識の向上を図っています。

ひ・と・こ・と

私たち推進員は、素人ながら地区の皆さんの健康づくりを側面的に応援しております。成人病予防検診の受診推進やお手伝い、諸行事の救護隊や子育て応援隊としても経験を活かして活躍しております。

毎年の公民館まつりでは「赤ちゃん写真の展示」を企画し、若いお父さん、お母さん、お孫さんの写真を見るのを楽しみに来て下さる御年配の方々等「わあ！かわいい」と好評を博しております。また、自治会単位での健康教室も「メタボ解消と食事」「認痴症予防について」「栄養と運動」「歯の健康」等のテーマで活発に開催されており、より地域に根差した健康づくりの場となっております。私達推進員の活動がますます地域の皆様の「健康力アップ」につながることを願い、行政と地区のパイプ役として更に頑張って参ります。

社南地区子育て支援委員会

設立年月日　平成16年２月24日
会　員　数　５名（平成22年４月現在）
会　　長　松　田　久美子

沿革・目的

住民自身の手で地域ぐるみの子育て支援策を企画、立案、実施し、「子どもは地域の宝、子育ては地域の営み」との意識を醸成し、地区内における子育て支援ネットワークの構築を目的とする。

活動状況

「社南地区における少子化に対する意識調査」の結果を受けて、平成17年５月18日に第１回子育て相談会「ママたちのしゃべり場」を開催した。そのとき、日常的な育児相談に加えて他のお母さんと知り合う機会がない、公園に行ってもだれも遊んでいない、主催団体の怪しい子育て相談会の勧誘が多く不安などの意見が出された。そこで、参加者たちの強い要望に応えて、２回目以降の「ママたちのしゃべり場」は毎週１回開催することにし、当委員会の中心的な事業となった。その後３年の間に、市内において多くの幼稚園や保育園、また児童館などでも子育て広場が開催されるようになったため、平成20年４月からは毎月１回開催に変更した。

＜平成21年度事業報告＞

・支援委員会の開催（月１回）
・ママたちのしゃべり場　毎月第２水曜日（10時30分～13時）12回／年
　毎回平均５～６組参加
　《特別企画》11/11　おいしい紅茶の入れ方教室
　12/９　歯のお話
　１/13　絵本の読み聞かせ
　３/14　さよならパーティー

・小児救急法	６/14(日)	10:00～12:00	参加人数 23名
・エンジョイサイエンス	８/８(土)	11:00～12:00	参加人数 41名
・人形劇鑑賞会	２/７(日)	10:30～11:30	参加人数 80名
・親子でかんたんおやつ作り	３/14(日)		参加人数 27名

年間事業費は、市補助金100,000円、自治会連合会補助金50,000円。

平成17年　ママたちのしゃべり場



平成17年　七夕飾り作り



平成18年　英語であそぼう



平成18年　エンジョイサイエンス



平成18年　クリスマス会



平成19年　人形劇



平成21年　親子でかんたんお菓子作り



ひ・と・こ・と

「ママたちのしゃべり場」やいろいろな企画に参加してくださる親子の笑顔を見ることが一番の楽しみで、活動の励みになっています。これからも親子の居場所づくり、ふれあいづくりに頑張っていきたいと思います。

社南地区伝統文化委員会

設立年月日　平成20年５月10日

会　員　数　14名（平成22年４月現在）

沿革・目的

社南地区伝統文化委員会の設立は、平成20年５月となっていますが、前身は平成13年度から始まった21世紀わがまち夢プラン事業において、地区の伝統文化を後世に伝えるため、社南公民館の「21世紀わがまち夢プラン」社南地区委員会内に伝統文化委員会を作られたのが始まりである。

社南地区伝統文化委員会は、永年の間に忘れられたり、薄れてゆく地域の伝統文化を後世に継承すべく活動をしている。

活動状況

平成21年度事業報告から

５月９日　合谷町にある炭焼き釜跡地に、社南未来委員会委員と本会委員が登る。社南地区に、未来に残す文化遺産が無いか考えたところ、合谷町に終戦前後に使われた炭焼き釜の跡地があるとの事で、前年度に２箇所確認され、最近３箇所目が見つかっている。

６月９日　県立博物館副館長坂本氏の依頼で、昔の盆踊り唄を伝統文化委員会の皆でテープに収録し、東宝スタジオへ送る。

６月14日　社南未来委員会の城山登山に協力する。

６月20日～23日　東宝撮影所にて、エキストラとして「唄のシーン」に出演する。この時撮影した映画の題名が『Ｆｌｏｗｅｒｓ』に決まり、平成22年６月12日から全国の東宝系映画館で封切りされる。

７月25日　社南地区納涼祭に協力。

９月５日　至民中学校、学校祭に協力。
体験学習：葉寿司（郷土料理）、藁で手縄を綯う。展示：行灯、民話（パネル展示）

９月20日　社南地区敬老会に協力。

10月４日　社南地区三世代クリーン作戦に協力。

11月１日　社南公民館まつりに展示協力。

平成22年

３月12日　21年度社南地区伝統文化委員会総会。


表彰状

福井県福井市社南公民館・社南伝統文化委員会殿

貴委員会の作品「ぬくもり－未来に残したい民具文化－」は平成17年度全国自作視聴覚教材コンクール社会教育部門において入選いたしましたよってここに賞を贈りその栄誉をたたえます

平成17年9月9日

財団法人 日本視聴覚教育協会
会長　井内慶次郎

初めて全国級コンクールで入賞

会　　則

社南地区伝統文化委員会規約（抜粋）

第１条　本会は、「社南地区伝統文化委員会」と称し事務局を社南公民館内に置く。

第２条　本会は、社南地区にある伝統行事、風習などの貴重な有形、無形の文化財や資源を発掘し地域の伝統文化を継承し後世に伝えていくことで、地区住民が郷土観を確立し、地域活性化の推進につながることを目的とする。

第３条　本会は、第２条の目的を達成するため、次の活動を行う。

①　地区住民の伝統文化に関する意識高揚を図ること。

②　地区の伝統文化を子供達に伝承していく行事の実施。

③　その他、目的達成に適当と認められる事項。

第４条　本会は、社南地区に居住する者及び本会の趣旨に賛同する者をもって組織する。

第５条　本会に次の役員を置く。

会　長	１　名
副会長	若干名
事務局	２　名
会　計	１　名
監　事	２　名
顧　問	若干名



平成21年度至民中学校祭体験学習「手縄ない」

第９条　本会の会計は、助成金及び寄付金その他の収入をもってあてる。

第10条　本会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

附　則　本規約は、平成20年５月10日から施行する。





公民館まつりの展示とボランティアの至民中学生（スタンプラリー受付）

平成22年度 収支予算

収入の部　　(単位：円)

項　目	21年度予算額	22年度予算額	備　　考
助成金	40,000	40,000	自治会連合会より
前年度繰越金	0	4,975	繰越金
合　計	40,000	44,975	

支出の部　　(単位：円)

項　目	21年度予算額	22年度予算額	備　　考
事業費	31,000	31,000	公民館まつり　6,000 至民中学校アカデミー倶楽部　14,000 城山サミット　3,000 地区内伝統文化継承　5,000 城山と歴史　3,000
会議費	0	5,000	
事務費、消耗品費	6,000	3,975	コピー代
通信費	3,000	5,000	ハガキ代
合　計	40,000	44,975	

歴代会長・役員（平成22年度）

会　長	横山　榮	副会長	山縣　秀也	事務局	富田　哲夫
事務局	広田幸枝美	会　計	杉本久美子	監　事	下中　正志
監　事	小林　信子	委　員	塚谷英一郎	委　員	飛山　重信
委　員	山田　博英	委　員	山本　稔	委　員	宮前　和子
委　員	山下利律子	委　員	三上　正志	委　員	㈱北村　光治

＊ＧＰＳによる城山登山道の確認

国土地理院の25,000分の１の地形図では城山への登山道が明確でないので、平成22年５月16日にＧＰＳによる確認をした。

＊城山を東に頂く南居地区の古老の話によると、その昔、城山には幾つかの出城があったと伝えられていた。



社南伝統文化委員会委員

例年この時期に行われる「チャレンジ城山」登山を前に、平成22年６月１日、「伝説ノ地一ノ城跡」（標高約百六十米）、「伝説ノ地二ノ城跡」（標高約百九十米）「三ノ城横山中将城跡」（標高二百二米）の標柱を建てた。標柱は檜材で筆は小林輝代さんによる。



城山登山道にて

平成22年度至民中学校祭体験学習から

南居町伝統料理「葉寿司」作りと、昔の仮装体験













ひ・と・こ・と

- 人々が毎日いろんな生活の中から受け継がれて来た衣、食、住の伝統文化は地域によっても違いがあり、とても興味深いものがあります。
- 時の流れと共に、人から人へ語り伝え形に残せるものもある。この社南地区にはそんな宝の「伝統」と「文化」がある様に思う。それを探し求めていきたい。
- 前身の伝統文化委員会から係わっております。先輩から社南の伝統文化を見聞きする事で驚いたり懐かしかったり、また、感銘することも多く更にもっと深く知りたいとの思いを強くしています。
- 今は便利な世の中になったが人とのつながりは希薄になりつつある。多くの人手を要して生きていた頃の生活が懐かしく映像等で無形の伝統文化として残し伝えて行きたい。

社南地区学校環境支援協議会

設立年月日　平成20年６月10日

会　員　数　顧問３名・相談役４名・委員23名（平成22年４月現在）

沿革・目的

平成20年４月、南江守町に至民中学校が移転開校するにあたり平成17年７月より社南地区代表者、社南地区自治会連合会、社南地区公民館運営審議会、 至民中学校ＰＴＡ、社南小学校ＰＴＡ、社南地区子ども会育成会及び社南地区青少年育成市民会議の各団体から推薦された代表者をもって、地域に開かれた学校づくりと校舎及び通学環境の整備改善を目的とした社南地区からの要望を取りまとめる組織として、「新至民中学校移転建設委員会」を立ち上げた。

この委員会の主な動きとして、先ず至民中学校移転に伴い、生徒達が登下校する時の安全について地区内各団体長からのご意見を参考に、18年12月、各代表者及び児童生徒諸君により想定される通学路の下見を実施し、終了後公民館会議室でグループごとに意見を出し合い、その課題に係る要望書をもとに行政機関との折衝を重ねた。

開校に至るまでの間、前述の目的を果たすべく縷々活動をしてきたところである。

平成20年４月、至民中学校開校に伴い委員会は一応の役目を終え発展的に解散し、今後は社南小学校及び至民中学校のより良い教育環境及び通学環境の整備改善のお手伝いを目的に、平成20年６月に「社南地区学校環境支援協議会」を立ち上げ、今日に至っている。

活動状況

①福１丁目1112前から淵中橋の区間及び西谷３丁目の路側帯白線の引き直し、並びに福１丁目の雑木伐採を市へ要請し、通学児童生徒等の安全確保に努めた。





完成した白線の引き直しと雑木伐採
（福１丁目地系）

②種池１丁目(とんとんびょうし)前の交差点角から延長約12mの水路上に蓋の設置と敷地内通行を市及び事業者へ要請し、通学児童生徒等の安全確保に努めた。





完成した水路上の蓋の設置工事（種池１丁目地系）

③南江守町の県道三尾野別所線と基幹農道の交差点に照明灯と信号機の設置を県及び警察へ要請し、通行車両及び通学児童生徒等の安全確保に努めた。



完成した信号機の設置工事
（南江守町県道三尾野別所線）

④合谷町の県道三尾野別所線と県道清水麻生津線の交差点に照明灯の設置を県へ要請し、通行車両及び通学児童生徒等の安全確保に努めた。

⑤南江守町の県道三尾野別所線舞屋橋から市収集資源センター間に歩道の設置を県へ要請し、通学児童生徒等の安全確保に努めた。



完成した歩道工事
（南江守町～舞屋町地系）

⑥通学等における安全確保上の懸案事項

（平成22年３月末日現在）

・種池１丁目とんとんびょうし東側の市道幅員が狭くかつ交通量が多い。
・種池橋に歩道がなく、路側帯幅員も狭小かつ交通量が多い。
・渕中橋北詰めの道路がカーブのうえ幅員及び路側帯幅員も狭小、かつ交通量が多い。



懸案事項となっているところ
道路幅員が狭く交通量か多いようす
（種池１丁目地系）

社南地区学校環境支援協議会会則

（目　的）

第１条　本協議会は、社南小学校及び至民中学校の環境整備の改善を図ることを目的とする。

（名　称）

第２条　本協議会は、「社南地区学校環境支援協議会」と称する。

（事務所）

第３条　本協議会の事務所は社南公民館に置く。

（業　務）

第４条　本協議会は、第１条の目的を達成するために次の業務を行う。

（１）校舎及び施設等の教育環境の整備改善、並びに通学環境の整備改善を図るため、行政機関との折衝を行う。

（２）その他、本協議会の目的を達成するために必要な業務を行う。

（協議会の構成）

第５条　本協議会は、次の委員をもつて構成する。

（１）社南地区自治会連合会　　４名以内

（２）社南地区代表者　　４名以内

（３）小・中学校ＰＴＡ　　９名以内

（４）各種団体　　６名以内

（役員及び委員の任期）

第６条　本協議会の役員及び委員の任期は２年とする。

２　役員及び委員に欠員が生じたときは補充することができる。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。

（役　員）

第７条　本協議会に次の役員を置く。

（１）会　　長　　１名　　（３）監　　事　　２名

（２）副 会 長　　３名　　（４）事務局長　　１名

（役員の選任並びに任務）

第８条　会長は委員の中から選任し、本協議会を代表し会務を総括する。

２　副会長は委員の中から選任し、会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

３　監事は自治会連合会監事及び小・中学校ＰＴＡ会計監査の中から選出し、会計を監査する。

４　事務局長は会長が委嘱し、本協議会の事務・会計を行う。

（相談役、顧問）

第９条　本協議会に相談役、顧問を置くことができる。

２　相談役、顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

（役員会）

第10条　役員会は、会長、副会長及び事務局長により構成する。

（協議会の開催）

第11条　本協議会は会長が必要と認めたときに招集する。

２　協議会の開催は、委員総数の過半数の出席を必要とする。

（経　費）

第12条　本協議会の運営経費は、次の助成金等を以ってこれに充てる。

（１）自治会連合会助成金

（２）小・中学校ＰＴＡ助成金

（３）その他

（事業年度）

第13条　本協議会の事業年度は、毎年４月１日から３月31日までとする。

付　則　この会則は、平成20年６月10日から施行する。

この改正会則は、平成21年４月17日から施行する。

歴代会長　　第一期（平成20・21年度）：大久保宇右ェ門

平成22年度収支予算

（単位　円）

収入の部				支出の部			
科　目	前年度決算額	本年度予算額	摘　要	科　目	前年度決算額	本年度予算額	摘　要
繰越金	0	19,335	前年度繰越金	通信費	5,110	6,000	役員会、総会等開催通知
助成金	40,000	20,000	自治会連合会より	印刷費	6,020	14,000	役員会、総会等資料印刷 広報紙印刷
				会議費	7,462	7,000	役員会、総会等お茶
				要請費	0	2,000	要請書作成等
				予備費	2,080	10,335	
その他	7	0					
計	40,007	39,335		計	20,672	39,335	

ひ・と・こ・と

これからも、この社南地区学校環境支援協議会は、社南地区各団体長様始め地区民皆様のご理解とご協力をいただきながら、社南小学校、至民中学校の児童・生徒が安全で安心して通学できる環境づくりのお手伝いができればと考えております。

社南地区食生活改善推進員会

設立年月日　平成22年４月１日

昭和43年の国体に向け、福井県の栄養教室講座を開始、１年間の養成の後、各市町村で食生活改善推進員としてボランティア活動を開始する。

平成18年６月から社南地区に於いて料理講座を開始、平成22年４月から団体となり現在に至る。



会　員　数　平成22年４月現在

福 井 市　１０９名

社南地区　４名

福 井 県　１，２４０名

会　　長　佐々木　恵美子

目　　的

“私達の健康は私達の手で”をスローガンに必要な諸知識について研修し、伝達講習や実践活動を通して地域住民の健康づくりに寄与するとともに、行政機関やその他の食生活改善事業の推進に協力する。



食育実践・魚さばき講座

組　織　図

全国食生活改善推進員連絡協議会

↓

福井県食生活改善推進員連絡協議会

↓

福井県福井支部食生活改善推進員連絡協議会

↓

福井市食生活改善推進員連絡協議会　109名
会長・副会長・庶務・会計・地区役員　14名

↓

福井市49公民館を９ブロックに（社南・社西・清明・麻生津・清水で１ブロック）

◎主な事業内容

１）地区活動講習会の開催

（おやこの食育教室、男性食育講座、高齢者食育講座）

2）よい食生活をすすめるための講習会開催
3）地域講習のための研修会開催
4）生活習慣病やメタボリック症候群を予防するための食生活指針の推進等

他、からだにおはよう!! レシピ集、福井市の３世代家族が囲む食卓、ほっとするねふるさとの味（福井県）等の料理冊子作り協力



食生活改善推進員会作成の料理冊子


高血圧予防教室（高血圧リスクをチェック）


減塩テープで味噌汁の塩分チェック


いよいよ調理実習です


美味しく出来上がりました

ひ・と・こ・と

地域の人々と食や健康について共感し合い、励まし合って健康づくりの実践や継続を促し、私達推進員の活動が地域の皆さまに貢献出来ることを願っています。

社南身障者福祉協会

設立年月日　昭和57年４月

会　員　数　25名（平成19年度現在）

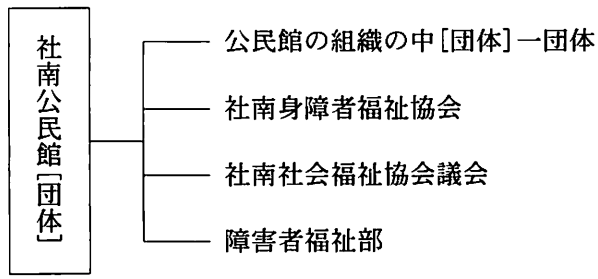
沿革・目的

私共の会の設立誕生は、昭和56年記念すべき国際障害者年を迎え、国連が国際福祉施設から障害者の立場を理解し、世界中の人が障害者の良き理解者になることを願い（完全参加と平等）、社南地区が県障害者モデル地区指定されたのに伴い、社南地区社協の協力を得て昭和57年４月に設立、会員108名にて結成された。会員の福祉向上と完全参加と平等の目標に向って、地区社協や民生委員、協会会員と共に前進を続けている。今後の課題は［地区行事に、社会に、会員が如何に参加するか］である。それには毎年健常者と障害者がふれあい広場等を開催し、また、研修会で各地の施設見学を行い、更に、市・県・国の行事等に参加し、福祉・障害者生活の向上に努めて今日に至る。また、会員の親睦や地域の方々と親睦を図り会員の増に努め募集等を懸命に行った。

歴代会長・役員

年度	S56～62年	63～H元年	H２～７年	H８～10年	H14～15年	H16～19年
会　長	小泉　　要	深草文左エ門	青木昭五郎	三上　正志	三上　正志	三上　正志
副会長	深草文左エ門	平馬　孝男	木村　正輝	木村　正輝	平馬　孝男	平馬　孝男
副会長	松原庄一朗	木村　正輝	真柄　　保			
監　事	三上　貫一	真柄　　保	平馬　孝男	平馬　孝男	黒川　清志	黒川　清志
監　事	三上　正志	中村　建而	山本　　勝	山本　　勝	山本　　勝	山本　　勝
事務局	吉岡　毅彦	三上　正志	三上　正志	加藤　勝次	加藤　勝次	平馬　孝男

（平成19年度で解散）



年間行事　県・市の上部団体に参加［一部例を記載］

活動内容　毎年の活動は同、場所・内容が違う

年　月	活動内容［行事］社南身障者福祉協会	県・市身障者福祉協会
4　月	総　会	総　会
5　月		県スポーツ大会
6　月		市ゲートボール大会
7　月	理事会	市スポーツ大会・県ゲートボール大会
8　月		
9　月		
10　月	理事会	県身体障害者福祉大会・全国スポーツ大会
11　月	研修会	市身体障害者福祉大会
12　月	理事会	ハートフル展
1　月		市新年会・理事会
2　月	ふれあい広場	県肢体障害者福祉協会・研修会・監査
3　月	理事会	市理事会

社南公民館地区行事に参加する

予　算　一部を記載

平成14年度収支決算報告書

平成14年4月1日～平成15年3月31日

収入の部　　単位：円

項　目	本年度予算額	本年度決算額	差　引	摘　要
会　費	30,000	27,000	△3,000	27名
補助金	85,000	85,000	0	総40,000 県45,000
参加費	65,000	12,000	△53,000	ふれあい広場参加費 12人　12,000
雑収入				利子
繰越金	19,859	19,859	0	
合　計	199,859	143,859	△56,000	

支出の部　　△は減

項　目	本年度予算額	本年度決算額	差　引	摘　要
総会費	80,000	13,650	△66,350	H.14年総会公民館で
研修費	70,000	59,900	△10,100	フェニックスで演劇鑑賞
負担金	25,000	18,000	△7,000	ふれあい広場12,000 県協会 6,000
事務費	4,200	949	3,251	コピー代
記念品	0	0	0	
通信費	800	0	△800	
見舞金		0	0	
慶弔費		0	0	
予備費	19,859		△19,859	
合　計	199,859	92,499	△107,360	

（収入額）（支出額）（次年度繰越）

143,859－92,499＝51,360

監査報告

上記収支決算について監査の結果、適正と認めます

平成15年5月30日

監査人　黒川　清志　印○

〃　山本　勝　印○



健常者と障害者の交流会

ひ・と・こ・と

最近高齢化も進み、会員減に追い込まれました。会員増に会員一丸となり努力しましたが、最近の行政の個人情報の壁に突き当たり、会員の増には至りませんでした。

協会としては、これ以上の会員増は見込まれないので、設立以来108人在籍していた会員が平成19年で会員25人迄に減り、行事等参加出来る人も限られ、また、障害者の高齢化に伴い、危険も伴うので、そこで役員と理事者、会員と話し合いを行い、今なら事故も無く円満に解散出来ると思い、設立以来［25年間］前任者が苦労し築き挙げた協会を、平成19年解散する事に決めました。

長い間協会に御理解、御指導、頂き有難う御座いました。

今後、社南地区の発展の為に元会員も微力ながら御協力致しますので、ご指導宜しくお願いします。

社民生児童委員協議会

設立年月日　昭和56年４月１日（社南地区）
委　員　数　37名（平成22年４月現在）
会　　長　下　田　須榮子
沿革・目的

・委員数　37人（内主任児童委員2人）（男16人女21人）
社南地区16人（男5女11）　社北地区11人（男7人女4人）　社西地区10人（男4人女6人）

・65才以上高齢者率　　平成22年6月1日現在
福井市 23.48％　社南地区 17.09％　社北地区 18.19％　社西地区 26.81％
75才以上
福井市 11.90％　社南地区　7.12％　社北地区　7.69％　社西地区 10.47％

・地域の特徴
社民生児童委員協議会は社南、社北、社西の３地区で構成されている。地域の住宅化が進み、子どもたちがどんどん増えている地域と、昭和43年国体開催後に造成された団地ではいまや高齢世帯が多くなり、逆に子どもたちの数が急速に減っている地域など大変アンバランスな地域となっている。

・民生委員の大改正
平成12年民生委員法の改正に伴い、私たち民生児童委員の位置づけが「保護指導に当たる」から「常に住民の立場に立って相談に応じ、援助を行う」者として大きく変った。今では個人情報保護法が施行されたことにより、要支援者の情報が入手困難となり、支援活動も限定されることが多くなり、活動に支障をきたしていることも事実である。

・「広げよう地域に根ざしたおもいやり」また「災害時一人も見逃さない運動」をスローガンとして、民生児童委員は地域に根ざした活動を推進するために、自治会、社会福祉協議会、ボランティア組織など地域社会のさまざまな組織と連携、協議して活動を進めることが強く求められている。特に孤立した高齢者世帯、子育て家庭を発見した時には、行政や専門機関につなぎ、福祉サービスの利用や支援につないでいくという役割がますます大切になってきている。

○部会と委員会
毎月の定例会にて、部会の活動計画を策定し実施する。
第１部会(高齢者部会)では、地区社会福祉協議会と協働し、高齢者の見守り事業の一環として一人暮らし(75才以上)の方々に食事サービスや自治会型ディホームなどの事業


社南地区の食事サービス風景

に積極的に取り組んでいる。

また①介護老人施設を訪問しながら福祉のニーズの実態と受け皿となる事業所の実情を把握②地域外の民児協との情報交換③高齢者情報の収集等を行っている。

社南地区社会福祉協議会が行っている一人暮らしの高齢者の食事サービス事業は、高齢者の見守り事業として、毎月第３土曜日に、地区の婦人会の手作り弁当を民生児童委員が届けている。毎年８月は民生児童委員による手作り料理を会食しながら、ボランティアによる演芸、ゲームを楽しみながらお喋りをし、一人暮らし高齢者と民生児童委員との交流を行っている。

第２部会(児童部会)では、①安心して住み続けることが出来る地域社会を実現するため、将来を担う社３地区の児童が一同に会し、地区での関心を共有し、ふれあいを通じ、子どもも大人もお互いを理解し思いやりを持ちながら世代間の交流をはかった。その結果大変な盛り上がりで、児童が物事に対して真剣に取り組む姿勢に感動し、社地区の子ども達に未来を託し、今後もこの事業を継続していきたいと考えている。②地区の子どもたちとの交流により、子どもの居場所と食育の大切さと心の勉強会を続けたい。③地域における非行、いじめ、不登校などの情報収集や生活援助を必要とする家族、一人親家族の実態把握など積極的に取り組みたい。


３地区児童との楽しい交流会

ひ・と・こ・と

私たち民生児童委員協議会は月１回の定例会を持ち、また研修会、勉強会そして施設訪問など活動を進めている。今後とも地域の皆さまと共に社会福祉の増進に努めたい。

◈ 第３節　社南地区の学校教育・社会福祉関係団体等の活動 ◈

社南小学校

創立年月日　　明治６年９月８日
児　童　数　　940名（平成22年４月現在）
沿　　革

明治５年に学制が発布されて間もない明治６年９月８日、福村小学校が新設され、その後幾多の変遷を経て昭和10年には社南尋常高等小学校と改名し、現在地に新築移転された。そして、昭和29年には町村合併により福井市社南小学校と改称し、356名の児童が新しい出発を始めた。昭和37年には校歌が制定され、昭和40年代には校舎の鉄筋化、本館・体育館・プールの建設が進められた。

昭和50年代に入ると、児童数の激増に簡易校舎利用で対応する一方、昭和58年には校区変更により児童400余名が新設の社西小学校に転校することとなった。平成７年度には校庭拡張整備、11年度には中庭改修整備、17年度にはプール移転新設、19年度には南校舎耐震工事、20年度には体育館拡張・教室増設等と施設・設備の整備が進められた。

教育目標、教育活動

社南小学校では、「ともに学び　生き生きと活動する子の育成」を教育目標に掲げ、一人一人の児童が「みずから考え行う子」「なにかにチャレンジしていく子」「みんななかよく助け合う子」に育つことをめざして、日々の教育活動に取り組んでいる。

平成４年には、福井市教育委員会より「タッチ＆トライ」学校づくり推進事業の研究指定を受け、地域と連携しながら体験を生かした教育活動の工夫、開かれた学校づくりに取り組んで多くの成果をあげた。その後も、文部省「スクールカウンセラー活用調査研究委託校」、「福井県国語教育研究大会授業公開校」等、先進的な教育活動に積極的に取り組んできた。

平成21年度には、文部科学省・福井県教育委員会・福井市教育委員会から「外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方等に関する実践研究事業」研究校に指定され、外国語の音声や表現に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を育むため、全校挙げて研究実践に取り組み、英語活動の授業や国際交流集会


南っ子ハローワールド2009

「南っ子ハローワールド2009」において、児童がＡＬＴ（外国語指導助手）や外国の人たちと英語で話し楽しそうにふれ合うことができた。

その成果をもとに、外国語活動の授業が児童にとって興味深く分かりやすいものになるよう工夫するなど、22年度も教育実践を積み重ねてきた。平成22年度の教育ウィーク期間中、11月３日には県内各中学校・高等学校、教育委員会や地域のＡＬＴ37名の協力を得て「南っ子スマイルフェスティバル2010」を開催し、保護者や社南地区の方にも参観していただいた。その日は、全校児童がたてわりグループ毎に歌・クイズ・ゲーム・ダンスなどを一緒に楽しみながら、それまでに学習してきた英語も使って、初めて出会った外国の人とも打ち解けてふれあうことができた。児童は、「だんだんと仲良くなれてよかった」「これからもっと英語を学習したい」などと感想をもつことができ、コミュニケーションへの意欲が高まる良い機会となったと考えている。



６年生の授業「行ってみたい国を紹介しよう」



南っ子スマイルフェスティバル2010

学校では、日頃のさまざまな活動が児童にとって「生きる力」を培うことにつながるよう、体験的活動も大事にしながら学習に取り組んでいる。

南っ子が未来に向かって羽ばたいていくことを願い、今後も各学年で、校内や校外での有意義な体験を授業に活かし、学びを広げたり、深めたりしていく。



一乗谷「あさくら水の駅」での稲刈り体験

社南小学校歴代校長（昭和56年～）

昭和56年～	重　田　正　慶	平成８年～	坂　井　敬　市
昭和59年～	北　嶋　小　作	平成11年～	竹　内　　清
昭和61年～	前　川　哲　雄	平成14年～	松　岡　好　弘
平成２年～	青　木　孝　允	平成18年～	谷　嶋　則　雄
平成５年～	高　橋　道　雄	平成21年～	横　山　満　之

社南小学校ＰＴＡ

設立年月日　　昭和22年４月１日

沿革・目的

西暦1945年昭和20年の終戦後、我が国の政治・経済・教育・文化は、大きく転換した。

教育の民主化、学校制度の改革など、広範囲にわたる占領軍の指令により日本の姿が大きく変わって行く状況の中、昭和22年３月に文部省から「父母と先生の会 ―教育民主化の手引―」が各都道府県に出され、福井県では昭和22年９月18日にＰＴＡが結成された。

本校では、子供を守り育てるため①環境の整備、②教育資金の援助、③会員相互の親睦等を目的に、昭和22年４月１日に発足した。

活動状況

５月の資源回収から始まり、６月には給食試食会、スポーツインストラクターを招いての親子ふれあい広場を２週にわたり実施、８月の親子奉仕活動、そして９月にはＰＴＡ最大の行事である南っ子バザーを開催、バザーについては、５月の役員会から準備を始め大勢の委員さんや学校の先生方にもご協力をいただき盛大に開催している。

その他花いっぱい運動や広報誌の発行、社南地域の各種行事に参加など親同士・地域住民の方達のつながりを深め、年間にわたり学校の教育活動に協力している。

平成22年度役員名簿

役　職	氏　名
会長	佐々木　一　彦
副会長	塚　谷　浩　一
〃	足　田　尚　代
総務	田　中　義　一
会計	山　口　早　苗
会計監査	岩　井　　孝
〃	山　内　和　子
家庭教育部長	森　本　智　幸
〃　副部長	山　田　貴　子
学年部長	田　島　公　人
〃　副部長	山　崎　君　代
厚生部長	宮　崎　則　裕
〃　副部長	山　田　慎　也
広報部長	家根田　千　恵
〃　副部長	野　田　望　美
補導部長	千　秋　大　剛
〃　副部長	徳　岡　さおり

6月親子ふれあい広場の様子





9月のバザーの様子





社南小学校ＰＴＡ30年間の歴代会長

昭和５６	藤井　憲治	平成　３	新開　邦夫	平成１３	小谷　　元
５７	山田　新平	４	塚谷　義幸	１４	〃
５８	〃	５	坪川　照夫	１５	冨加見俊哉
５９	片岡　　静	６	伊川　憲邦	１６	〃
６０	山田与志宏	７	〃	１７	岡倉　稔浩
６１	前川伊左武	８	小澤　悦二	１８	〃
６２	〃	９	〃	１９	伊川　勇生
６３	杉本　　進	１０	向畠　藤夫	２０	〃
平成　元	山崎　清治	１１	〃	２１	佐々木一彦
２	坪川　委治	１２	〃	２２	〃

ひ・と・こ・と

輝かしい伝統と実績を誇る社南小学校は、ＰＴＡとの連携を深め、地域の皆様の御支援をいただきながら新たな教育活動にもチャレンジし、児童が新しい時代を担う力を身につけられるよう、着実な努力を積み重ねていきます。

至民中学校・ＰＴＡ

創立年月日　昭和22年５月

生　徒　数　414名（平成22年４月現在）

沿革・目的・理念・方針

本校は、新学制により昭和22年５月からスタートした足羽郡社村社中学校、丹生郡三方村三方中学校が統合される形で、昭和24年４月に「社村・三方村組合立至民中学校」として発足した。翌25年３月には校舎が竣工し開校式を挙行した。以来、市町村合併などにより昭和33年４月に「福井市至民中学校」と改称して今日に至っている。平成20年４月には、住み慣れた渕の地籍を後にし、約2.5km南下した南江守に移転開校、異学年型教科センター方式を採用した21世紀型の学びを保障する学校として注目を集める中学校に変貌を遂げた。

「生徒が育つ・教師が育つ・地域保護者が育つ学校」を合い言葉に、教科センター方式による学びを深める授業、異学年クラスター制による自治的・協働的活動を基盤にした日々の生活、地域の人や文化との触れあいおよび交流を通した互恵的な活動を仕組む地域連携を教育活動の３本柱に据えて、日々、新たな挑戦を続けているところである。

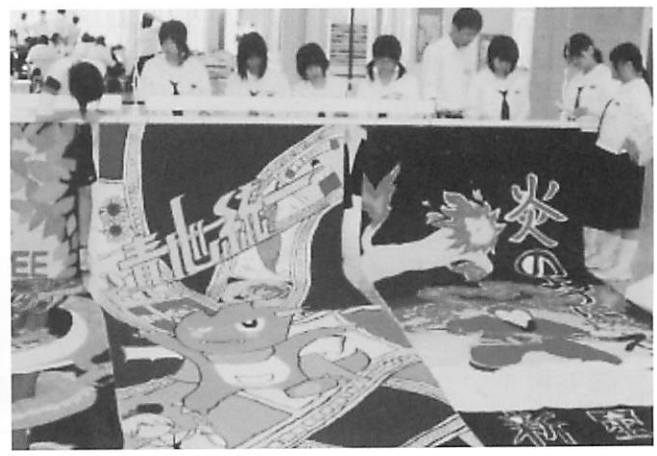
教育活動状況

本校では、平成20年度の移転開校以来、全ての教科で特別教室とその教科の教材や学習物で構成された学習空間（教科エリア）を持ち、授業ごとに生徒が移動する教科センター方式を取り入れている。授業は70分の生徒活動中心の問題解決型授業および20分の定着学習となっていて、いずれも教科エリアで教科担任の指導の下に協働的な学びが展開されている。これらの学びは、年２回の地域公開講座として地域の人たちにも開かれている。

さらに、異学年のホーム（学級）が隣接した「クラスター」と呼ぶ異学年集団を日常



オープン・スペースでの授業風景



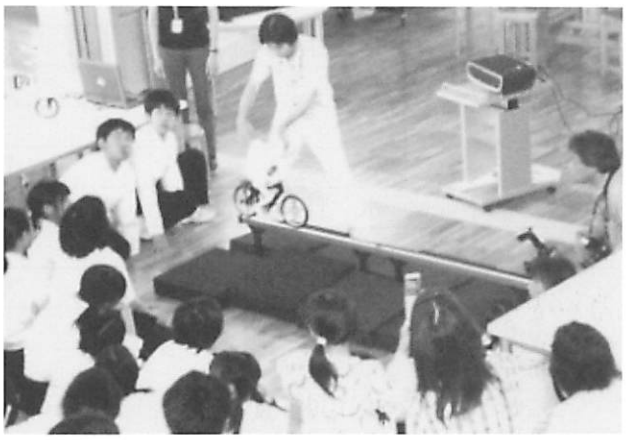
クラスター旗掲揚式

的に機能させ、生徒の手による自治的な活動を推進している。異学年縦割り清掃や給食の共同配膳などの日常活動を始め、年間通した学校行事や総合的な学習の時間を全てクラスター活動中心に行い、３年生を良きリーダーとして上級生から下級生への学校文化継承の日常化を図っている。

また、葉っぱのエリアは地域開放ゾーンとなっていて、芸術・文化を核として地域の方々が日常的に生徒と触れあう活動を仕組んでいる。平成21年度は同エリアで年間５回の「ギャラリーしみん」が開催され、科学技術高校テキスタイルデザイン科や福井大学教育地域科学部美術科の作品展、卒業生の画家による絵画作品展、学校祭での至民アカデミー倶楽部による合同作品展などが大勢の地域の人たちの参加を得て行われた。その他にも学校を訪れる視察の方たちを案内したり、生徒の教育活動に積極的に関わったりするサポート至民の方々もこのエリアを中心に活躍している。



文化祭　地域交流タイム



外部講師による授業（技術科）

生徒数（平成22年４月現在）

第１学年：　男子７２名　女子６２名　計１３４名
第２学年：　男子７４名　女子７７名　計１５１名
第３学年：　男子７１名　女子５８名　計１２９名

４．歴代の園長・校長・館長・ＰＴＡ役員

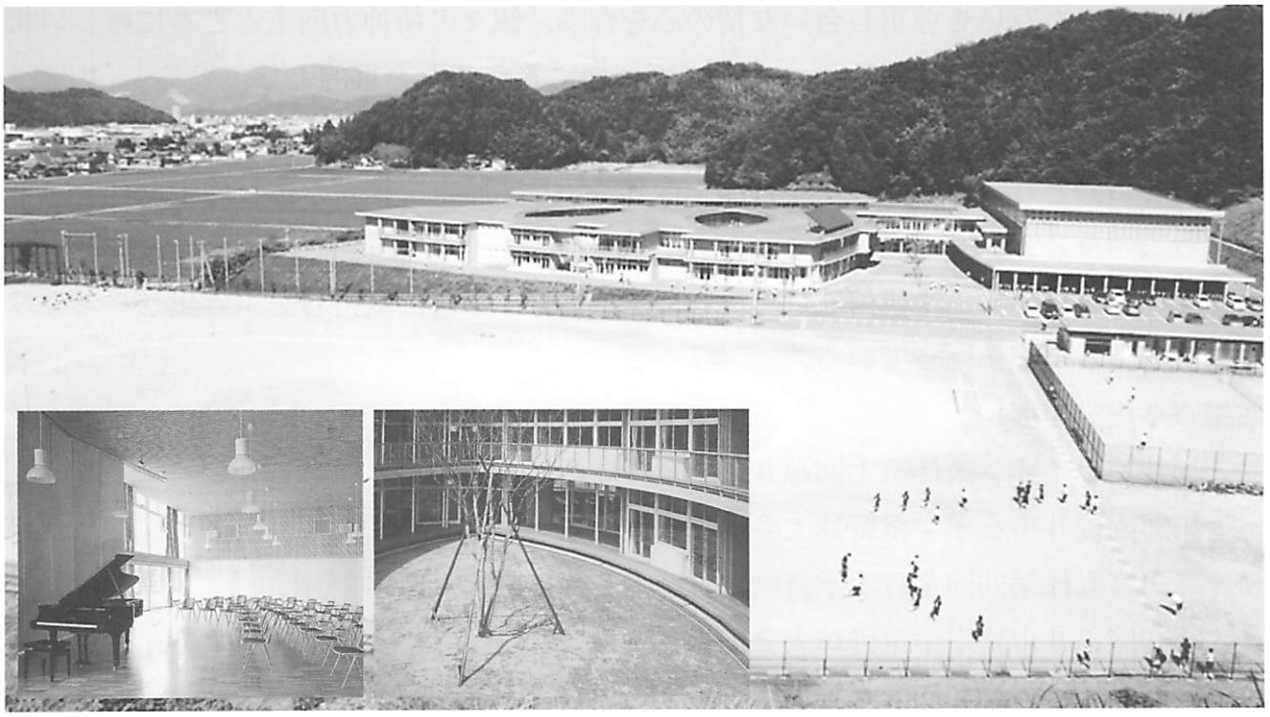
	学　校　長	ＰＴＡ会長	教育振興会・後援会会長
昭和２４	前　川　行　雄	児　玉　嘉　重	
２５	〃	〃	
２６	〃	〃	
２７	有　賀　　薫	永田　金右衛門	
２８	〃	〃	
２９	有　賀　　薫	塚　谷　十兵衛	
３０	〃	佐々木三郎右衛門	
３１	〃	佐藤　奥右衛門	
３２	〃	宇　坪　敏　男	
３３	山　田　新　吉	〃	

	学校長	PTA会長	教育振興会・後援会会長
昭和34	山田新吉	宇坪敏男	
35	〃	寺腰正信	
36	〃	〃	
37	〃	〃	
38	〃	〃	
39	〃	〃	
40	〃	漆崎信弘	
41	青山晴男	〃	
42	〃	勝倉博嗣	
43	松嶋　昇	山田健一	
44	〃	谷崎一郎	
45	〃	伊川清邦	
46	〃	宮崎高義	(S47～S55までは教育振興会)
47	前川一清	奥田昭一	平馬　傳左衛門
48	〃	戸田富一	杉本一幸
49	小林秀雄	竹内友二	山田與兵衛
50	〃	飛山泰一	片岡　平
51	〃	〃	田埜又作
52	〃	笈田完二	〃
53	水野　忠	鈴木弘造	片岡　平
54	〃	〃	大久保長門
55	藪　利治	平馬文雄	山田健一
56	〃	〃	(S57以降は後援会)
57	〃	森国　巧	坪川英士
58	黒川良雄	〃	渡辺忠造
59	〃	佐藤穂栄	〃
60	〃	〃	山崎利信
61	谷口幸男	山口修市	〃
62	〃	毛利茂徳	伊藤昌敏
63	斉藤幸一	福田　昭	岩永嘉栄
平成1	〃	山川貞士	日下平兵衛
2	津嶋光雄	小林庄市	荒木明彦
3	〃	寺腰正三	小林庄市
4	前田　荘	〃	寺腰正三
5	〃	上野良治	上野良治
6	広嶋雅城	〃	松井　充
7	〃	佐々木捨次	山崎彰夫
8	三田村亮二	藤田登喜哉	高橋文雄
9	〃	高橋文雄	渡辺一宣
10	吉田文武	〃	〃
11	〃	林　俊郎	山田末吉
12	〃	〃	塚谷義幸
13	〃	向畠藤夫	斉藤重和
14	吉田和雄	〃	岩崎文彦
15	〃	〃	深草俊彦
16	〃	岩崎文彦	皆藤康浩

	学　校　長	ＰＴＡ会長	教育振興会・後援会会長
平成１７	吉　田　和　雄	森　田　俊　夫	岩　崎　文　彦
１８	山　下　忠五郎	皆　藤　康　浩	塚　本　雅　利
１９	〃	髙　嶋　美　和	中　林　宏　嘉
２０	〃	〃	田　畑　芳　春
２１	津　田　由起枝	岡　倉　稔　浩	髙　嶋　美　和
２２	塚　田　雅　洋	柿　木　正　雄	田　畑　芳　春

ＰＴＡの活動状況

平成22年度は、役員11名と５つの委員会で活動を行っている。主な活動としては、広報誌の発行、資源回収、校舎の奉仕活動、補導巡回ですが、平成21年度からは「笑顔チームプロジェクト」ということで、ＰＴＡ会員全員参加で、生徒の登下校時の安全を見守り、挨拶運動を実施している。



新・至民中学校（平成20年４月１日）

ひ・と・こ・と

平成20年２月、旧至民中学校で行われた「母校訪問の日」に、かつての卒業生が多数来校され、昔の思い出に花を咲かせるとともに、新至民中学校へのエールを送ってくださった。あれから２ヵ年、様々な挑戦を経て、異学年型教科センター方式の取組みが「未来の学校」のモデルとして県内外、国内外に広まりを見せ始めている。今後、様々な異学年・異年齢の人たちとの学び合いを一層深め、自立心と社会性にあふれた良き地域人に成長できるよう、学校文化の創造と継承に邁進したいと考えている。

◈ 社南スポーツ少年団 ◈

野球部（社南ビクトリー）

設立年月日　昭和52年４月１日

団　員　数　21名（平成22年４月１日現在）

指　導　者　監 督　森本　春源　　コーチ　朝倉　啓治・福岡　英治

目的及び活動状況

少年野球を通じ、練習・試合などでは互いに励まし助け合い、技術もさることながらむしろ精神面の鍛錬に気を配っている。

野球以外でも互いを尊重し合い友情の心を育み、個々の精神力向上とともに厳しい状況にも協力して困難に立ち向かえる力を学童期に養うことを目的としている。「礼儀正しくしよう、全力疾走しよう、声を出そう、挨拶をしよう返そう心から」をスローガンに、週６日間（月曜日を除く）平日は午後５時から７時まで練習、休日は主に練習試合を行っている。

毎年、バーベキューや研修旅行も行い、子供本来の素直な気持ちを引き出せるようみんなで協力してがんばっている。

成果（平成21年度）

・福井葵ライオンズ杯第１回福井市学童野球新人大会出場
・第35回福井市春季学童野球大会出場５位
・高円宮賜杯第29回全日本学童軟式野球大会福井県大会出場
・第40回福井市夏季学童野球大会出場
・福井県知事杯第40回学童野球選手権大会出場
・第36回福井市秋季学童野球大会出場ベスト４
・ろうきん杯第22回福井県学童軟式野球大会出場ベスト８





社南ジュニアソフトボールクラブ（社南イーグルス）

設立年月日　　平成２年４月

団　員　数　　34名（平成22年６月１日現在）

沿革・目的

ソフトボールを通じ、豊かな人間性をテーマに体力向上・礼節の習得を目指し、心身共に健全な青少年育成を目的とし、平成２年４月に設立。

活 動 状 況

活動は週５日、主に西谷公園ソフトボール場にて社南小学校の児童３年～６年生25人が練習に励んでいる。子供たちはソフトボールという競技を通じ、協調性、思いやり、また精神力を磨き体力向上を図るとともに、全国大会出場を目指し練習している。

成果・主な成績

平成21年度・福井県少年ソフトボール選手権大会　第３位
・福井県少年ソフトボール選手権大会　準優勝
・北信越少年ソフトボール選手権大会　優　勝
平成22年度・福井市少年ソフトボール大会　優　勝
・ミズノオープンジュニア福井県大会　優　勝

現 指 導 者　統括本部長　轟　則雄
監　督　杉森　晃
コ　ー　チ　桶師　純一・児玉　浩二・飯田　徳彦



社南Ｊｒ．バレーボール スポーツ少年団（男子）

設立年月日　平成元年

団　員　数　19名（平成22年４月現在）

指　導　者　部　長　　久嶋　規夫

監　督　　上坂　　傳

コーチ　　長永　政憲

活動状況

社南地区を中心とした子供達が、週3回汗を流している。

昨年、創部２０周年記念大会を行った伝統あるチームである。

あらゆる大会で上位入賞経験もあり、最近はＪＯＣ選抜メンバーにも選ばれ、活躍している卒部生も多数出てきた。そのおかげで、最近は見学者や入部希望者が増えており、手が回らないといった嬉しい状況である。

今年から、新しいコーチを迎え、悲願の全国大会出場を目指し元気いっぱい頑張っている。

平成21年度の大会結果

・第９回九頭竜杯　奥越小学生バレーボール大会　準優勝
・第22回北信越小学生バレーボール大会　準優勝
・第28回ゲンキー杯　バレーボール大会　準優勝
・第18回福井市小学生バレーボール会長杯　優　勝
・第23回越前市招待小学生バレーボール大会　優　勝
・第17回ベルカップ小学生バレーボール大会　優　勝



社南ジュニアバレーボール（女子）

設立年月日　　平成元年１月14日
団　員　数　　14名（平成22年４月現在）
指　導　者　　久嶋　規夫・鶴見　守之・奥田　秀美

目的及び活動内容



週３回、木・土・日　社南小学校の体育館を使用し、３年生～６年生のバレーボールが大好きな子供達14人が、汗を流して練習に励んでいる。

ジュニアバレーボール部を立ち上げた久嶋部長のモットーは、「心と身体を鍛え、スポーツを愛する子供達を育てる」である。

設立当初は、１勝するのが難しかったと聞いていたが、今では、県大会に出場出来る代表チームのひとつになっている。

子供達は、勝った時は、皆んなで喜びを分かち合い、負けた時は、悔しさを忘れず次の試合に生かす。１つ１つ試合を重ねるごとにチームの結束は強くなっている様に思う。毎年４月には富山、５月には加賀、７月には輪島の方へ遠征に行かせて頂いている。この交流試合には、北陸３県だけではなく新潟県・愛知県・兵庫県などから数多くのチームも参加しており、子供達もいろんな刺激を受けて帰って来ている。





バレーは長年続けられるスポーツです。部長の考えの様にスポーツを愛しバレーを何歳になっても楽しく続けている子供達に育っていってもらいたいと思う。

江守の里少年剣道教室（社南江守の里剣道スポーツ少年団）

設立年月日　昭和53年４月

創立時は、江守の里のあさかぜ保育園のホールで活動していたが、現在は、社南小学校体育館で活動している。

33年目を迎え、多数の子どもたちが卒業、教員になり、剣道の指導や公安職に就き、治安維持に、また、当教室の指導者として、忙しい中、指導に当たっている者もいる。

団　員　数　24名

指　導　者

林　茂夫・小玉　完嗣・高橋　亮・浜崎　裕太・菱田　尚人・小玉　祐美

目　　的

教室の部旗に掲げてある「文武両道」が目的で、勉強に剣道に武道の精神である礼儀・忍耐力を養い、何事にも集中出来るような子どもを育てようと活動している。

活　　動　週３回　水・金曜日　午後５時30分から同７時00分まで

土曜日　午後０時30分から同３時00分まで

稽古場所は社南小学校体育館で、夏の猛暑でも面をかぶり、冬の寒い日でも裸足で子どもたちはがんばっている。

夏休みには暑中稽古、冬休みには寒稽古を、１週間続けて稽古をし、最後の日には全員で合宿を行い、慰労と親睦を図っている。

５年前までは、福井市・福井県の大会で多数優勝し、常勝江守だったが、最近は今一つ成績が上がらず、子どもたちは先輩に続けと頑張っている。







社南ジュニアバドミントン

設立年月日　平成４年

団　員　数

41名（男子14名・女子27名）

（平成22年４月１日現在）

代　表　者

平成４年～19年

中　山　和　則

平成20年～

小　倉　豪　円



活動内容

社南ジュニアバドミントンは、小学校の先生が放課後活動の一部として活動していたものを前代表者の中山氏が引き継ぎ、スポーツ少年団として平成４年に設立された。バドミントンを通じて協調・努力・忍耐・喜び・楽しみを少しでも多く経験させ、健康な身体と心を持った人間の育成を目的としている。

設立当初はコーチも団員も少なく、練習も週１、２回程度だったが、現在では地区のバドミントン経験者の方や保護者のみなさんの協力のおかげで社南小学校を中心に週３～４回の練習を行っている。練習方法は、子どもたちの力に合わせた３つの班（A…上級　B…中級　C…初級）に分かれて行っている。どの班の子どもたちも、上手くなりたい強くなりたいという目標を持って練習に励んでいる。

設立から20年近い歴史の中で全国大会入賞をはじめ輝かしい成績を残してきた。今年度も団体では６年ぶりの全国大会出場（女子）をはじめ、北信越大会（個人戦）、県大会上位入賞など、先輩たちに決して引けをとらない成績をおさめている。

卒団した先輩の中には、現在もバドミントンを続けている方が多く、県の代表選手として活躍している選手もいる。また、コーチとして子どもたちの指導を手伝ってくれる方もいる。嬉しいかぎりだ。

子どもたちが将来、「社南ジュニアでバドミントンをしていて良かった。」と心から思えるよう、これからもコーチ、保護者の方と協力して育成に努めたいと思う。

福井市 社　保　育　園

所　在　地：福井市種池１－811　　電　話：３６－００６５
創設年月日：昭和30年４月１日　　改　築：昭和56年４月１日　　定　員　105名

《保育理念》

福井市社保育園は、一人ひとりの子どもが、現在(いま)を幸せに生活し未来(あす)に向かって、生きる力を 育てるために、次のことを行う。

１、子どもの生きる喜びを支えます。

２、保護者の育てる楽しさを支援します。

３、子どもと子育てにやさしい社会をつくります。

《基本方針》

〈子どもの最善の利益の尊重〉

一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に推進するよう努める。

〈子どもの発達保障〉

養護と教育が一体となった保育を通して、一人ひとりの子どもが心身ともに健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、生きる喜びと力を育むことを基本として、その健やかな育ちを支える。

〈保護者との協力〉

子どもと保護者のおかれた状況や意向を受けとめ、保護者とより良い協力関係を築きながら、子どもの育ちや子育てを支える。

〈プライバシーの保護〉

一人ひとりのプライバシーを保護するため、保育を通して知り得た個人の情報や秘密を守る。

〈利用者の代弁〉

日々の保育や子育て支援の活動を通して子どものニーズを受けとめ、子どもの立場に立ってそれを代弁する。また、子育てをしているすべての保護者のニーズを受けとめ、それを代弁していくことも重要な役割と考え、行動する。

〈地域の子育て支援〉

地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、そのネットワークにより、地域で子どもを育てる環境づくりに努める。

〈チームワークと自己評価〉

職場におけるチームワークや、関係する他の専門機関との連携を大切にする。また、自らの行う保育について、常に子どもの視点に立って自己評価を行い、保育の質の向上を図る。

〈専門職としての責務〉

研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たす。

ひ・と・こ・と

園庭には、大きなイチョウの木があります。初夏には緑色の葉っぱがたくさん茂り、やさしい木陰を作ります。秋も深まる頃になると黄色く色づいた葉っぱのじゅうたんが広がりとても綺麗です。１年中、高く聳え立ち、まるで子ども達を見守っているようです。

そんな園庭の一角では畑作りをしています。野菜の成長はいつでも見ることができ「花がさいている！」「あかちゃんのきゅうりがある！」など発見の連続です。自分達で育てて収穫した野菜を皆で味わい、食べ物を大切にする心、感謝の気持ちを育てています。

地区公民館で活動している『童謡の会』との交流では、和やかな雰囲気の中で、手遊びや歌遊びを楽しんでいます。又ボランティアの方による本の読み聞かせでは、お話しに夢中になり、好きな絵本や好きな場面を繰り返しリクエストし、本が大好きな子ども達がいっぱいです。

一人一人が安定して過ごせる環境を整えながら、地域や保護者の方々と手を取り合って生きる力の根っこを育てていきたいと思っています。



社保育園　全景

社会福祉法人　社 中 央 保 育 園

所　在　地　福井市渕４丁目1005番地　　**電　話**　36-0695
設立年月日　昭和41年４月１日
理事長・園長　山　田　健　治
園 児 定 員　120名（平成22年4月1日現在）

設立　沿革

福井国体開催を目的に昭和38年頃より造成された福井運動公園。この運動公園を中心として福井市のベッドタウンとして福団地、社団地が造成され、社地区の人口は日増しに増加の一途を辿った。これに伴って地域住民から保育園設置の要請が高まり、数多くの地区皆様の御支援,御協力によって昭和41年に福井市では６番目の民間保育園として社中央保育園・初代理事長 故山田健一氏によって渕町６号29番地（現・渕４丁目209番地）に開園した。その後も地区内の人口増は止まらず児童も増え続け、本園はその都度、待機児童に対応して保育室、遊戯室等の増改築等を幾多となく行なって対応してきた。

昭和60年にはこの社南地区の都市計画事業が始まり、それに伴って渕４丁目209番地の社中央保育園園舎は移転を余儀なくされ、昭和61年３月、渕４丁目1005番地に新築移転し現在に至っている。



社中央保育園　全景

保 育 目 標

恵まれた環境と大きな愛情で子どもの可能性を伸ばす。

○ 丈夫な身体
○ がんばる力
○ 豊 か な 心

・元気で明るくたくましい子ども
・けじめと忍耐力を合わせもつ子ども
・感性豊かで思いやりのある子ども
・自分で考え創り出す子ども

2-1本園の特色保育

◎具体的な六つの特色ある保育

☆「モンテッソーリ教育」……魅力的で適切な環境を提供し、子供の知的好奇心を育み自主性や考える力を養う保育を行っている。

☆「陶食器使用」……給食に壊れる陶食器を扱うことで、すべての物を大切に扱うことを育む。

☆「ぞうり健康保育」……園内では足のかかとより小さめの「足なか草履」を年中通して履きぞうり履きは足の土踏まずの形成が促進され健康な身体をつくる。

☆「スポーツ教室」……夏の水泳教室や冬のスキー教室などいろいろな運動遊びを年中通して行い忍耐力や体力増進を図る。

☆「漢字養育」……漢字遊びを通して、言葉豊富な子、読書好きな子に育み、感性豊かな心を育てる。

☆「栽培養育」……米、野菜、花などの生育を通して、世話をする喜び、収穫する喜び、働くことの楽しさなどを体験させる。

社南地区行事の参加

社南公民館と地区内の保育園と連携協力を図り、各保育園が輪番で社南地区の行事に参加させていただいている。

地区の参加行事は、敬老会、納涼祭、公民館まつりの３大行事でこれまでの本園の参加内容は以下のとおり。

☆敬老会の参加披露

平成７年度　「セーラームーン伝説」踊り

平成11年度　「鼓隊」演奏

平成16年度　「花笠音頭」踊り

平成20年度　「鼓隊」演奏

毎回おじいちゃんやおばあちゃん達が目を細め顔をほころばせて、温かい拍手を送っていただいた。



平成20年度　公民館まつり

☆納涼祭の参加披露……アンパンマン、ピカチュー、トトロ、恐竜、サッカーボール、モリゾウ、地球儀、ゲゲゲの鬼太郎など毎年、その年の話題性をモチーフにした「おみこし」でわっしょい.わっしょいと会場内を練り歩いた。「おみこし」の後は当番園と各園連携による園児・保護者を交えての踊りの輪を披露している。

☆公民館まつりの参加披露……毎年５歳児の子どもたちの絵画を展示させていただいている。平成20年度には、まつりのオープニングに４・５歳児による「マーチング」を披露した。

ひ・と・こ・と

本園は、今まで同様の地域との関わりは勿論のこと、今後は、本園に存在する資源（保育士等）を地域住民の皆様に活かすために、地域のこども・子育て支援を積極的に推進していきたいと思います。

福井市特別(へき地)保育所　南　居　保　育　園

所　在　地　　福井市南居町93－3　　電　話　　３５－５５４７
設立年月日　　昭和49年４月１日
園　　長　　中村まゆ美
目　　的

本園は、児童福祉法に基づいて、保育園と園児保護者、地域の方々とが協力し園児の健全な成長と発達を援助することを目的とする。

創　設　期

南居保育園は、昭和47年社南小学校南居分校の廃止の条件として市が昭和49年に南居保育園が設立された。また、昭和60年にテクノパーク工業団地の造成建設に伴い、南居集落センターが建設され、歴代区長、役員の方々の計らいで、集落センターの敷地内に南居保育園移転新築が計画され、平成７年に施工、完成し現在に至る。

保育方針

園は、福井市の郊外にある為、山や田に囲まれ静かでのどかな環境の中に園舎があり、地域の方に温かく見守られながら、園児たちは、のびのびと育っている。
保護者とのつながりも深く、行事参加や子育てでの相談など積極的に取り組んでいる。
この園では、異年齢児と一緒に活動する事で相手の思いやり、強調性が養われ心豊かな人間性を育てている。

教育活動状況

４、５歳児は、一年を通して英語、音楽教室を取り入れている。

発表会には、英語劇にチャレンジして音楽では、ハンドベルで綺麗な音色で演奏をして保護者からの反響はとても良い。又福井南養護学校と年２回クリスマス会や、創作遊びなどで交流を深めている。

現在園児数

５歳児	４　名
４歳児	４　名
３歳児	２　名
２歳児	３　名
１歳児	１　名
０歳児	１　名
計	15　名



４・５歳児の英語劇



４・５歳児のハンドベル

歴代園長　保護者会長

昭和48年４月１日　～　昭和51年３月31日　　飛山　一郎
昭和52年４月１日　～　平成８年３月31日　　岩崎　洋一
平成８年４月１日　～　平成16年３月31日　　岩崎　　徹
平成16年４月１日　～　現在に至る　　中村まゆ美

昭和56年　滝谷　武男	平成３年　市村　貞夫	平成13年　中山　喜和
昭和57年　横山　則雄	平成４年　飛山伊知郎	平成14年　西野　浩成
昭和58年　飛山　才智	平成５年　横山　敏一	平成15年　飛山　芳寛
昭和59年　横山　哲尉	平成６年　横山　正直	平成16年　市村　保行
昭和60年　岩崎　信博	平成７年　藤江　俊弘	平成17年　石原　透雄
昭和61年　市村　一義	平成８年　竹内　幹男	平成18年　中村　力夫
昭和62年　中村　成二	平成９年　小竹　久夫	平成19年　白崎慎太郎
昭和63年　市村　　忍	平成10年　田端　輝永	平成20年　小林　祐二
平成１年　中山　吉法	平成11年　横山　和則	平成21年　辻　　寛道
平成２年　中山　進一	平成12年　高島　　理	平成22年　横山　敏正

父母の会活動

４月　資源回収
６月　園庭整備（遊具ペンキ塗り、砂場危険物撤去、草刈り）
８月　夏まつり　保護者の発表　夜店など
９月　運動会の準備など
11月　親子のつどい　そば打ち体験
12月　資源回収
３月　総　　会



親子のつどいで、そば打ち体験



夏まつり、保護者の発表

ひ・と・こ・と

昨年一年間、風の子会の役員として、保育園の行事に参加しました。そば打ちをした親子のつどいや、子供の成長が見られる運動会や発表会。毎年いろいろ工夫されている先生方の少しでもお手伝いができているのか心配になったりもしましたが、一年間先生方や役員同士、力を合わせて無事終った時はホッとしました。

社会福祉法人育幼福祉会　あさかぜ保育園


園　舎

所　在　地　〒918-8035 福井市江守の里１丁目809
設立年月日　昭和54年4月1日　園長名　伊川 千里
ＴＥＬ　0776-35-7160　ＦＡＸ　0776-35-0182
E-mail：asakaze-h@ec2.technowave.ne.jp　http://www.kosodate-web.com/asakaze/

設立（誕生）

☆福井市の南西に位置し、山・堤・田畑等豊かな自然に囲まれている。福井市が造成した振興住宅地「江守の里」の住民からの強い要望があり県、市当局のご指導により、江守の里の中心部に昭和53年に「社会福祉法人育幼福祉会」が、昭和54年に「あさかぜ保育園」が誕生した。

☆理念「共に輝く命」－共に感動・共に成長－

子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益・幸福のため、保育園、保護者・地域の方々と力を合わせ、地域の児童福祉向上のために援助をおこなう。

☆基本方針

・「受容」ありのままを受け入れ、限りない可能性を伸ばします。
・「共有」共に手を取りながら豊かな育ちを応援します。
・「連携」地域の中で温かい人の輪を広げます。
・「研鑽」自らを高め、学び、心豊かな人として成長します。

現　　況

☆保育時間は早朝７時から夕方７時まで。

・０歳（産休明け）～５歳児（就学前）までの保育
・一時保育・障害保育・早朝延長保育等多様なニーズに対応している。

豊かな自然を取り入れ、主体的に取り組む保育、デイサービスの老人との交流等を行っている。

☆園児数の移行

	年　度	定　員
昭和	５４　年	６０名
〃	５８　年	８０名
〃	６２　年	９０名
〃	６３　年	１１０名
平成	１１　年	１２０名
〃	１５年～	１５０名

☆子育て支援センター「たんぽぽ広場」

福井市地域子育て支援事業の委託を受け平成20年に開設した。

広場は、親子が一緒に遊びながら、コミュニケーションを深めるところである。子育ての相談会や講演会を開催する。また親子の遊びや子育て情報の提供などを通して子育てを応援している。


子育て支援センター

お問い合わせ

〒918-8035 福井市江守の里2丁目119 子育て支援センター たんぽぽ　TEL/FAX 0776-35-7517

歴代理事長・歴代園長

☆歴代理事長　初　代　伊川　清邦　昭和54年４月～平成16年７月
　　二　代　伊川　宗允　昭和16年７月～平成19年11月
　　三　代　伊川　千里　平成19年12月～現在に至る

☆歴 代 園 長　初代園長　伊川　千里　昭和54年４月～現在に至る

☆歴代保護者会会長

第１回（S54）藤井　博子	第12回（H02）畑　みどり	第23回（H13）高溝　律子
第２回（S55）山﨑　節子	第13回（H03）西原　悦子	第24回（H14）渡辺　尚代
第３回（S56）天谷　多美	第14回（H04）坪川　祥子	第25回（H15）門井　康雄
第４回（S57）佐藤美代子	第15回（H05）藤井　直美	第26回（H16）佐々木一彦
第５回（S58）寺腰　明美	第16回（H06）高田　順子	第27回（H17）坂東　耕司
第６回（S59）有馬智栄子	第17回（H07）岡　智恵子	第28回（H18）塚谷　浩一
第７回（S60）田中　英子	第18回（H08）山﨑　智子	第29回（H19）塚谷　浩一
第８回（S61）坪川　裕子	第19回（H09）山﨑　智子	第30回（H20）山﨑　寿夫
第９回（S62）坪川よしえ	第20回（H10）横山　亜紀	第31回（H21）平岡　孝幸
第10回（S63）内山喜代子	第21回（H11）小玉　邦子	第32回（H22）佐部　哲治
第11回（H01）川崎由美子	第22回（H12）高溝　律子	

保護者会の活動状況

会員相互の親睦を図り、園児の健全な育成と福祉の増進のため、園の保育に協力することを目的として活動している。

・保護者会の活動
……講演会・講習会・座談会・バザー・ベルマーク集め・おやじの会・母親クラブ等
・園行事協力・交通安全教室（やまびこクラブ）・作業奉仕・運動会・夏祭り



バルーンで遊ぼう



親子で城山登山

ひ・と・こ・と

これからも次の世代を担う幼子を国の大切な宝として大切に育んでいきたいと思います。

地域の皆様にいつまでも愛される施設であるために、今後更に精進して行きたいと思います。

福井市つばき児童館


つばき児童館　全景

所　在　地　　福井市種池２丁目309番地
電　　話　　0776-33-0645

児童館及びつばき児童館の概要

児童館は、児童福祉法第40条に規定する児童厚生施設の一つで、児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的としている。

平成５年、つばき児童館は福井市で最初の児童館として創設された。

児童館は、福井市が設置、福井市社会福祉協議会が管理・運営し、適正な運営を図るため、福井市社会福祉協議会が委嘱した運営委員会が設置されている。

つばき児童館の歩み

平成５年４月　開設　放課後児童会　定員40名、児童厚生員３名
15年４月　定員70名（50㎡増設）
18年４月　定員95名（さらに50㎡増設）、児童厚生員４名
19年４月　定員125名、児童厚生員６名
社南小学校の余裕教室で第２放課後児童会を増設、第１放課後児童会（本館95名）、第２放課後児童会（社南小30名）となった。
20年４月　定員95名、児童厚生員４名
指定管理制度導入後の指定により、福井市社会福祉協議会が従来通り児童館を管理運営することになり、定員は95名に減員された。
一方、放課後児童クラブとして、「社南児童クラブ」と「のびっ子クラブ社南」が新設された。地区総計165名
21年４月　定員95名、児童厚生員４名
その他、「社南児童クラブ」、「のびっ子クラブ社南」、地区総計185名
22年４月　定員70名、児童厚生員３名
その他、「社南児童クラブ」、「のびっ子クラブ社南」、地区総計175名

つばき児童館の活動

《平成21年度》

① 児童館としての活動 ＝ 児童館は18才未満の児童が自由に来て遊べる場所であり、土曜日を中心に「七夕飾り」など地域・季節行事や親子行事を行った。

② 放課後児童会としての活動 ＝ 放課後児童会は低学年（１・２年）の留守家庭児童の放課後の生活の場である。子どもたちは学校から集団下校し、おやつ、宿題の後、夕方のお迎えまで、さまざまな遊びで過ごす。金曜日には、クラブ活動として剣玉、卓球、折り紙、コマなどを楽しむ。また、『いちのすけ文庫』では、週１回本の貸し出し、月１回のおはなし会（坪川祥子氏、小林悦子氏）を実施した。その他、長期休業中には、サイエンス寺子屋（平井博政氏）、空襲体験の紙芝居（林正夫氏）、ハープ演奏会（広部正雄氏）、こども自然エネルギー体験教室、ジャグリングショー（藤島高校生）等を開いた。


ナチュラルランド（花の苗植え）

つばき放課後児童会には保護者会が組織され、役員を中心に保護者会の行事も催されている。

③ 子育てひろば ＝ 小学校の長期休業を除く毎週木曜日の午前中開催。お母さん達の情報交換や子育て相談、講師を招いての健康教室やリトミック体操教室などを実施した。

④ 貸し館 ＝ 平日の午前・夜や日曜日、地区団体に貸し出している。


工作活動

歴代の運営委員長、館長（敬称略）

〈運営委員長〉藤井　文藝：平成５年度～８年度　村橋　正昭：平成９年度～12年度
大久保源久：平成13年度～

〈館　　長〉吉岡多美子：平成５年度～６年度　牛若　　清：平成７年度～10年度
安田　　彰：平成11年度～14年度　重森　正雄：平成15年度～20年度
田中　元彦：平成21年度～

ひ・と・こ・と

つばき児童館は、社南地区に開かれた子育て支援の施設です。館における行事などの催しは自治会回覧や社南小学校全児童に配布している「つばき児童館だより」でお知らせしています。ぜひお気軽におこしください。

あさかぜ社南児童クラブ



平成20年４月１日に「社南児童クラブ」を福井市江守の里２丁目119番（あさかぜ保育園前）に開所。保護者の就労を応援し、子ども達が放課後、家庭的な雰囲気の中で安心して、学習や色々な遊びなどを行いながら子どもを見守り、支援する施設である。

☆留守家庭子どもの居場所です。（放課後、子ども達がくつろぐ場です。）
☆宿題を中心に勉強したり、遊んだり、おやつを食べたりする生活の場です。
☆異年齢の中で、共に生活することを通して、色々なことを学んだり、
　思いやりの心を育みます。

対　　象：主に小学校低学年児童
　　平成22年４月現在児童数
　　…１年生21名　２年生13名　３年生６名
　　夏休み等長期休暇中のみ利用者　18名



七夕飾り

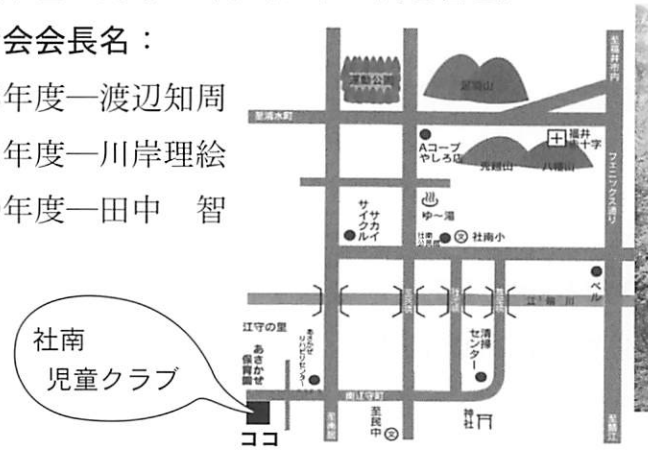
開設場所：福井市江守の里２丁目119（あさかぜ保育園前）

TEL ・ FAX：０７７６－３５－７５１７

開設日・時間：月曜日～金曜日…下校時から18：30まで
　　早朝利用 …　8：00～ 8：30 ―― （届出が必要）
　　延長利用 … 18：00～19：00 ―― （届出が必要）有料
　　土曜利用 …　8：30～18：00 ―― （届出が必要）
　　長期休暇（春・夏・秋・冬休み）… 8：30～18：00（届出が必要）有料

利用料金：月6,500円（おやつ代を含む）

保護者会会長名：
　2008年度―渡辺知周
　2009年度―川岸理絵
　2010年度―田中　智





お花見

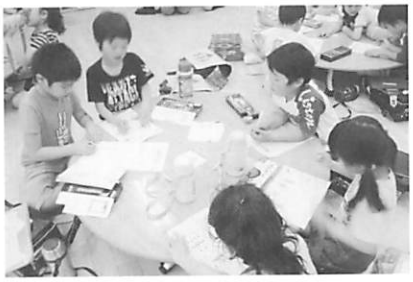
杜南児童クラブでは こんなことをしています。

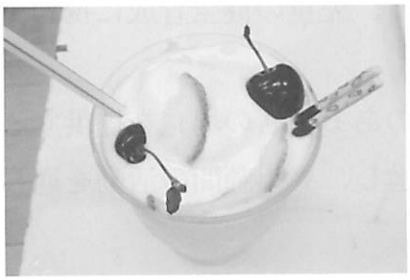


地域のなかで(夏祭り)


☆お誕生会☆


足羽山に小遠足


♪勉強(宿題)中♪


クリームソーダー



白バイに乗ったよ♪


運動公園プールにて


梅ジュース作り


脇三ヶ自然の家(カレー作り)


ひな祭り・お茶会


大飯子ども家族館

その他行事

☆お花見
☆自然とあそぶ(虫とり・草花あそび)
☆じゃがいも・さつまいも植えと収穫
☆読み聞かせ会(坪川祥子氏)
☆プールあそび
☆市美術館・みどり図書館
☆そばうち会(ボランティア)
☆脇三ヶ自然の家
☆誕生会・クリスマス会
☆ひなまつり・お茶会

保護者会活動

☆パン作り体験(ラポーゼ・かわだ)
☆夏休み お楽しみ会(小旅行)
☆そうめん流し
☆もちつき会
☆お別れ会

ひ・と・こ・と

とにかく元気いっぱいの児童クラブの子ども達！
えらい人にはならなくてもいい。人の気持ちが分かる思いやりのある人、何事にも一生懸命に取り組み、目標に向かって努力する人になれるように応援していきたいと思います。

のびっ子クラブ社南

所　在　地　福井市渕４丁目748番地　　**電　話**　0776－97－5001
運　　営　特定非営利活動法人 ワーカーズコープ　　**代表者**　高橋　和枝

設立年月日　平成20年４月１日

目　　的

私たちのびっ子クラブは、福井市の子ども福祉課から委託された児童クラブで、全国組織のＮＰＯ法人ある。

地域の中の児童クラブとして、児童の健全育成に携わっている。

考　え　方

子ども達に「安全で安心感のある生活の場」を提供する。

子ども達の心身の健康を増進し、異年齢間の活動を通して基本的生活習慣を身につけ、社会性・自立心を育む。

子ども達の日常の様子等を常に保護者に伝え伝えて頂き、信頼関係を築けるよう努力する。

特　　色

利用時間に柔軟性を持たせ、その地域に合った開館時間設定を検討する。

宿題への取り組みなど、子ども達の自発的な学習の習慣づけに取り組み、ことばかけをする。

夏休みなど長期休暇のみの受け入れも検討する。

登　録　数

年 / 学年	平成20年	平成21年	平成22年
1　年	0	5名 3名	5名 5名　(長期のみ)
2　年	0	23名 5名	25名 10名　(長期のみ)
3　年	28名	14名 12名	22名 23名　(長期のみ)
4　年	0	0 11名	7名 11名　(長期のみ)
校区外	0	0 6名	0 5名　(長期のみ)
6　年	0	0 0	0 1名　(長期のみ)

これまでの活動

初年度は、渕集会室をお借りして３年生28名だった。社南小学校からは遠い距離だったが、職員の付き添いもあって無事過ごせた。地域のお祭りにも参加させていただいた。保護者の方の手作りのポンポンを付けて踊った。社南公民館で、民生委員の方々とカレー作りもした。３杯もおかわりした子もいた。



渕夏祭り


みんなでカレー作り

平成21年には、旧至民中学校を改築していただき、そちらへ移った。１階と２階に２部屋ずつあり、廊下も広く、ボール遊びやこおり鬼ごっこ等毎日楽しく過ごしている。夏休みには、お泊り会もした。

３月のお別れ会では、保護者の方たちが炊飯器を持ち寄りカレーピラフ。そして、たこ焼き器で、たこ焼きを作っていただいた。とっても、美味しかった。

今年は、５月にのびっ子まつりをした。社南公民館でテントを貸していただき、わたがしやポップコーンのコーナーを作り、中では、母の日にとリボンでコサージュつくり、バルーンであそぼうコーナー等、たくさんの方々に来ていただきとっても楽しかった。


ポップコーンコーナー


バルーンコーナー

ひ・と・こ・と

保護者の方々が安心して就労できるように、のびのびとすごせるようにと、願っています。

地域に合った、柔軟性をもった児童クラブをめざしています。

◈ 第４節　社南地区のまちづくり事業 ◈

福井市市民憲章によるまちづくり事業

はじめに

昭和39年６月28日、福井市16万市民の心のよりどころとして不死鳥のねがい「福井市市民憲章」が誕生した。

福井市は、昭和20年の戦災をはじめ、昭和23年の大震災、その１ヶ月後の水害とたび重なる災害を受けたが、これらの災禍を乗り越え、永遠の生命を有する不死鳥の如く、街の復興を図ってきたのである。

昭和27年に至り、一応の復興が成り、これを記念して「新しい理想に基づく郷土と郷土精神の創造」をうたった福井復興博覧会が福井大学と足羽山公園を会場に盛大に開催された。これにより、戦災と震災からの復興と新たな県都・福井市の建設に向けた展望が開かれたのである。

かくして、本市は、全国でも稀な復興建設の実をあげるとともに、都市計画、下水道建設の都市基盤整備や教育文化の振興、産業開発が着々と進み、近代的文化都市へと変貌を遂げてきたのである。また、当時の全国的な高度経済成長の波に乗り、市民生活はより豊かで便利なものになってきた。

一方、これらの外面的復興建設、物質的繁栄に並行して、内面的精神面の充実が伴わなければ、真に明るく、住みよい郷土の建設は不可能である。そのために、市民一人ひとりが共同社会を担う一員としての自覚を高め、温かい思いやりのある人間性の高揚を図ることが大きな課題となってきた。そこで、輝かしい復興を成し遂げた不屈の精神と燃える郷土愛を福井市市民憲章として制定されたのである。

不死鳥のねがい（福井市市民憲章）

わたくしたちは
不死鳥福井の市民であることに誇りと責任を感じ
郷土の繁栄と幸福をきずくため　力をあわせ
不屈の気概をもって　このねがいをつらぬきましょう。

一　すすんで　親切をつくし
　愛情ゆたかなまちを　つくりましょう
　あいさつは　まず私から　声をかけよう

二　すすんで　健康にこころがけ
　明朗で活気あるまちを　つくりましょう
　家族そろって　早ね早おき朝ごはん

三　すすんで　くふうをこらし
　清潔で美しいまちを　つくりましょう
　マイはし　マイカゴ　マイバック

四　すすんで　きまりを守り
　安全で住みよいまちを　つくりましょう
　鍵かけ　と　一戸に一灯防犯灯

五　すすんで　教育を重んじ
　清新な文化のまちを　つくりましょう
　見てふれて　知ろうふくいの　文化と歴史

（昭和三十九年六月二十八日制定）

（実践目標は平成21年度から）

不死鳥とは……
エジプトの伝説上の霊鳥フェニックスのことで、形はワシに似て赤や金の翼を持っており、死期が来ると、みずから燃える火中に入って焼かれ、その灰の中から再生すると言われている。
たび重なる災禍にもめげず、再び三たび立ち上がった福井市民の努力は、まさに「不死鳥（フェニックス）」の姿にも似ていることから、福井市民及び福井市のシンボルになっている。

福井市市民憲章推進協議会社南支部の発足

福井市市民憲章推進協議会が昭和39年６月28日設立されたおり、地区活動を推進するため、公民館ごとに支部を置くとしており、同年７月20日には支部規約が制定され施行された。

当地区では、地区誕生とともに、公民館長が支部長となり、社南支部が結成された。

社南支部の活動

昭和62年度より、一世帯当り50円の市民協力金をいただき、これと福井市よりの補助金により、支部を運営している。

平成21年度　社南支部　事業計画書

月　日	事業内容	場所	備考
	●実践活動事業		
	親切奉仕部門		
４月・８月	忠魂碑清掃	薙刀山（なぎなたやま）	
	健康増進部門		
７月	夏休み親子ラジオ体操	社南小学校	
	歴史探訪	地区内	
	郷土美化部門		
４月	公民館花壇の花植え	社南公民館	
	各家庭へ花苗を斡旋		
８月・11月	花壇コンクールと表彰	各家庭・公民館	
	街路樹下の草取り	街路樹下	
11月	クリスマスイルミネーション		
	きまりを守る部門		
７月・12月（第２土曜日）	青少年指導の為の地域環境点検		
	文化教養部門		
５月～翌２月	地区内店舗取材(ブランド化)	地区内	
	政治経済学習塾		
４月～翌２月	公共交通を考える	社南公民館	
５月～翌２月	公民館まつり	地区内	
11月	自主グループ発表会	社南公民館	
	●普及啓発事業		
	推進のための情報発信		社南公民館
４月～翌３月			ＨＰメール



公民館花壇



忠魂碑清掃



地域環境点検



親子ラジオ体操

ふるさとおこし“４２”推進事業（平成２年度）

この事業は、市内42地区それぞれが持っている資源・資産・文化を見つめ直し、それぞれの地区が特色を活かして個性豊かな魅力ある地域づくりに取り組むことにより、福井市全体の活性化に結びつけていくことを目的とした事業で、当地区は「ふるさとおこし社南地区委員会（会長 川井六太夫)」を発足させ、委員会でいろいろ検討した結果、地区を「花咲く里」にするため、下記の事業に取り組んだ。

実施年度　　平成２年度 福井市から300万円の支援事業

事業の内容　　街路樹下花壇整備事業 花は「松葉菊」

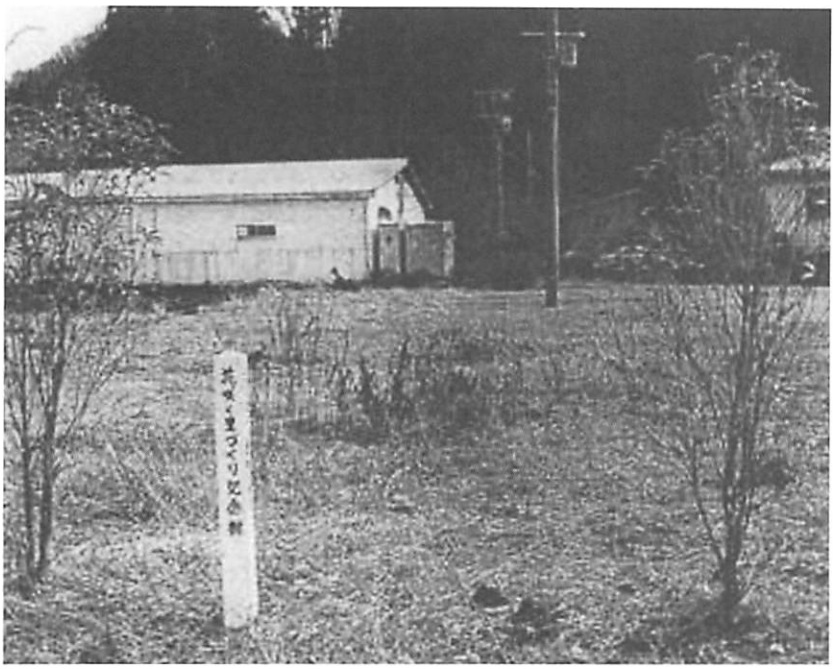
地区の花木指定 及び 記念植樹事業

地区の花木を金モクセイに決め、地区内31自治会と公民館、社南小学校、至民中学校へ34本の記念植樹を実施した。





街路樹下花壇整備事業





地区の花木指定及び記念植樹事業

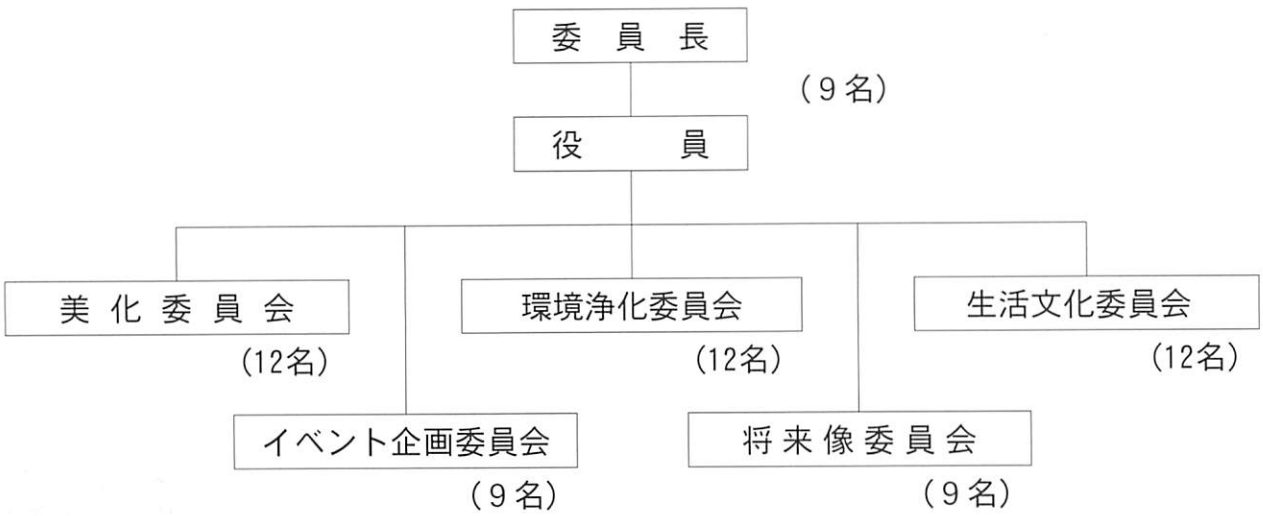
うらがまちづくり推進事業（平成６年度～９年度）

趣　　旨

福井市内43地区が伝統、文化、自然などに育まれた“うらがまち”を再発見し、魅力ある地域づくりに住民参加型で取り組むことにより、福井市全体が活性化していくことを目的とした。市民一人ひとりが一役を担うことによって活力ある・人にやさしいまちづくりを推進する「運動会型市政」活動のひとつとしての「うらがまちづくり推進事業」に参画し、社南地区では「うらがまちづくり社南委員会」として事業に着手することになった。平成６年度は実施計画策定期間とし、平成７年度～平成９年度を実施期間とした。

組　織

【うらがまちづくり社南委員会】



構成員総数50名（兼務あり）

社南地区においては既設の「ふるさと創り協議会」を引き継いで、平成６年９月20日に、５つの委員会から成る「うらがまちづくり社南委員会」を発足させた。「ひとりひとりの顔の見えるまちづくり」をスローガンに新規事業を取り入れた。また、総合事業名は将来像委員会において「花咲く里社南」と決められた。

事業内容

①美化委員会

街路樹の清掃、松葉菊の手入れ、狐川の美化推進、三世代クリーン作戦、花壇コンクール（平成８年度最優秀賞の渕町婦人会は、福井市花壇コンクール大規模部門金賞も獲得）。

②環境浄化委員会

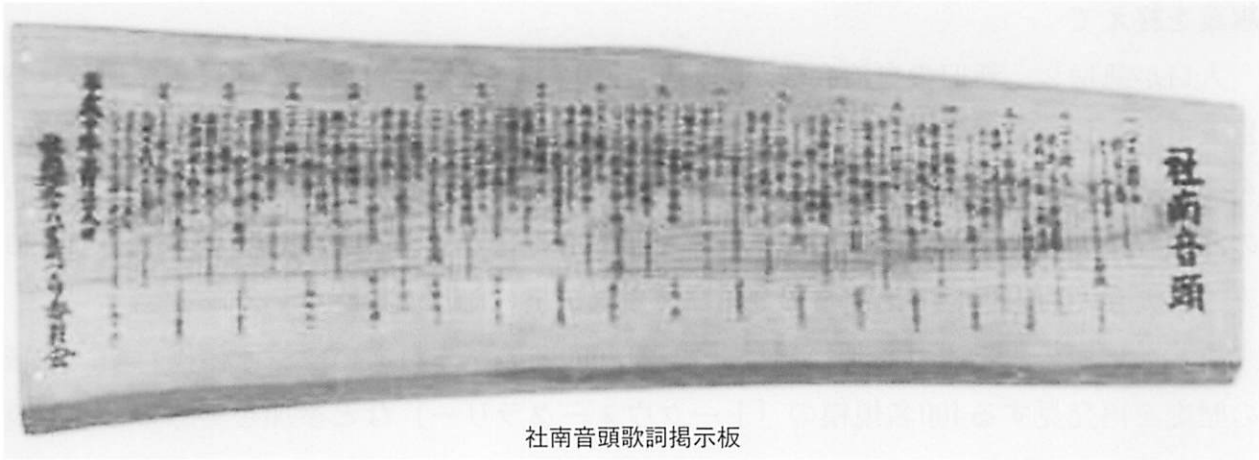
地域環境点検、有害環境浄化チラシ配布、青少年健全育成カレンダー配布、補導巡視



親子ふれあいバスツアー

③生活文化委員会

親子ふれあいバスツアー（敦賀原子力館87名、志賀原子力館45名参加）、夏休み親子ラジオ体操（800名参加）、社南音頭歌詞募集全戸配布（平成８年）、社南音頭作成（平成９年納涼祭にて披露）。



社南音頭歌詞掲示板

④イベント企画委員会

三世代トークウォークラリー(180名参加)
地域内の宝の掘り起こし（カラーイラストマップ作成)
足羽三山みこし製作・地区納涼大会参加(4,200名参加)
足羽三山みこしフェニックスまつり参加(200名参加フェニックス大賞受賞)、地区文化祭やしろ長寿鍋（1,600名参加)。


H9トークウォークラリー

⑤将来像委員会

総合事業名発案（平成６年)、公共施設跡地活用を図る要望書提出（平成７年)、社南地区のシンボルマーク作成（平成９年)。

社南シンボルマーク



シンボルマークの原案

社南地区のシンボルマークは社南全地区民の公募の中から、当時至民中学校１年の西島麻紀さんの作品が選ばれた。

西島さんはマークのコンセプトについて以下のように説明している。「赤色は社南の花（松葉ぎく）や花いっぱい運動で育てられているもの、緑色は社南の木（きんもくせい）や街路樹の木、青色は社南の人々の清らかな空のような心の色。社南はこれらの３つにいつまでも守られている感じを表した。

この事業の３年間の総事業費は358万6千円。そのうち、市補助金300万円、地区負担金33万6千円、その他（事業所協賛金等）25万円。

事業を終えて

人口が急増し、新旧の自治会数が逆転した中で、できるだけ多くの住民が参加できる目玉事業として「手作りみこし」を企画した。足羽山、八幡山、兎越山の「足羽三山」をテーマに工務店や小中学生、住民等延べ600名が制作に協力し、重さ300キログラムもの巨大みこしを製作。社南地区の納涼祭で披露したほか、ふくいフェニックスまつりのみこし大会にも出場して最高賞のフェニックス大賞に輝いた。

また、地域のまとまりを追い風に、親子1,000名の「ふれあいラジオ体操」や、地域の歴史を再発見する400名規模の「トークウォークラリー」など参加を実感できる取り組みを着々と実践した。

有害図書の販売機の撤去や花植え運動、地域一斉クリーン作戦なども展開し、住みよいまちの環境整備にも力を入れてきた。これからも、若い人からお年寄りまで安心して暮らせる「住んで良かった」と思える地域づくりをこれからも積極的に取り組みたい。

うらがまちづくり支援事業（平成10年度～12年度）

趣　　旨

福井市の昨年までの「うらがまちづくり推進事業」は、それぞれの地域において独創的・個性的な事業が展開され、多くの成果をもたらした。

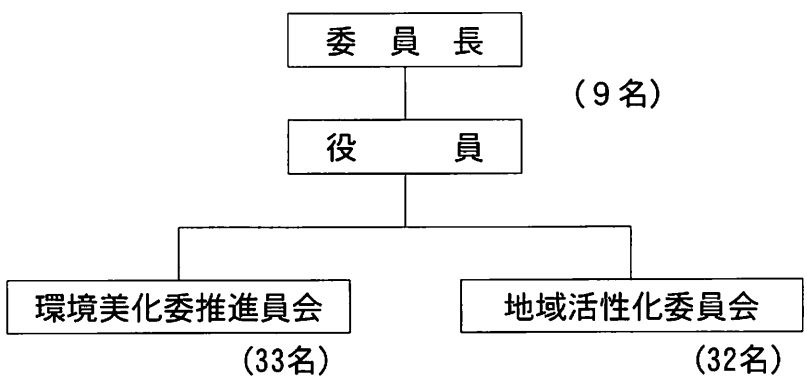
その結果、福井市は平成９年度「潤いと活力のあるまちづくり」優良地方公共団体自治大臣表彰を受賞した。

この事業を継続、またはその精神を受け継ぎ、福井市は21世紀に向けた魅力ある地域づくりをすすめるために「うらがまちづくり支援事業」を創設した。

社南地区の「うらがまちづくり社南地区委員会」は、平成９年度までの５つの組織を２つの組織へと再編し、「花咲く里 社南」事業を継承した。

組　　織

【うらがまちづくり社南委員会】



構成員総数65名

事業内容

①環境美化推進委員会

街路樹下の清掃、松葉菊の手入れ、地域環境点検クリーンアップふくい大作戦、三世代クリーン作戦花咲く里づくり、花壇コンクール。



地域環境点検



青少年育成カレンダー

②地域活性化委員会

トークウォークラリー（410名参加）、夏休み親子ラジオ体操（800名参加）、地区納涼大会（4,500名参加）、敬老会（700名参加）、公民館まつりやしろ長寿鍋（3000名参加）青少年健全育成カレンダー配布。

この事業の３年間の総事業費は234万1千円。

そのうち、市補助金90万円、地区負担金55万円、その他(事業所協賛金等)89万1千円。

21世紀わがまち夢プラン推進事業（平成13年度～16年度）

趣　　旨

うらがまちづくり推進事業は、平成６年、福井市内43地区に対し、市民参加型市政運営の代表的施策として提唱され、平成７～９年を事業実行の年として、社南地区も取り組みが行われ、先に記載したように一応の成果を挙げて事業が終了した。また平成10年度からは“うらがまちづくり”の事業と精神を受け継ぐ事業として『うらがまちづくり支援事業』が行われた。一方、“うらがまちづくり”をさらに一段階ステップアップさせた新たな事業として、平成12年度から『21世紀わがまち夢プラン事業』が創設された。このプランの策定事業を平成12年度に行い、平成13年度～平成15年度を実施期間とした。

社南地区では、アンケート調査を実施して次の５項目の実行プランを策定した。

☆社南地区委員会実行プランの策定（平成13年度）

Ⅰ．環境プラン

地区の生活環境と環境美化の向上をめざす

Ⅱ．教育プラン

地区の青少年育成と環境浄化の充実をめざす

Ⅲ. 福祉プラン

高齢社会におけるお年寄りとのふれあい、そしていきいき健康づくりを推進をする。

Ⅳ. 地域文化プラン

地区の伝統文化の継承と確立をめざす。

Ⅴ. 防災プラン

地区の緊急時の災害に備えた力強いまちづくりをめざす。

尚、夢プラン事業に合わせ、社南21世紀憲章を作成した。

☆社南地区21世紀憲章の制定（平成13年度）

社南地区では21世紀わがまち夢プラン事業に合わせ、社南21世紀憲章を制定した。

社 南 地 区 21 世 紀 憲 章

わたくしたちは、先人の功績に感謝し、共に学び合い、助け合い、喜び合いながら、「和」と「汗」を尊び、いきいき、のびのびと豊かで活気あるまちづくりをめざします。

［1］わたくしたちは、社南に住んでいることに
「誇り」と「愛着」をもち清潔で美しい環境のまちづくりに取りくみます

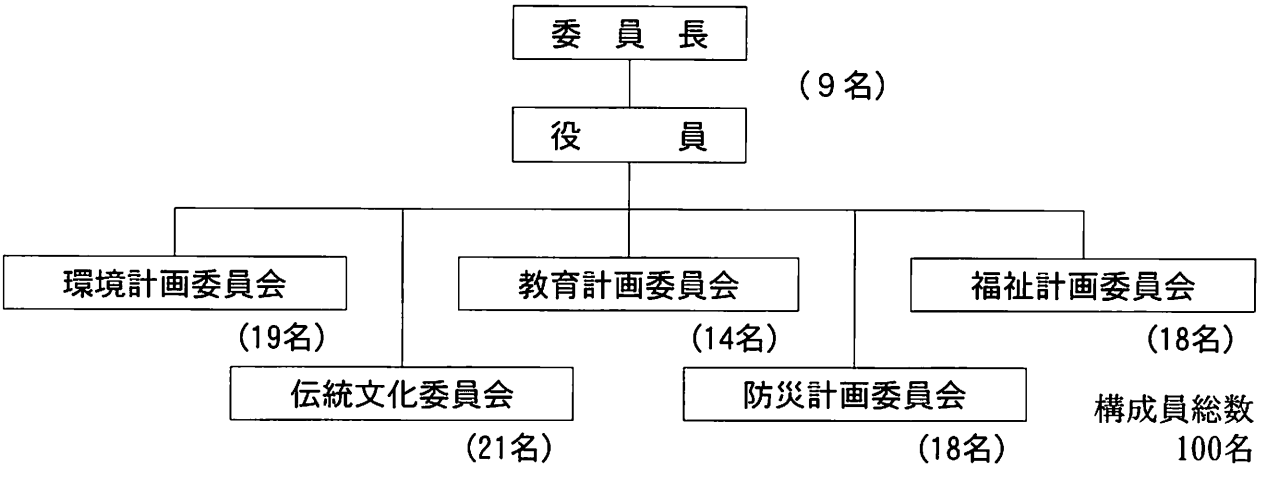
［2］わたくしたちは、社南に住んでいることに
「思いやり」と「感謝の心」をもち子供たちの健やかな育成、お年寄りに優しい健全なまちづくりに取りくみます

［3］わたくしたちは、社南に住んでいることに
「英知」と「学びの心」をもち地区の伝統、文化を大切にし、清新な文化のまちづくりに取りくみます

［4］わたくしたちは、社南に住んでいることに
「勇気」と「助け合いの心」をもち災害や非常時に備えた、力強いまちづくりに取りくみます

［5］わたくしたちは、社南に住んでいることに
「信頼」と「責任」の精神をもち明るく快適な、住みよいまちづくりに取りくみます

組　織　　**【21世紀わがまち夢プラン社南地区委員会】**



事業内容

Ⅰ．環境計画委員会

・年４回の街路樹下の清掃や花植え運動
　過去６年あまりの継続事業（400～500名、小・中学生も参加）
・年２回の環境学習会「広げよう家庭環境ＩＳＯ」施設見学も実施
・子供たちへの環境にやさしい活動体験作文コンクール
・ゴミカレンダーの作成
・狐川を美しくする活動
・花･土つくりの講習会「プランター植えの基本」
・花壇コンクール実施
・三世代クリーン作戦実施
・花咲く里づくり



三世代クリーン作戦

Ⅱ．教育計画委員会

・青少年育成カレンダー全戸配布（年１回）
　過去５年あまりの継続事業
・年２回の地域環境点検（80ヵ所）
　地域の人達、警察の方、市少年課、小・中学校校長先生にも参加依頼
・青少年育成子供会の組織強化
・教育計画委員会「学校五日制について」
　ＰＴＡ・育成会・学校長にも出席依頼
・学校五日制にともなうボランティア募集
・講演会「大人が変われば子供も変わる」
・かけこみどころ調査継続
・こども広場　　雪像づくり

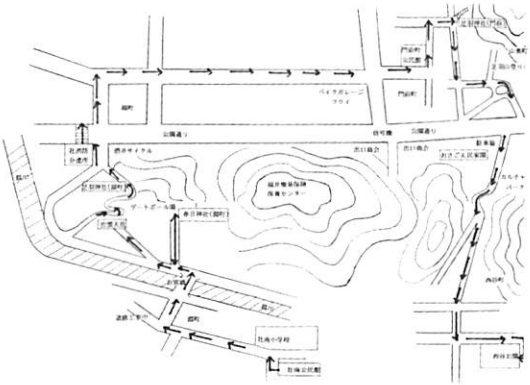
宣　誓

掛け替えの無い地球。
掛け替えの無い私たちの地域、社南。
私たちはこの地域に住んでいる事に誇りと
責任を感じ､みどり豊かな花咲く古里づくりを
目指して、空き缶の投げ捨てや
ゴミの散らかしは、絶対いたしません。
また、そのような行為を見たときは
進んで注意をうながすことを誓います。

クリーン作戦誓いのことば

Ⅲ．福祉計画委員会

親子ふれあいウォークラリー大会（400名参加）



ウォークラリーコース地図

・夏休み親子ラジオ体操(約1,200名参加)
・お年寄りとのふれあい広場
　(高齢者、子供 45名参加)
・敬老の日のお祝いはがきと激励のはがきを送付
・雪かきボランティア募集（38名 登録）
・雪かきボランティア活動
　(36名 延べ126回)

Ⅳ. 伝統文化委員会

・委員が地域の徹底した文化の聞き込み、洗い出し調査に入り写真撮影や資料の収集を始める。
・地区変遷誌とビデオの収録
・地区伝統文化のスライド及びビデオ収録
・地区変遷誌の写真撮影や資料の収集
・地区変遷誌の発刊に向けての校正
・地区誌タイトル『ときをこえて』



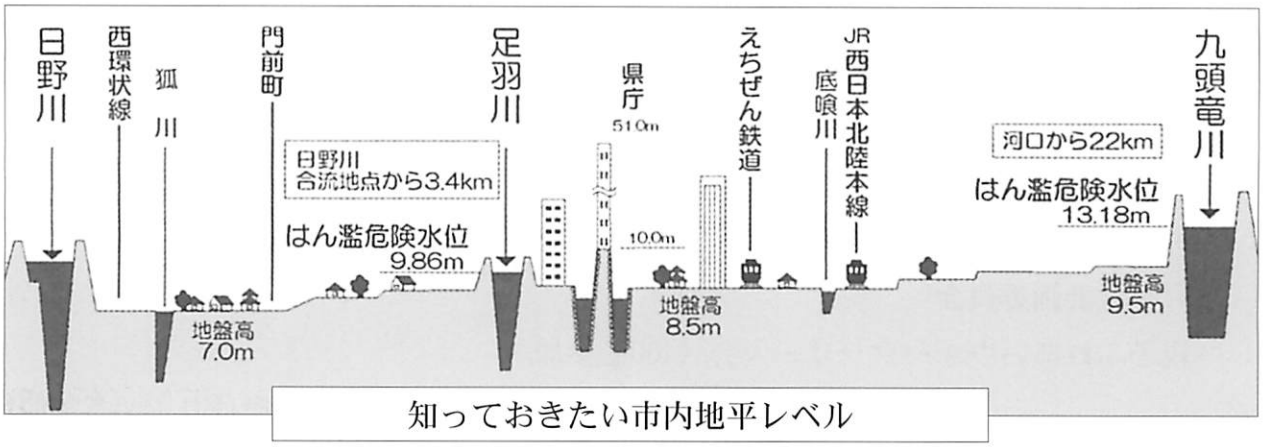
ふれあい広場

Ⅴ. 防災計画委員会



消火訓練

・地域の防災訓練
　一時避難所に集合してもらう
　（約1,000名参加）
・防災マップ作製（全戸配布）
・災害対策10ケ条のパンフ配布
　（親子ラジオ体操時参加者に配布）



知っておきたい市内地平レベル

この事業の３年間の総事業費、525万円。そのうち福井市補助金 360万円、地区負担金や事業所協賛金 165万円。

住みたくなるまちづくり全国交流大会（平成16年度）

趣　旨

社会が成熟し、人々の価値観が多元化する中で、住民が真の豊かさを実感できるまちづくりを進めるため、地域分権の理念である住民自らの創意工夫と主体性が最大限に発揮できる社会を構築していく必要があり、交通網や情報通信技術による生活圏の広域化と共に、間近にせまった市町村合併による新たな地域コミュニティに対応する魅力あるまちづくりが望まれた。

そのためには、住民が「我々は地域コミュニティの主人公である」との認識のもと、福井市は10年間の成果をもとに「交流活動プラン」を設定のうえ、県外のまちづくり団体を招致し、実際のまちを会場として、参加体験型の交流事業、地域間のまちづくりの実践者同士が本音で語り合う交流事業を推進した。この事業は一過性ではなく、今後の継続的・発展的なまちづくりネットワークの構築を目指すものであった。

事業内容

社南地区としては、「環境及び教育事業を通して」ということで、静岡県磐田市の田原公民館の「田原をよくする会」と公民館交流を計画した。

交流内容は次の様なものであった。平成16年10月９日には、「田原をよくする会」の指導を受け、黒米を原料にした「古代黒米紫もち」つくりや、地域の小学生から大人まで参加し「浮き書」という創作立体書画工芸品作りに挑戦した。

また社南公民館からは手打ちそば作りや豚汁・おにぎりなどでおもてなしをした。社南地区の紹介は公民館まつりの展示物で紹介した。その他に、両地区の郷土芸能の交換会も行われた。

交流会議ではお互いのまちづくり自慢や現在、地区で抱えている問題などを語り合いました。その後、席を移し夜なべ談義を開催し、お互いの親交をより深め合った。翌日には、地区内や福井市内を視察見学し解散した。



田原公民館との交流事業



田原公民館の活動をパネルで紹介



歓迎会



古代黒米紫もち作り



両地区の郷土芸能の交換会

交流事業を終えて

全国交流大会として、Jリーグで有名な磐田市田原公民館から市会議員、市職員を含め25名が社南を来訪された。どの人も人情味あふれる地元好きの人達で、里山、トンボ生息の種類は日本一、立地条件を生かしせせらぎの聞こえる町・水車の廻るまち作りで中学生たちと一緒に水車作りをした話等をお聞きして話はいつまでも魅力あるものでした。今回この田原地区と交流を行ってよかったと実感した。お互いのまちづくりの自慢や抱えている問題を語り合い、その中で、今後のまちづくりの指標が見えてきたことは、私たちにとってたいへんな財産となり、この交流大会を開催した意義と成果があったと思う。

この地区とは今後もずっと交流を続けて行きたいとの思いに駆られた。

社南地区の文化をよりよく理解していただくために、公民館祭りと共催した事によって予想以上に全国交流大会は成果をあげ、また公民館祭りも充実したものになった。

この全国交流大会の総事業費103万円。そのうち福井市補助金91万円、地区負担金や事業所協賛金12万円。別に、前年度で全国交流計画策定事務費支援費として福井市より７万円。

・その他 特記

７月18日(日)の朝に行われたラジオ体操は未明からの雨の為、小学校の体育館で行なわれた。ラジオ体操中にも雨はだんだん激しくなり、早々に解散した。午前８時ごろには雨は落ち着いたが、午後１時半過ぎに福井市中心部の足羽川堤防左岸が決壊し、木田・みのり地区は、床上浸水となった。この社地区も門前・若杉において被害を受けた。この災害名が、「福井豪雨」と名付けられた。

初夏の６月に私達は、全国交流大会に先立って、磐田周辺の文化と人情にふれて、まちづくりの参考にしようと田原公民館に研修に行きましたが、豪雨後には、田原公民館の「田原をよくする会」の皆さんからは、お見舞いの言葉をたくさんいただきました。

また、福井での全国交流大会のときには、関東・東海地方の太平洋沿岸地域では、台風22号が接近していて、地元地区のことが気がかりの中での出発だったろうと推察されたが、それでもたくさんの方が参加してくださり、人情の深さを痛感した。

夢・創造事業（平成17年度～18年度）

趣　　旨

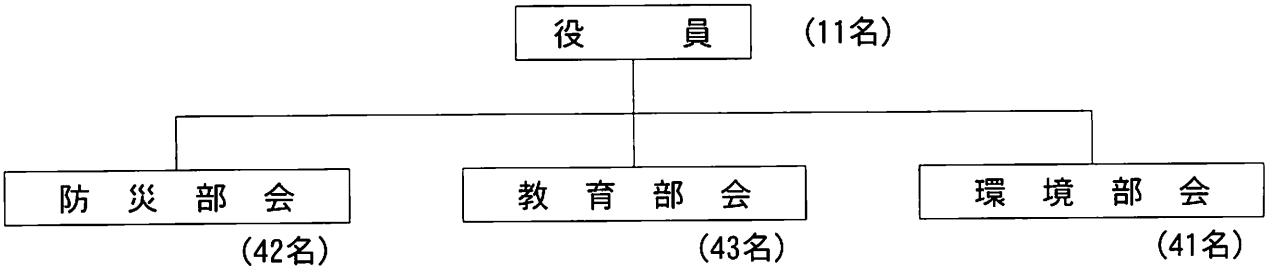
本事業は、歴史、文化、自然など地域資源を活かしながら住民自らが企画提案し、自主的に取り組むまちづくり活動を推進することを目的とし、これに福井市が支援する事業である。

当地区は、新夢モデルプランコースでは「防災事業」、夢プラン推進コースでは「教育・環境事業」、はばたき交流コースでは「他市まちづくり団体との交流事業」の三つのコースの事業を実施した。

組　　織

本事業を推進するにあたり、平成17年４月に自治会連合会と各種団体を中心として、新たに「社南未来委員会」を設立した。

【社南未来委員会 組織図】



(委員総数 137名)

事業内容

本事業は、防災部会、教育部会、環境部会の３部会に分かれて実施した。

なお、はばたき交流事業は、未来委員会全体に関わる事業として、委員会の役員を中心に実施した。

(1)防災事業

防災部会

①広報部会……住民アンケート、広報誌の発行など

②住民安全部会……要援護者支援事業、住民防災研修など

③地域安全部会……防災訓練、自主防災組織育成、ハザードマップ作成・全戸配布など

④環境整備部会……地域調査、災害協力協定推進など

以上の他、全部会で防災に関する研修会、ワークショップ等も実施した。

2年間の防災事業の総事業費は334万円。その内、市補助金280万円、地区負担金は54万円。

(2)教育・環境事業

①教育部会

1．トークウォークラリー

地区内の名所、旧跡を巡り・学ぶトークウォークラリーを、平成17年９月と平成18年６月に各１回開催した。

参加人数は２年間の合計で、親子づれなど約200人の参加を得た。

2．親子ふれあいラジオ体操

夏休み間近の休日に、親子揃って社南小学校に集い、地域の人たちとの交流を深めながら、親子ふれあいララジオ体操を行った。

参加人数は２年間の合計で、約1,500人であった。

3．敬老の日お祝いハガキの発送

敬老の日を前に、社南小学校児童が地区内の75才以上のお年寄りの方々に、長寿のお祝いハガキを送るもので、２年間で合計1,476名の方に送付した。

4．子ども見守り隊の強化

子どもたちの登下校時の安全と安心を、地域の中から見守ろうとの趣旨で、自治会、婦人会、老人会、社南小学校ＰＴＡを中心にして、子ども見守り隊を結成し見守り活動を実施した。隊員数は平成18年度末で92名である。



三世代で雪と遊ぼう

5．三世代で雪と遊ぼう！エンジョイサイエンス

三世代が自然に親しみ、楽しみながら科学を学ぶため、平成17年度、18年度とも１月末の土曜日に実施した。参加者は、２年間で約500名であった。

②環境部会

1．花・土づくり講習会と花壇コンクール

地区内の花づくり推進のため、平成20年７月と21年５月に各１回、市・園芸センター職員を講師を招き、公民館において講習会を開催した。参加者は、２年間で137名であった。

また、この講習会を踏まえて、９月に花壇コンクール（プランター植えを含む。）を実施し、現地審査のうえ個人の部、団体の部ごとに、金賞１、銀賞２、銅賞３を決定し、秋の公民館まつりで表彰した。

コンクールへの参加者数は、２年間で個人・団体を合わせ29であった。

2．環境にやさしい活動体験作文の募集

子供たちの環境に関する意識向上と、実践活動の推進をねらいとして、社南小学校４年生以上と、至民中学校１・２年生を対象に本事業を実施した。２年間の

応募者総数は、517名であった。応募作文は審査のうえ、小・中学校ともに最優秀賞１、優秀賞３、努力賞５をそれぞれ決定し、秋の公民館まつりで表彰した。

３．三世代クリーン作戦

本事業は、壮年会が平成６年度に始めた事業であるが、爾来これを地区の主要事業の一つとして、毎年10月の第１日曜日、早朝６時30分から地区内主要道路を６コースに分け清掃活動を行っている。毎年この日に実施している理由は、同日に開催される「福井マラソン」で、当地区内(公園通り：門前1丁目～福1丁目～渕2丁目)を気持ちよく走ってもらおうとの地区民の思いを込めているためである。

参加者総数は、社南小学校児童、至民中学校生徒、自治会、壮年会、老人会など各種団体から、２年間で約650名であった。

４．環境学習会

身近な生活の中の環境問題を学ぶために、平成17年11月に、二日市リサイクルセンター及び、市・クリンセンターの視察と、市・家庭版環境ＩＳＯ「ムダ一掃ファミリープラン」の学習を行った。参加者数は70名であった。

５．江端川フラワーロード推進事業

平成20年４月の至民中学校の新設・開校を前に、江端川堤防を菜の花が咲く「江端川フラワーロード」にしようとの希望を掲げ、平成17年４月から事業計画の検討を行い、10月上旬に初めて種まきを行った。



「江端川フラワーロード」菜の花の種まき

平成18年６月に初めての菜の花の種回収作業、９月には名田庄村で開催された「菜の花交流会」へ参加、10月には２回目の種まきを至民中学生80名の協力を得て実施した。

以上の、教育・環境事業の２年間の総事業費は、202.7万円。その内、市補助金130万円、地区負担金は、72.7万円。

(3)はばたき交流事業

平成17年度は、９月に人づくりをテーマに、「名古屋市日吉学区防災安心まちづくり委員会」と名古屋市中村区日吉コミュニティセンターに於いて、意見交換などを行い交流を図った。当地区の参加者は、18名であった。

平成18年度は、11月に「まちづくり」をテーマに、鈴鹿市白子地区市民センターに於いて、「鈴鹿市白子地区まちづくりネットワーク」と交流した。当地区の参加者は、16名であった。

このはばたき交流事業の総事業費は、51.3万円。その内、市補助金35.8万円、地区負担金は15.5万円。

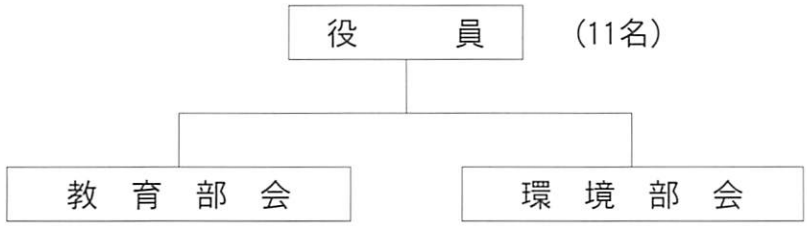
誇りと夢・わがまち創造事業（平成19年度～21年度）

趣　　旨

本事業は、前年度まで実施した夢・創造事業（以下、「前期事業」という。）を見直し、地区の特色を活かした住民主体のまちづくり・他団体との協働によるまちづくりをキーワードとして、歴史、文化、自然など地域資源を活かした住民主体のまちづくり活動を推進することを目的とし、これに市が支援する事業である。

当地区においては、夢プラン推進コースでは「教育・環境事業」、はばたき　交流コースでは「他市まちづくり団体との交流事業」の二つのコースの事業を実施した。

組　　織　　【社南未来委員会 組織図】



事業内容

教育・環境事業は、教育部会、環境部会の２部会に分かれて実施した。

また、はばたき交流事業は、前年度までと同じく未来委員会全体に関わる事業として、委員会の役員を中心に実施した。

(1)教育・環境事業

①教育部会

１．城山（南居）探検＆バーベQとチャレンジ城山

城山（南居）探検＆バーベQは平成19年度、チャレンジ城山は平成20年度と21年度に、いずれも６月に実施した。城山（202m）は、当地区（南居･合谷地域）と清明地区の境界に位置している。本事業は、城山登山を通じて地区の自然に親しむことを目的とした。参加者数は、親子づれ等３年間の合計で約400名であった。


城山登山

２．親子ふれあいラジオ体操

前期事業からの継続である。会場も同じく社南小学校で、夏休み直近の日曜日に開催した。参加者数は、３年間の合計で約1,600名であった。

3．子ども見守り隊の強化

前期事業からの継続である。アンケート調査や交通安全看板設置等の事業を実施し、平成19年度で終了した。

平成19年度末の子ども見守り隊の隊員数は、116名であった。

4．各青少年団意見交換会

平成20年度に各種団体との意見交換会を４回開催するとともに、校区内の南っ子危険マップを作製した。

5．エンジョイランニング

平成21年９月13日(日)、福井県営陸上競技場サブグランドに於いて子供たち約80名参加のもと、正しい走り方などを学ぶ、エンジョイランニングを実施した。



エンジョイランニング

6．敬老の日お祝いハガキの発送

前期事業からの継続である。敬老の日を前に社南小学校児童が、地区内の75才以上のお年寄りの方々に、長寿のお祝いハガキを送るもので、３年間で、合計2,526名の方々に送付した。

7．三世代で雪と遊ぼう！＆エンジョイサイエンス

前期事業からの継続である。１月25日(土)、社南小学校で子供からお年寄りまで約200名の参加のもと、科学実験を取り入れた遊びで楽しんだ。しかし、この事業は、毎年降雪量が少なくなってきたため、平成19年度で終了した。

8．三世代交流会

平成20年度は２月１日(日)、21年度は１月27日(土)に飛行機づくり等の工作や簡単な科学実験を行い、子どもたちを中心に三世代が楽しく交流した。参加者は２年間で約350名であった。

②環境部会

1．花・土づくり講習会と花壇コンクール

前期事業からの継続である。花・土づくり講習会を、平成19年度は１回、20年度と21年度は５月と11月の２回、市・園芸センター職員を講師に招き、公民館において開催した。参加者数は、３年間で約300名であった。

この講習会を踏まえ、花壇コンクール（プランター植えを含む。）を実施した。コンクールの現地審査を平成19年度は８月下旬に１回、20年度は７月上旬と８月下旬の２回、21年度は６月中旬と８月下旬の２回、それぞれ実施した。審査により個人の部、団体の部ごとに、金賞１、銀賞２、銅賞３を決定し、秋の公民館まつりで表彰した。

コンクールへの参加者数は、３年間で個人・団体を合わせ35であった。

２．環境にやさしい活動体験作文の募集

前期事業からの継続である。子供たちの環境に関する意識向上と、実践活動の推進をねらいとして、社南小学校４年生以上と、至民中学校１・２年生を対象にこの事業を実施した。３年間の応募者総数は、451名であった。応募作文は審査のうえ、小・中学校ともに最優秀賞１、優秀賞３、努力賞５をそれぞれ決定し、秋の公民館まつりで表彰した。

３．三世代クリーン作戦

前期事業からの継続である。この事業は毎年10月の第１日曜日、早朝６時30分から地区内の主要道路を６コースに分けて清掃活動を行っているものである。参加団体は、社南小学校児童、至民中学校生徒、自治会、壮年会、老人会など各種団体で、参加者数は３年間で約610名であった。



三世代クリーン作戦

４．江端川フラワーロード推進事業

前期事業からの継続である。平成19年度、20年度とも９月に至民中学校生徒約100名の協力を得て、菜の花の種まきを行った。また、東安居地区の菜の花サミットへの参加等のほか、先進地域との交流も図った。

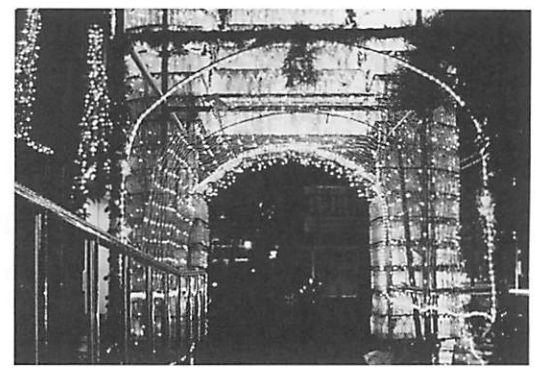
なお、本事業については、平成17年度から、市・園芸センターの指導や、東安居地区、至民中学校、及び関係自治会等の支援、協力を得て鋭意努力してきたが、江端川堤防の土質が菜の花の生育に適さず、平成20年度でやむなく終了した。

５．エコ学習会

平成21年11月８日(日)に、ＮＰＯ法人エコプラン福井の吉川守秋氏を講師に迎え、「私たちの生活と地球温暖化」と題し、公民館において環境講演会を開催した。参加者数は約50名であった。

(2)共通事業

未来委員会の部会共通事業として、平成20年11月30日(日)、社南公民館駐車場を会場とし、「クリスマスカーニバル」を開催。イルミネーション点灯式、模擬店の出店、ベリーダンス等を行った。以上の、教育・環境事業、及び共通事業の３年間の総事業費は、340万円。その内、市補助金150万円、地区負担金は190万円。



イルミネーション

(3)はばたき交流事業

前期事業からの継続である。平成19年度は９月29日(土)に、お互いのまちづくりに対する問題点をテーマに、静岡県磐田市田原公民館に於いて、「磐田市田原をよくする会」と交流した。当地区の参加者は、10名であった。

平成20年度は11月22日(土)にまちづくり事業の内容や問題点をテーマに、愛知県瀬戸市山口公民館に於いて、「瀬戸市山口地域まちづくり協議会」と交流した。当地区の参加者は、19名であった。

このはばたき交流事業の総事業費は53.9万円であった。その内、市補助金は43.8万円、地区負担金は10.1万円。

社南地区自主防災会連絡協議会

設立年月日　平成18年３月

会　員　数　60名（平成22年４月現在）

沿革・目的

平成16年７月　福井豪雨。この災害により、当地区においても床上浸水などの被害が発生した。また、福井震災以来約60年が経過し住民の防災に対する意識の低下が見受けられること、さらに近年地域での連帯意識が希薄化していることから、自治会連合会、地区内の各団体、ＮＰＯ法人などの多様な団体による新たな活動に取組むこととなり、平成17年に組織された「社南未来委員会」において、市が創設した地区まちづくり活動を支援する「夢・創造事業」の一環として、従来取組んできた「教育、環境」活動に、新たに「防災」をテーマとする活動を加え取組んできたところであり、この活動が連絡協議会の前身となっている。

一方、平成７年１月の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）により、大災害発生時においては、行政活動（消火、救出、救助など）が機能しないことが分かったことから、全国的に、基本的には自分が備える「自助」、さらに、個人や家族での備えには限界があることから、地域の中で隣近所が協力しあい、消火や救助などを助け合う仕組み、「共助」の構築に向けた取組みが行われているところである。

こうした流れを受け、平成18年３月、防災活動をさらに充実・継続した取組みとするため、新たな組織「社南地区自主防災会連絡協議会」を発足し、現在、３期目の活動に取組んでいるところである。

なお、今期（３期）からは、活動の軸足を、連絡協議会としての活動から、各自主防災会活動の活性に向けた啓発・支援に取組んでいる。

主な活動経過

第１期（平成17～18年度）

広報部（アンケート）、環境整備部（防災マップ作製）、住民安全部（自主防災組織研修）、地域安全部（避難訓練）の４部会による活動を実施。

活動経費については、市の「夢・創造事業」モデル事業に選ばれたことから主に補助金を充当していたが、継続した防災活動に取組むため、平成18年度より、地区住民の方に、新たに防災会費（150円/年・世帯）を負担してもらうこととなった。

平成17年度	17/6～7	ワークショップ（延４回）開催
	18/1/14	第１回住民防災研修会（福自治会）
	18/3/12	防災本部設置及び避難所開設訓練（参加者 170名）
	18/3/16	自主防災会連絡協議会設立
平成18年度	18/6～19/2	住民防災研修事業（３回）
	18/6～19/2	自主防災組織育成事業（渕自治会他13自治会）
	18/8	要援護者手上げ調査（登録者300人）
	18/11/19	避難誘導訓練及び防災訓練を社南小学校校庭で実施（参加者約 1,000名）
	18/12/下旬	全自治会加入世帯にハザードマップ配布（約 3,200世帯）

第２期（平成19～20年度）

総務部（広報活動）、住民部（要援護者支援活動）、地域部（防災訓練）の３部会による活動を実施。

今期より、市のまちづくり補助の対象事業でなくなったことから、防災会費を「300円/年・世帯」とし、新たに「自主防災連絡協議会活動補助」を活用することとした。

平成19年度	19/6～19/11	住民防災研修事業（新門前自治会他８自治会）
	19/11/18	防災訓練実施（会場；社北五号公園、社南小学校、南居コミュニティセンター、参加者 1,353人）
	19/6～20/2	自主防災組織育成研修会（４回）
平成20年度	20/4～21/3	自主防災組織育成研修会（４回）
	20/6/28	避難訓練及び防災訓練実施
	20/8～20/9	要援護者支援プランの更新

第３期（平成21～22年度）

自主防災会活動支援、意識啓発・広報活動の２班体制による活動に、社南防災アマ無線クラブとの連携による活動を実施。

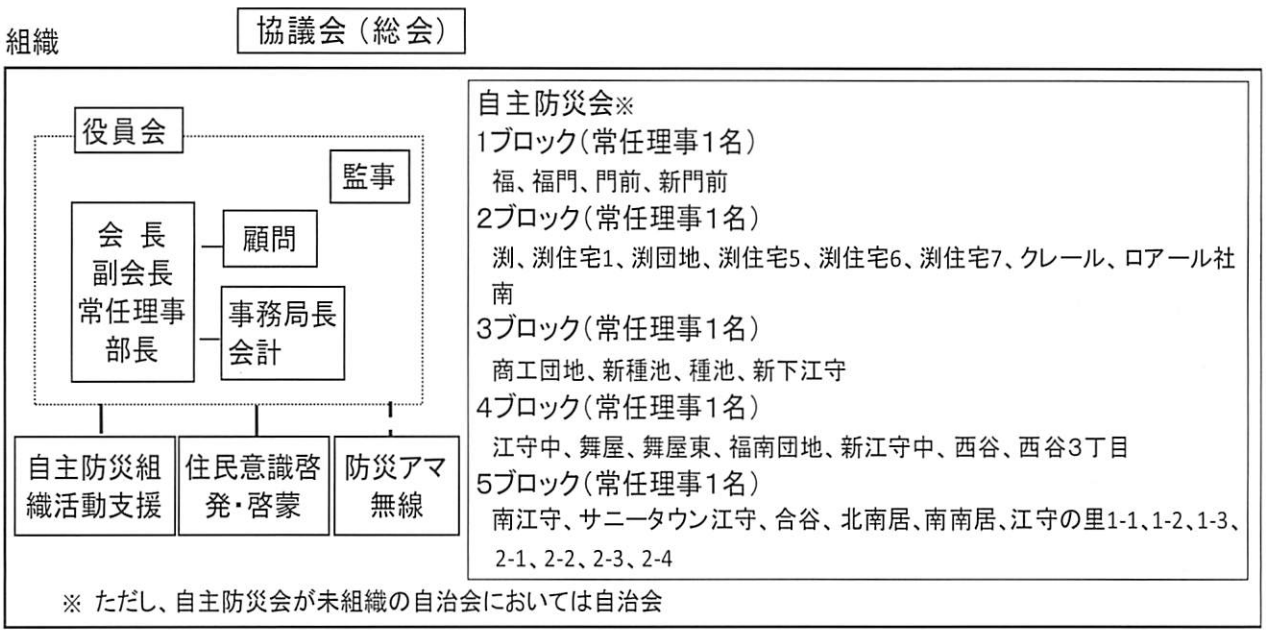
今期より、各自主防災会単位での活動を支援するため、地区独自での補助制度を創設するとともに、住宅用火災警報器などのあっせん事業を実施している。

平成21年度	21/6/28	各自主防災会による１次避難所避難訓練及び社南防災アマ無線クラブとの共同による情報伝達訓練
	21/8/30	防災マップコンテスト参加（※防災デザイン賞受賞）
	21/9～21/11	防災器具（煙探知機、消火器）のあっせん
	22/2/4	新自主防災会長研修会
平成22年度	22/6/27	各自主防災会による１次避難所避難訓練及び社南防災アマ無線クラブとの共同による情報伝達訓練
	22/6～	災害発生時に設置する地区災害対策本部において、特に重要な分野での対策（課題及び対応策）について検討を始める。

現在の組織体制

平成21年度　社南地区自主防災会連絡協議会

組織



※ ただし、自主防災会が未組織の自治会においては自治会

主な活動写真



ワークショップ（H17/6月）



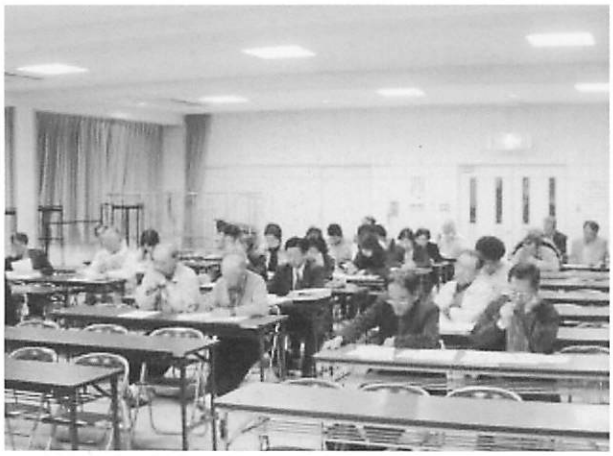
防災本部設置等訓練（H18/3月）



自主防災組織育成研修会



避難誘導訓練及び防災訓練（H18/11月）



避難支援プラン(避難カルテ)作成研修



防災訓練（H19/6月）



防災訓練（H20/6月）



防災訓練及び情報伝達訓練（H21/6月）

ひ・と・こ・と

３期６年にわたり、活動を行ってきたことにより、一部ではあるが自主防災会における防災活動が活発化しているところです。しかしながら、地区全体の防災意識が十分高まったとは言えないものと思っていることから、今後とも、各自主防災会活動の支援や地区住民の防災意識啓発のための支援を継続していく予定です。

社南地区防災アマ無線クラブ

設立年月日　　平成20年６月25日

会　員　数　　40名（平成22年４月現在）

沿革・目的

本地区の、防災訓練では数年前まで携帯電話を利用し避難所等の情報の収集を行っていたが、実際に大規模災害が発生すると近年2007年(平成19年)７月に発生した新潟県中越沖地震に見られるように、ライフラインは遮断され当然、有線電話や携帯電話は通信不能が想定される。これらの弱点を解決するための方法として、有線電話が不通になっとき非常通信が可能となるアマチュア無線に着目し、同地区内在住のアマチュア無線愛好家に社会貢献分野(防災)で協力してほしいとボランティアを募り活動をスタートした。

代表者名　　会長　山　田　健　治

組織体制

会　　長	１名
副 会 長	２名
事務局長	１名
監　　事	１名
正　　員	40名

（2010年９月現在）



社南地区防災アマ無線クラブ会員（H22.8.28）

活動内容（立ち上げの活動）

地区の自主防災会連絡協議会の広報紙にて地区内在住のアマチュア無線愛好家に災害時非常通信のボランティア協力を求める募集を実施した。

その結果、19名の地区在住のアマチュア無線愛好家の協力が得られた。

その後、地区住民14名から、新たにアマチュア無線従事者免許を取得し、この活動に協力したいとの申し出があり、その14名全員が見事、アマチュア無線従事者免許を取得し、この活動に加わることとなった。

総務省北陸総合通信局に名称「社南地区防災アマ無線クラブ」の社団局を申請し、通信の呼び出し符号「ＪＨ９ＹＷＡ」が附与された。早速、地区公民館である社南公民館に、バッテリー電源をもつ移動可能アマチュア無線の基地局を開局した。その後、会員数33名をもって「社南地区防災アマ無線クラブ」設立総会を開催し、地域住民にその発足を知らせるとともに本格的に地域の防災アマ無線活動を開始した。

(訓練と特徴的活動)

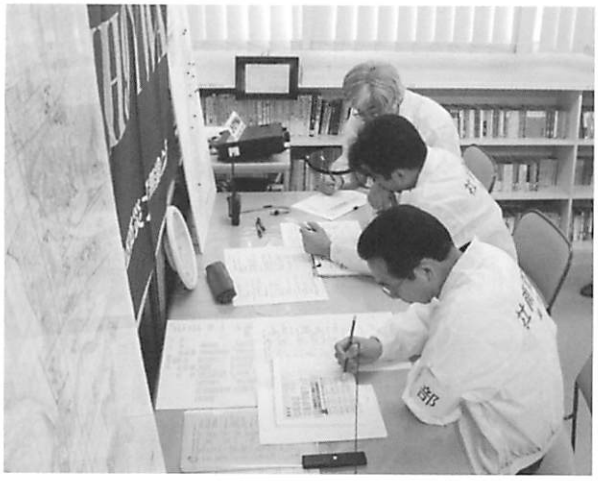
社南地区の防災訓練には、発災後即時に「社南地区防災アマ無線クラブ」呼出符号（ＪＨ９ＹＷＡ）が基地局として、社南公民館及び至民中学校において開局し、地区内

全域をカバーする通信網体制が確立されている。毎年防災訓練ではクラブが災害情報伝達部門を担当しその情報伝達の電波伝搬状況を確認している。常に大規模災害時を想定し、基地局以外は住宅固定無線局、モービル無線局の利用は禁止し、会員全員がハンディ無線機を携行し、情報収集の機動性を重視した訓練を実施している。

災害発生時の行動計画は「発災行動・運用マニュアル」に従って行動するように各自に行動マニュアルが指示されている。また、災害現場の位置情報は住所や番地では報告せず、独自考案した方法で報告する。地区全域地図に100mの升目を入れ、地図の横軸（X軸）に英字、縦軸（Y軸）に数字が入った「社南地区災害時情報マップ」で、そのXY座標交点で位置を報告し、災害等の地点を瞬時に特定することができる独特な位置情報伝達の方法を用いている。

また、毎月の第二木曜日は社南公民館基地局からの月例 通信訓練（ロールコール）が実施されており いざという不測の災害に、各自がとっさに無線機を携行し機敏に対応できるように日頃から通信訓練が行なわれている。

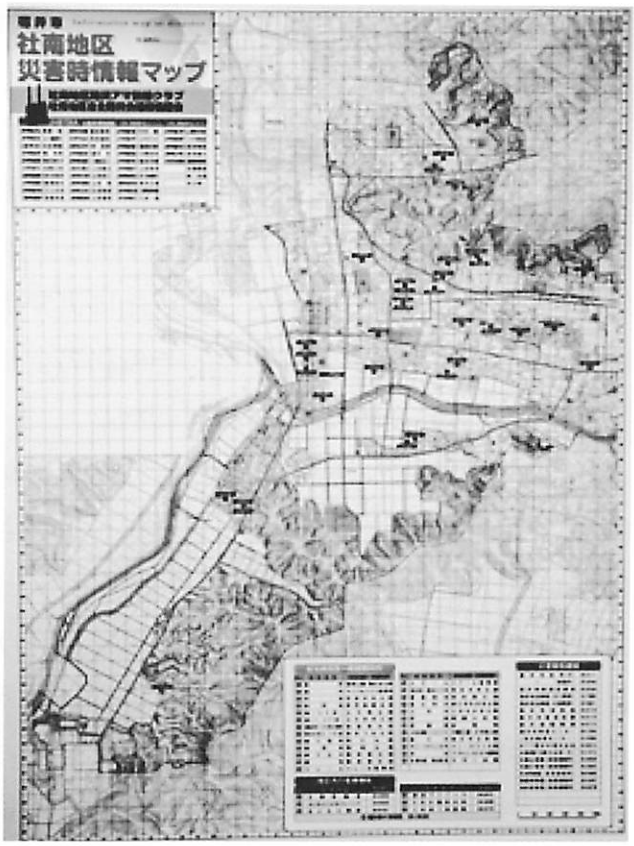
その他、この活動は多人数での活動が情報伝達の情報量が高まるので、既に局免許を有している地区内の潜在的無線従事者の発掘や新規会員による増員にも努めている。



防災情報通信訓練　H21. 6. 28



総会・技術講習会　H20. 2. 11



社南地区災害情報マップ

（クラブの沿革）

平成20年２月14日　災害時通信にアマチュア無線導入を決定する
平成20年２月20日　地区民に無線協力者の募集　19名の協力者あり
平成20年５月29日　北陸総合通信局に社団局の申請
平成20年６月25日　「社南地区防災アマ無線クラブ」ＪＨ９ＹＷＡが北陸総合通信局より認可される
平成20年７月26日　アマ無線従事者取得者の新規入会　14名入会
平成20年９月３日　「社南地区防災アマ無線クラブ」設立総会（会員総数３３名）
於：社南公民館
平成20年９月12日　アマ無線開局申請書手続き講習会
平成20年９月11日　会員アマチュア無線技術講習会
平成20年11月２日　社南公民館まつり　クラブ活動展示公開
平成20年11月８日　「あじさいトーク」を開催
東村福井市長を囲んでのざぶとん座談会
平成21年２月11日　ＪＨ９ＹＷＡ平成20年度　臨時総会開催
クラブ定款の一部変更
平成21年６月14日　ＪＨ９ＹＷＡ平成21年度　定期総会開催
平成21年６月28日　平成21年度　社南地区防災訓練参加
平成21年８月30日　第１回防災マップコンテスト参加(防災士会主催)
「防災アイデア賞」受賞　於：アオッサ
平成21年11月１日　社南公民館まつり　クラブ活動展示公開
平成22年２月25日　福井市自主防災組織功労者表彰　福井市庁舎にて受賞式
平成22年３月３日　「防災まちづくり大賞」消防庁長官賞受賞
東京麹町・ルポール麹町にて受賞式
平成22年５月30日　「消防庁長官賞」受賞祝賀会を開催（ＪＡ農協会館）
稲田・山崎国会議員等の多数の来賓臨席
平成22年６月19日　ＪＨ９ＹＷＡ平成21年度　定期総会開催
平成22年６月19日　平成21年度　社南地区防災訓練参加
平成22年７月３日　第一回至民中学校生との交流会開催
平成22年９月２日　「防災功労者内閣総理大臣表彰」受賞
東京永田町・内閣総理大臣官邸にて受賞式
平成22年９月５日　至民中学校文化祭に参画
「電波発信機」制作体験講座を開催

（活動写真）



公民館まつり展示　H20.11.2



至民中学校生との交流会　H22.7.2

表　彰　歴

☆「防災アイデア賞」

第１回ふくい防災マップコンテスト

（福井県防災士会主催）

平成21年８月30日





☆「福井市自主防災組織功労者表彰」

東村新一福井市長より受賞

平成22年２月25日



☆「消防庁長官賞」

第14回防災まちづくり大賞

(財)消防科学総合センター主催

平成22年３月３日



☆「防災功労者内閣総理大臣表彰」

菅直人内閣総理大臣より受賞

平成22年９月１日





ひ・と・こ・と

私たちの新しい形の自主防災の取り組みはまだ産声をあげたばかりです。この取り組みが各関係省庁から高い評価を受けましたが今後、この受賞に恥じないようにクラブ員一丸となりまた、若い世代も仲間に加えて活動を盛り上げ、万が一の不測の事態に私たちの活動が遺憾なく発揮でき減災に繋がることを願い地道に末長く活動を続けていく所存です。

狐川を美しくする会

狐川は、福井市羽水付近を起点とし、市街地を南東から北西へと貫流して福井市角折町付近で日野川に合流する流域面積14.8?、延長約7.8kmの一級河川です。流域には足羽山、八幡山、兎越山など、市街地における貴重な自然を抱える一方で、開発による河川への汚濁負荷の増大や、水源であった農業排水の減少による河川流量の枯渇など、都市河川特有の環境問題を抱えている。

設立年月日　平成元年9月22日

役員数(結成時)　横山新七会長ほか26名（平成22年４月現在）

目的及び事業内容

平成元年2月の社南地区町内連合会の定例会において、運動公園２丁目東町内会から、狐川を美しくする運動（ユスリカ追放）について提案され、９月の定例会で発足した。本会は近年宅地化の増大に伴い、生活排水や工場排水による狐川の汚濁が著しく、またごみの不法投棄等によりユスリカの発生など、河川周辺の環境は次第に悪化しつつある。このため下水道整備事業の促進や魚類の放流、清掃により狐川をより美しくすることを目的とする。(会則第３条)

又、事業としては、①県・市関係機関と連携を密にし、事業の協力と推進を図る。②環境保全のための広報活動に努める。③会員による巡視により、魚の捕獲やごみの投棄を注意し、川の清掃等を行う。

活動内容（３年間）

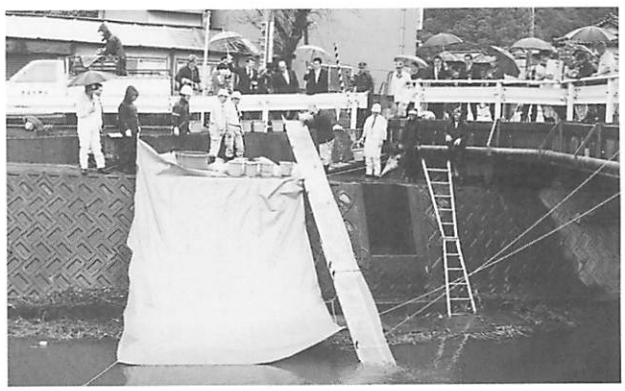
①役員会・総会の開催

②稚魚の放流（新潟産錦鯉）

１回目　2,000匹とドジョウ10kg放流

２回目　3,000匹とドジョウ10kg放流

フェニックスライオンズクラブのご協力をいただいた。



稚魚放流

③企業（酒伊繊維本社）へ工場排水の改善について申入れ

④川を美しくする標語募集（応募81編のうち入選３編）

入選標語（立看板に採用）

・心ない　ごみのポイ捨て　川はなく

・“チョット待て”そのゴミ一つが　汚染源

・とり戻そう　きれいな流れ　皆の手で

⑤社南公民館で記念植樹（さざんかの木）
フェニックスライオンズクラブより多額のご寄付をいただいた。
⑥「狐川を美しく」の看板30本を製作し、狐川沿線へ設置。登り旗80本を沿線自治会へ配布
⑦狐川一斉清掃
⑧チラシを全戸配布
⑨県・市に対して陳情書提出など

新しい「狐川を美しくする会」が発足

平成４年４月１日、従来の会に更に社北・社西両地区を加えて、より充実・発展させるため発足した。冨田一夫会長ほか37名の役員。一地区の会費30,000円

活動内容

①総会・役員会・常任理事会の開催
②20カ所へ登り旗80本（標語入り）でＰＲ（河川愛護月間に併せて）
③狐川堤防（社北地区）に桜植樹（染井吉野20本）フェニックスライオンズより寄贈
④松葉菊の植栽（300株、狐川堤防の桜樹の下へ）
⑤社３地区の狐川の一斉清掃
⑥狐川パトロール
⑦狐川写真展
⑧県・市へ要望（一級河川表示の設置河川敷花壇などの設置ゴミ処理、ドロ上げ等）
⑨広報誌の発行など



登り旗ＰＲ

狐川流域まちづくり協議会

設立年月日　平成15年８月１日

組　　織　木田・豊・社南・社西・社北・東安居地区をもって組織する

役 員 数　野村昭一会長ほか23名（社南地区からは現在、自治会連合会長、公民館運審長、公民館長、地元自治会長の４名が役員となっている）

目的及び事業内容

本会には各地区団体相互の連絡連携をはかり、狐川の環境保全を図るとともに、生態系の再生を進め自然と共生する潤いのあるまちづくりに取り組むことを目的とする。(会則第２条)

又、事業としては

①流域の環境保全・清掃促進に関すること

②団体相互の連絡連携に関すること

③行政・関係機関との連携・協力に関することなど

活動内容

⑩総会・協議会の開催

⑪６地区一斉清掃

⑫サカイオーベックス㈱汚水処理施設見学及び懇談会（役員10名参加）

⑬中心市街地クリーン作戦に参加（役員）

⑭協議会だよりの発行など

狐川流域環境再生行動宣言

一、私たちは川の清流を取り戻すため、
　ゴミなど捨てません
一、私たちは昔のようなトンボ、ホタル
　などの棲める川への再生をめざします
一、私たちは子供たちが遊び、水と親しめる
　川づくりをめざします
一、私たちは川を再生し、新しいまちづくり
　をめざします
一、私たちはそのために、住民・行政・
　専門家と協力してすすめます

以上ここに宣言します。

平成十五年二月十五日

狐川流域まちづくり

フォーラム参加者一同

「水辺の楽校」拠点構想づくり

福井県土木事務所は、地域住民、行政、専門家の協力により狐川における動植物の生育・生息環境を復元するとともに、子どもたちが水辺に近づきやすく・水とふれあえる自然体験の場・環境学習の場として整備を行うために、国土交通省へ申請を行い、平成17年３月に「水辺の楽校プロジェクト」として登録を受けた。

「水辺の楽校」拠点構想づくりについては、ワークショップを立ち上げ、社南小学校６年生15名及び福井高専の学生さん４名による学習会を５回開催し、完成予想模型まで作成することができた。

しかし、事業実施にあたっては国からの予算配分が毎年少なく、河川全体のみお筋形成・低水路工事が完了し、少しでも川の浄化作用が高まってから「水辺の楽校」を整備する予定である。



ワークショップのメンバー



完成予想図